

タチガシワ *Cynanchum magnificum* Nakai

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 30~60cm になる。葉は対生し、茎の上部に集まって数対つき、長さ 2~4cm の柄があり、葉身は広卵形~ややひし状の広楕円形、長さ 10~17cm、幅 7~13cm、先端は急にとがり、基部は円形~やや広くさび形、辺縁は全縁である。花期は 5 月、花は葉が十分展開する前に開花し、茎の先端部にやや密に集まってつき、小花柄は長さ 1~2cm、花冠は緑褐色で直径約 7mm、5 裂し、裂片は先が鈍円頭である。袋果は披針形、長さ 7~15cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武 (芹沢 82846)。1 カ所に生育しているだけである。小原 (井波一雄 s.n., 1959-4, CBM72659) で採集された標本もある。

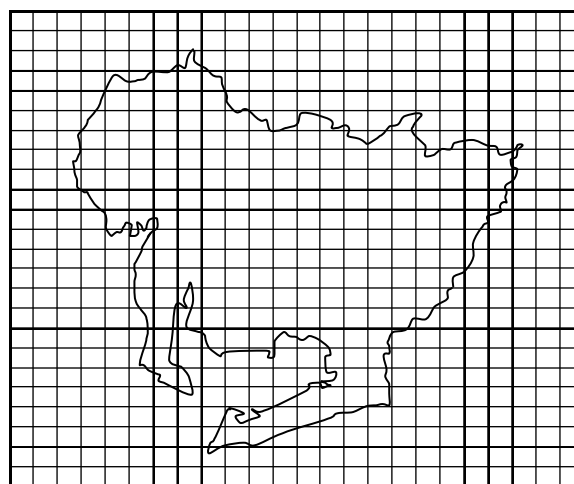
【国内の分布】

本州、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1 つの沢に沿って、数株が生育している。森林の伐採や鉄砲水によって失われる可能性がある。

【保全上の留意点】

生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

他に自生地がないか、更に注意して探索する必要がある。カモメヅル属には希少な種が多く、十分な分類学的検討が行われる前に絶滅状態になってしまったものも少なくない。愛知県でも、豊橋北部産のよくわからない標本 (多米, 恒川敏雄 2491, 1951-7-19, TMNH) がある。小林 (2001) ではとりあえずタチガシワとされているが、再発見が望まれる。

【引用文献】

小林元男, 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.50-52. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.

【関連文献】

保草本 I p.207、平草本Ⅲp.41、SOS 旧版 p.73.

ナガバジュズネノキ

Damnacanthus macrophyllus Sieb. ex Miq. form. *giganteus* (Makino) Yamazaki

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。暖地性の低木で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の低木。高さ 0.7~1.5m になる。根は細長い数珠状に肥厚する。葉は対生し、短い柄があり、葉身は長楕円状披針形~狭楕円形、長さ 7~13cm、幅 2~4cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、辺縁は全縁、両面無毛である。葉の基部には短い刺があることが多いが、ないこともある。花期は 4~5 月、花は枝先または葉腋に出る短い花序に 2 個ずつつき、下向きに咲く。花冠は白色、筒部は長さ約 9mm、先は 4 裂し、裂片は 3 角状卵形で先端がややとがり、長さ約 2mm である。果実は液果で球形、直径 3~5mm、赤熟する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (小林 43419)、鳳来北東部 (小林 50127)、豊橋北部 (小林 55783)、瀬戸尾張旭 (芹沢 82774)。

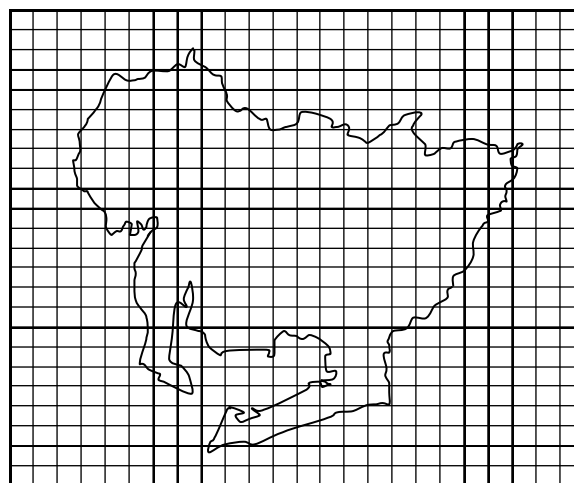
【国内の分布】

本州 (愛知県および静岡県西部以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の照葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

4 区画の各 1 カ所で確認されているだけで、どの場所も個体数は少ない。林床性の低木なので、伐採などにより林が破壊されれば絶滅する可能性が高い。園芸目的で採取されることもある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

アリドオシ類の中では、最も葉が大きい。

【関連文献】

保木本 I p.59、平木本 II p.200、SOS 旧版 p.73。

オオキヌタソウ *Rubia chinensis* Regel et Maack var. *glabrescens* (Nakai) Kitagawa

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 1。大陸系の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。細い地下茎がある。茎は直立し、高さ 30~60cm になる。葉は 4 枚輪生し、長さ 5~20mm の柄があり、葉身は卵形~広披針形、長さ 6~10cm、幅 2~5cm、先端は鋭尖頭、基部は円形、全縁でほとんど無毛である。花期は 5~7 月、茎の先端および葉腋につく集散花序に、まばらに多数の花をつける。花冠は緑白色で直径 3~4mm、4~5 裂し、裂片は卵形である。果実は球形で、黒熟する。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武 (小林 47211)。

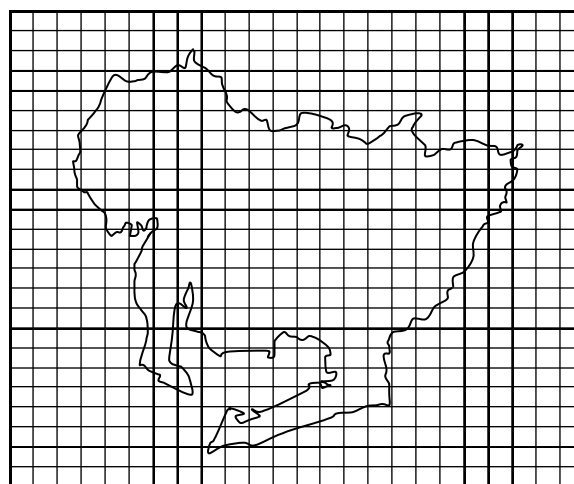
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸 (北部、東北部)。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は明るい落葉広葉樹林内に生育している。愛知県の生育地は造林地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 カ所にごく少数の個体が生育しているという。造林地の管理不足のために光条件が悪化しているらしく、将来の衰退が危惧される。

【保全上の留意点】

生育地の造林地について間伐などの適切な管理を行い、林床の光条件を回復させる必要がある。

【特記事項】

基準変種は茎や葉にやや密に毛があるもので、マンセンオオキヌタソウと呼ばれ、本州中部のほか朝鮮半島、中国大陸、アムール、ウスリーに分布する。

【関連文献】

保草本 I p.108、平草本 III p.51、SOS 旧版 p.74。

ハマネナシカズラ *Cuscuta chinensis* L.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。減少傾向の著しい海浜性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

1年生でつる性の寄生植物。茎は黄色で細く糸状となり、寄主にからみつく。茎上には薄膜質で卵形の鱗片葉がある。花期は 8～10 月、花はマメダオシに似るが、花冠が果実より長く、果実は花冠を被ったままで、その基部を破って大きくなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美（芹沢 78205）。

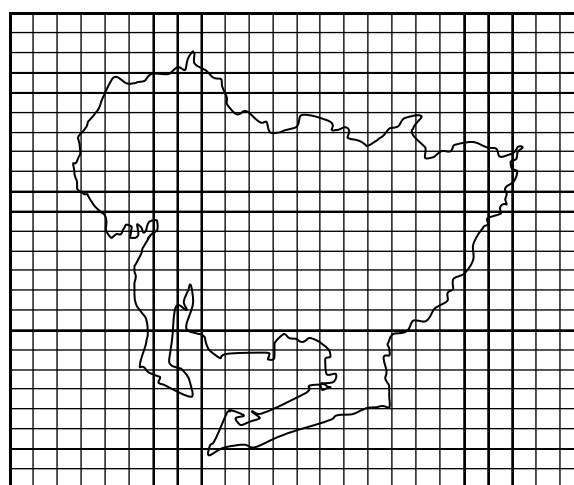
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、中国大陸、東南アジア、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海浜の砂地に生育し、ハマゴウなどに寄生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は極めて少ない。海浜においても近年はアメリカネナシカズラ *C. pentagona* Engelm. が急増しており、ハマゴウに寄生しているものも大部分はアメリカネナシカズラである。しかし、本種とアメリカネナシカズラとの間に直接の競合関係があるかどうかははっきりしない。

【保全上の留意点】

砂浜や砂丘を、本来の状態のまま保全することが必要である。

【特記事項】

花冠が長く、そのため果実の先端に花冠が残存することが特徴である。植物体は鮮黄色で、なれば遠くからでも識別できる。

【関連文献】

保草本Ⅰ p.202、平草本Ⅲ p.58、SOS 旧版 p.74。

スナビキソウ *Messerschmidia sibirica* L.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。海浜性の植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。長い地下茎がある。茎はよく分枝し、高さ 25～30cm、密に圧毛がある。葉は互生し、無柄、葉身はへら形で長さ 2.5～6cm、厚くて両面に圧毛がある。花期は 5～8 月、枝の先に短い集散花序をつける。花柄は短く、花冠は白色、長さ 6～7mm の花筒があり、先は 5 裂して直径約 8mm である。果実はコルク質で、長さ 8mm、幅 5～7mm、先に短い花柱が残存する。

【分布の概要】

【県内の分布】

常滑（芹沢 55136）。1 カ所に生育しているだけである。大原（1971）は県内の産地として常滑のほかに梶島をあげているが、現存は確認できず、確実な資料も残されていない。渥美の記録は誤認らしい。

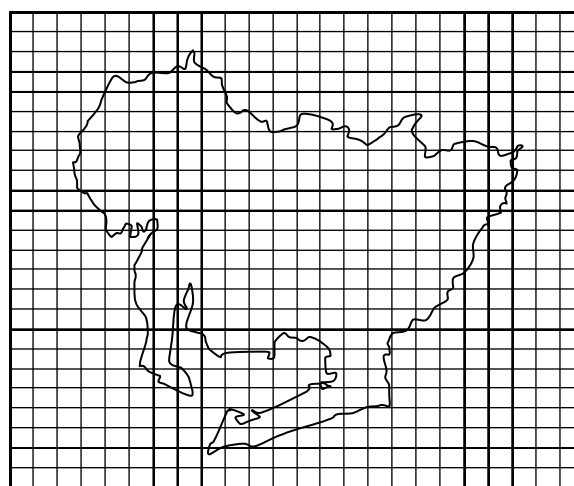
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。北日本には多いが、西南日本では稀少である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、シベリア、ヨーロッパなど。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の砂地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1 カ所の砂浜に、範囲は狭いが群落がある。生育状況は良好であるが、20 年前に比べれば生育範囲はやや縮小している。隣接して空港とその前島ができたため、潮流の変化等で砂浜が縮小または消失することが懸念されたが、現在のところ顕著な影響はなさそうである。しかし、砂浜に立ち入る人が増加すれば、踏み荒らしなどの影響も懸念される。

【保全上の留意点】

重要な群落であり、生育地の個別的な保全が必要である。当面は砂浜を保全し、生育に負荷を与える行為を避けるべきである。

【特記事項】

和名は、地下茎が砂中を伸びて繁殖することによる。

【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.103. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本 I p.200、平草本Ⅲp.63、SOS 旧版 p.75、SOS 新版 p.151,153.

ハマクサギ *Premna microphylla* Turcz.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

落葉性の小高木。枝は灰褐色で細く、葉の落ちた跡が肥厚する。葉は対生し、長さ 0.5~1.5cm の柄があり、葉身は広卵形~卵状楕円形、長さ 4~12cm、幅 2.5~7cm、質は薄く、両面とも無毛で脈上にだけ毛があり、成木では全縁になるが若木の葉には数個の粗い鈍鋸歯がでる。花期は 5~6 月、枝の先端に長さ 6~10cm の円錐花序をつくり、淡黄色の小さな花をつける。花冠は筒状、長さ 8~10mm、やや唇形、外面に粒状の腺がある。果実は倒卵状球形で基部にがくが宿存し、熟すと紫黒色になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 59652）。渥美（泉福寺，小林 16714, 1977-6-5）にも 1 株生育していたが、絶滅した。

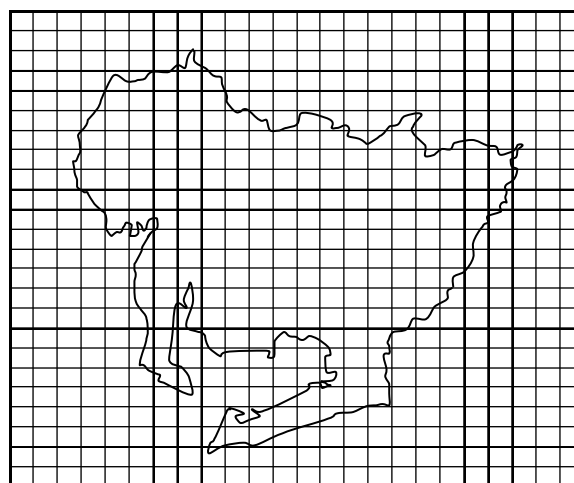
【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本および台湾。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

陽性の樹木で、海岸近くの二次林の林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊川宝飯では少数の幼株が明るい林内に生育しているというが、遷移の進行により消滅する可能性がある。渥美での絶滅も、遷移の進行が原因ではないかと思われる。その一方で、新たな生育地が発見される可能性もある。

【保全上の留意点】

本種に関しては、生育地の上層木を適宜伐採して林内の光条件を維持するなど、個体レベルでの個別的な保全が必要である。

【特記事項】

「臭木」の名のとおり、葉をもむと臭気がある。

【関連文献】

保木本 I p.49、平木本 II p.214、SOS 旧版 p.75。

ケブカツルカコソウ

Ajuga shikotanensis Miyabe et Tatewaki form. *hirsuta* (Honda) Murata

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。草地性の植物で、愛知県の里山を特徴づける植物の一つであるが、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。花茎は単生して直立し、高さ 10~30cm、基部から葉をつけた長い走出枝を出す。根出葉は広倒披針形~倒卵形、長さ 2~5cm、先端は鈍頭、辺縁は少数の波状の鋸歯があり、基部はくさび状に細まって葉柄となる。茎葉は対生し、1~2 対、その上に 5~10 対の苞が続き、腋に仮輪をつくって淡紫色の花をつける。花期は 5~6 月、花冠は唇形、花筒は背面で長さ約 7mm、上唇はごく小さく、下唇は 3 裂して開出する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田北西部（畑佐武司 1907）、三好（芹沢 61316）、豊明東郷（豊明：浅野守彦 2003、東郷：浜島育子 310）、小牧（日比野修 4732）、春日井（山田果与乃 793）。日進長久手（長久手町長湫、芹沢 61305, 1992-5-22）、名古屋北部（守山区下志段味、鳥居ちよ子 621, 1994-5-8）にもあったが絶滅し、常滑（久米南沢、中井三従美 s.n., 1988-5-5, TNS）でも採集されているが現状は不明である。他の場所でも既に絶滅している可能性があり、そのため集団数階級が 3 と評価されている。刈谷知立（刈谷市井ヶ谷町、大原準之助 s.n., 1958-5-23）、名古屋南東部（有松、井波一雄 s.n., 1941-5-6, CBM251395）で採集された標本もある。

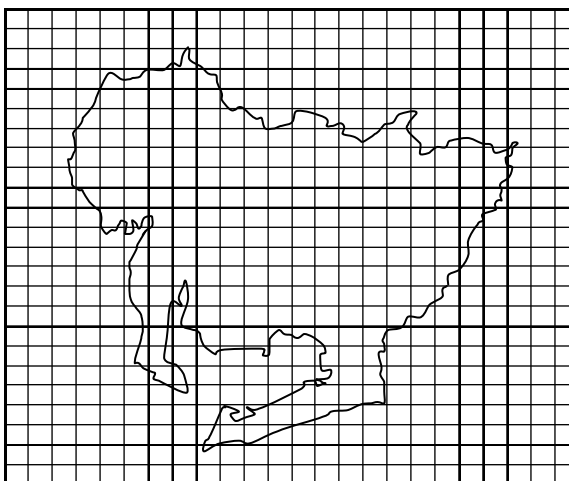
【国内の分布】

種としては南千島（色丹島）と本州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよいやや湿った草地に生育する。愛知県では、丘陵地の水田のまわりの土手、草の生えた農道など、一昔前の谷戸田景観を象徴するような場所に生育している植物である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

尾張東部と、それに接した西三河西部の丘陵地に点在しているが、都市近郊なので、一方で丘陵地の開発による生育地の破壊、他方で谷戸田の放棄による植生遷移の進行により、急激に減少している。名古屋市では、耕地整理により生育地が削られ絶滅し、長久手町や東郷町でも宅地化により生育地が破壊された。水田の周辺にあるため除草剤が散布されることも多く、小牧ではその影響で個体数が半減した。

【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、本種以外にも多くの絶滅危惧生物が生育しており、生物多様性を保全する上で重要性の高い場所である。谷戸田とそこでの農薬を使用しない水稲耕作の価値を、一つの文化遺産として認める必要がある。

【特記事項】

基準品種のツルカコソウ form. *shikotanensis* は全体に毛が少ないもので、愛知県には自生しない。カコソウは夏枯草の意味で、ウツボグサのことである。

【関連文献】

保草本 I p.189、平草本Ⅲp.73、SOS 旧版 p.76、SOS 新版 p.82,84。

アシタカジャコウソウ *Chelonopsis yagiharana* Hisauti et Matsuno

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 3。分布域の限られた希少な植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は匍匐する。地上茎は高さ 30～50cm になる。葉は 5～7 対が対生し、長さ 5～15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 5～10cm、幅 1.5～4cm、先端は鋭尖頭、基部は次第に細まってくさび形～円形となり、質はやや薄く、両面の脈上に毛がある。花期は 8～9 月、花は上部の葉腋から出る長さ 4～10mm の柄の先に 1～2 個つき、がくは花時で長さ 6～8mm、花冠はやや薄い紅紫色で、長さ 3～4cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄(小林 34284)、鳳来南部(小林 65183)。

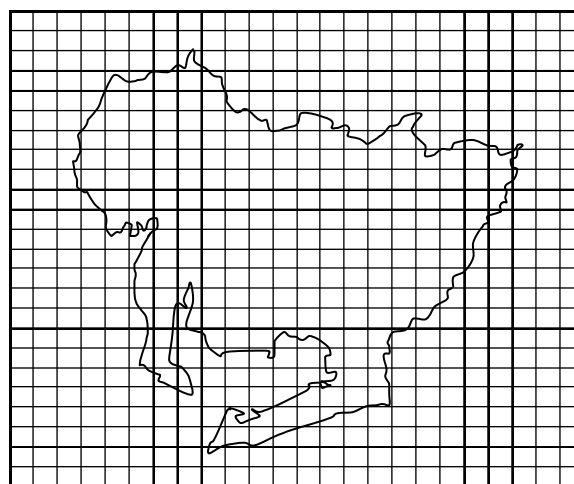
【国内の分布】

本州(中部地方) および四国(愛媛県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。愛知県の生育地はスギの造林地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に小群落がある。造林地の手入れ不足により林床の光条件が悪化し、花のつく株は少なく、衰退傾向にあるという。

【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な手入れが必要である。

【特記事項】

ジャコウソウ *C. moschaeta* Miq. に似ているが、全体に小型で、茎が丸く、葉の基部は心形にならない。しかし、どちらともつかないようなものもある。一般の図鑑等では、あまり取り上げられていない植物である。

【関連文献】

保草本 I p.178、SOS 新版 p.30,32。

コナミキ *Scutellaria guilielmii* A.Gray

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。地下に細く長い走出枝が出る。茎は細く直立し、分枝して高さ 20~40cm になる。葉は対生し、茎の下部のものは 1~2cm の、他はごく短い柄があり、葉身は卵形で、長さ幅ともに 1~2cm、先端は円頭、辺縁には 2~4 対の鋸歯がある。花期は 4 月、花は葉腋に 1 個づつつき、花冠は白色で長さ 7~8mm、筒部はわずかに曲がる。がくは果時に長さ 5~6mm で、先端に腺のある開出した軟毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

田原赤羽根 (永田芳男 s.n.)、渥美 (小林 50856)。半田武豊 (富貴, 井波一雄=奥山 18682, 1957-5, TNS) で採集された標本もあり、その株の写真は奥山 (1960) に掲載されている。三河湾の佐久島と姫島 (小林・深谷, 2008)、西尾、一色 (大原, 1971) などからも記録されている。佐久島や姫島の記録が事実ならば個体数階級は 2、集団数階級は 3 になり、愛知県での評価は絶滅危惧Ⅱ類になる。

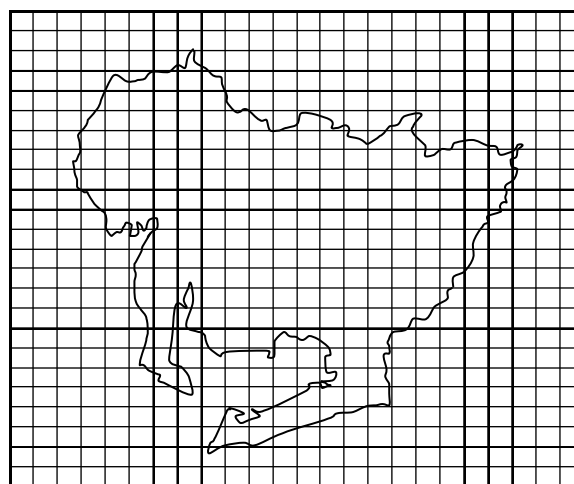
【国内の分布】

本州 (千葉県以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸に近い草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 カ所で確認されているが、どちらの場所でも個体数は少ない。草刈りがよく行われる場所では、存続してはいるがなかなか開花できない。草刈りが行われなくなった場所では、大型の草本に覆われて衰退している。またどちらの生育地も、開発などの影響を受けやすい場所である。

【保全上の留意点】

希少な植物であるが特に自然度が高い場所に生育しているわけではなく、それだけに保全対策が難しい。生育地の個別的な保全が必要である。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.193, 257. 佐久島会, 刈谷.
奥山春季, 1960. 原色日本野外植物図譜 2: pl.124. 誠文堂新光社, 東京.
大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.109. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅰ p.187、平草本Ⅲ p.76、SOS 旧版 p.78、環境庁 p.338。

イブキジャコウソウ *Thymus serpyllum* L. subsp. *quinquecostatus* (Celak.) Kitam.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。愛知県では生育地が少なく、また減少傾向も著しい。

【形態】

小低木。茎は細く、地表をはって分枝し、枝は立ち上がって高さ 3~15cm になり、短毛がある。葉は対生し、卵形~菱状卵形、長さ 5~10mm、幅 3~6mm、先端は鈍頭、両面に腺点がある。花期は 6~7 月、枝先に短い穂状の花序をつける。がくは唇形で長さ 4~5mm、花冠は紅紫色で 2 唇形、長さ 7~8mm の株と 5~6mm の株とがある。雄ずいは 4 本で、花外に突き出る。海浜に生育するのは、ハマジャコウソウと呼ばれることがある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯 (小林 51934)、豊橋南部 (小林 70758)、渥美 (芹沢 74037)、額田 (原田 勉 571)、幡豆 (壁谷重美子 813)。田原赤羽根 (田原町浦, 芹沢 53021, 1989-9-1) にもあったが絶滅した。豊橋北部 (牛川, 及部金一 s.n., 1932-8-8) で採集された標本もある。

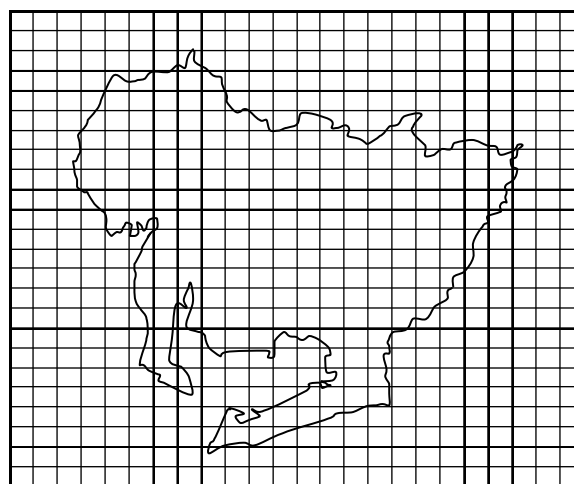
【国内の分布】

北海道、本州、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ヒマラヤ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい岩地や砂地に生育し、海浜から高山帯まで、広い範囲に見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小型の植物であるため、半裸地状の場所以外では存続できない。海浜の砂地のものは砂丘の安定化による生育可能地の縮小、内陸の草地や岩地のものは大型の草本の繁茂による被陰で、いずれも衰退している。田原赤羽根では、園芸目的の採取により消滅したものと思われる。豊田東部では以前は点在していたというが、河川改修や除草剤の使用によって見られなくなったようで、現在のところ確実な資料を得ることができない。

【保全上の留意点】

砂地については、植栽されたクロマツや侵入してきた樹木を除去し、砂丘状態を維持することが必要である。観光客誘致のために作られた花壇によってつぶされた群落もある。内陸部のものは、草刈りや火入れにより、やせ山状態を維持することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

「ジャコウソウ」の名のとおり、全草に芳香がある。

【関連文献】

保草本 I p.161、平草本 III p.85、SOS 旧版 p.78+図版 31。

セリバシオガマ *Pedicularis keiskei* Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。茎は根ぎわで分枝して直立し、高さ 25～35cm、花時には根出葉はない。葉は対生し、長さ 4～10mm の柄があり、葉身は卵状長楕円形で羽状に全裂し、長さ 4～8cm、幅 2～4cm、質は薄く、裂片は披針形で羽状に中裂する。花期は 8～9 月、花は上部の葉腋に 1 個ずつつき、花冠は筒部が淡緑色、裂片は白色で、長さ約 2cm、上唇は先が細長く嘴状にとがる。果実は蒴果で 3 角状披針形、鋭尖頭、長さ約 12mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (芹沢 77991)。足助(大多賀, 大原準之助 s.n., 1953-7-29)で採集された標本もある。

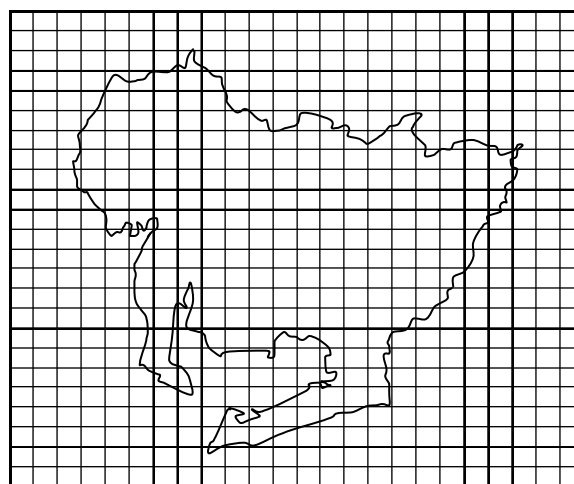
【国内の分布】

本州中部 (中央アルプス、南アルプス、八ヶ岳、秩父山地)。長野県では、それほど少ない植物ではない。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は亜高山帯の針葉樹林内に生育する。愛知県の生育地はクロベ林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

隣接する長野県側にはまとまった群落があるが、愛知県側では生育範囲は限られており、個体数も少ない。過去の状態ははっきりしないが、おそらくは牧場の造成や観光開発により減少し、辛うじて残存しているものと思われる。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県の中では希少な温帯性植物が集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発を避けるべきである。

【特記事項】

和名は、葉が細かく切れ込むからである。

【関連文献】

保草本 I p.135、平草本Ⅲp.116。

ミカワシオガマ *Pedicularis resupinata* L. var. *microphylla* Honda

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。本地域の湧水湿地に固有の植物で、開発や園芸目的の採取により減少傾向が著しい。

【形態】

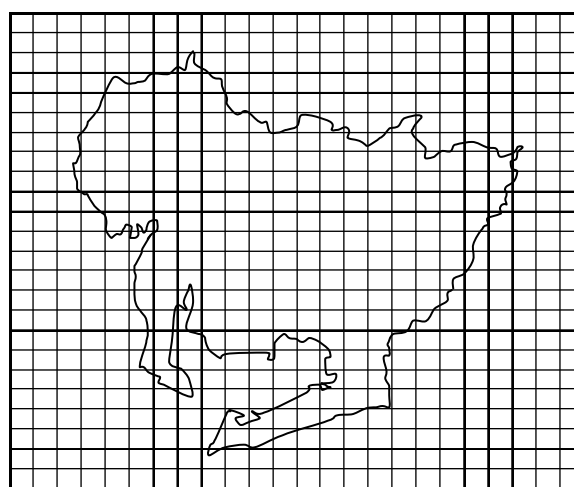
多年生草本。シオガマギク (233 頁) の変種とされており、それから葉が小さく長さ 10~20mm、幅 4~7mm で、多数つき、ほとんど互生することで区別される。「花冠上唇の先が特に短い」と記述されている文献もあるが、花部の形態はシオガマギクと異なる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部 (小林 65375)、藤岡 (芹沢 53939)、豊田東部 (畑佐武司 5461)、瀬戸尾張旭 (瀬戸市：塚本威彦 2568、尾張旭市：飯尾俊介 64)。豊橋南部 (野依町、芹沢 57911, 1990-10-23)、岡崎北部 (小呂町、芹沢 50877, 1988-10-22)、犬山 (善師野、芹沢 53734, 1989-10-6) にもあったが絶滅した。鳳来南部 (吉川峠、加藤等次 s.n., 1958-10-12)、幸田 (須美、瀧崎吉伸 382, 1978-10-22)、西尾 (室場村茶白山麓、石川 s.n., 1949-10-15, CBM 114396, 実際は幸田町側かもしれない)、日進長久手 (日進町愛知池、井波一雄 s.n., 1961-9-25, CBM136206) で採集された標本もある。三好と半田武豊にもあったらしいが、あったという湿地はすでに破壊されており、確実な資料も残されていない。作手にはシオガマギクとの中間型 (標本：芹沢 57422) がある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州中部 (愛知県、岐阜県)。広島県からの報告は誤りである。

【世界の分布】

日本固有。

【生育地の環境 / 生態的特性】

湧水湿地の日あたりのよい場所や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊田東部と瀬戸尾張旭には比較的多い場所があるが、他はいずれも個体数が少なく、危機的な状況である。幸田と犬山では道路建設に伴う湿地の破壊、岡崎北部では園芸目的の採取により絶滅した。

【保全上の留意点】

栽培は困難なはずであるが、それでも花が美しいため、しばしば採取される。カメラマンや観察者による踏み荒らしもある。分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

基準標本は酒井忠壽氏が豊橋市岩崎町で 1938 年 10 月 19 日に採集されたもので、東京大学総合研究博物館 (TI) に保管されている。

【関連文献】

保草本 I p.134、平草本 III p.116、SOS 旧版 p.80+図版 14、環境庁 p.343、SOS 新版 p.91,93。

シオガマギク *Pedicularis resupinata* L. var. *oppositifolia* Miq.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では個体数が少なく、しかも草地の減少により激減している。

【形態】

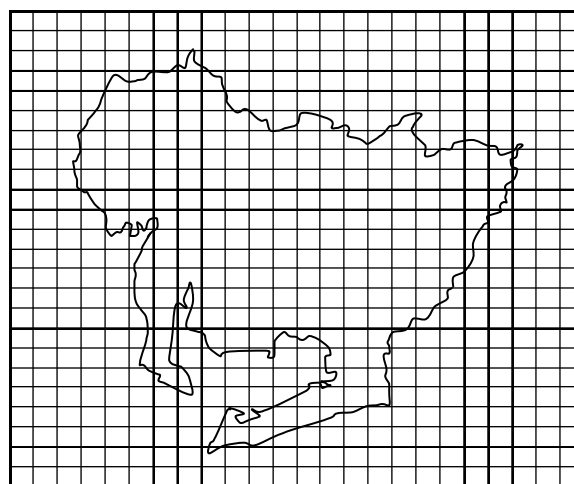
多年生草本。茎は基部で分枝し、斜上して高さ 25～60cm になる。葉は下部で対生、中部以上は少しずれて互生し、長さ 5～10mm の柄があり、葉身は狭卵形、長さ 4～9cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭、基部は円みのある切形、辺縁には重鋸歯がある。花期は 8～9 月、花は枝先に集まった広卵形の苞の腋につき、花冠は紅紫色で長さ約 2cm、上唇は鎌形に曲がって嘴状にとがり、下唇は斜めに広がる。果実は蒴果で 3 角状卵形、先端はとがり、長さ 10～12mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 70686）、東栄（小林 64923）、稲武（塚本威彦 2705、2706-白花）、鳳来南部（小林 62066）、豊橋北部（小林 58421）、額田（福岡義洋 1624）。ただしほとんどの場所でごく最近の状況が確認されておらず、そのため集団数階級が 3 と評価されている。豊根（新野峠、加藤等次 1595、1966-9-11）、設楽西部（段戸山、岡田善敏 s.n., 1945-10-19）、新城（本宮山、稲垣貫一 s.n., 1924-10-17, CBM110704）、足助（葛沢、川合 s.n., 1931-7-26）、下山（黒坂～神殿、井波一雄 s.n., 1958-10-5, CBM72204）などで採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道（中部以南）、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の尾根沿いの草地、谷戸田周辺の草地などに生育する。湿地に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は比較的多いが、どの場所でも個体数は少ない。豊橋北部には比較的多かったが、尾根の草地がなくなり、ほとんど見られなくなった。

【保全上の留意点】

地域共同の採草地として利用されてきた山地の草地（カヤ場）は、利用の停止によって森林化が進み、全国的にも愛知県でもほとんど壊滅状態である。稜線の草地は、防火帯としても眺望を楽しむという点でも重要であり、草刈りや火入れによって維持していく必要がある。また、谷戸田周辺の里草地（いわゆるボタ）も、多くの草地性植物の生育場所になっている。文化遺産としての意義もあり、特に保全に配慮する必要がある。

【特記事項】

和名は、花だけでなく葉まで（＝浜で）美しいからだと言われる。

【関連文献】

保草本 I p.134、平草本 III p.116。

ヤマクワガタ *Veronica japonensis* Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。分布域の狭い温帯性植物で、愛知県はその南限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は分枝し、根を出して広がり、先端は斜上して長さ 10~20cm になり、開出毛がある。葉は対生し、長さ 2~10mm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 12~25mm、幅 9~20mm、先端はややとがり、基部は切形状の円形で、辺縁には 3~8 対の鋭鋸歯があり、両面に白毛がある。花期は 7~8 月、上部の葉腋から花序を出し、まばらに 3~8 個の花をつける。花冠はやや紅色を帯びた白色で 4 裂し、広く開いた皿形、直径約 8mm である。蒴果は菱形の扇形で、基部は広くさび形となり、長さ 3~4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (村松正雄 15280)。1 カ所に小群落がある。

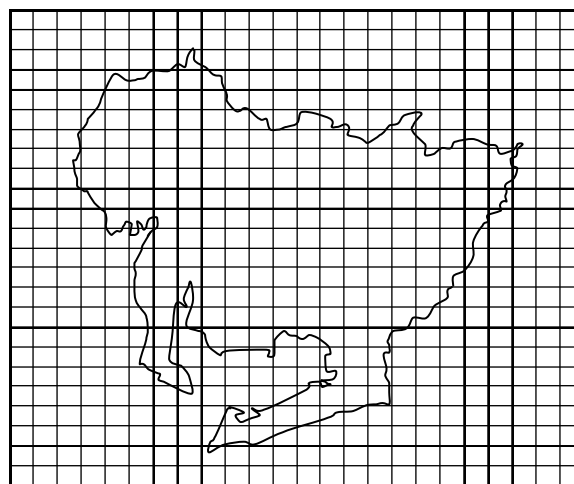
【国内の分布】

本州 (関東地方北部、中部地方中部)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。愛知県の生育地は、落葉広葉樹に覆われた沢沿いの湿地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

確認した範囲ではパッチ状の小群落が 3 つある。シカの食害が著しく、ほとんどの茎は先端がなくなっている。生育地の森林が伐採されても容易に絶滅すると思われる。

【保全上の留意点】

個体数調整など、草食獣の増加に対する対策が必要である。愛知県の場合は、鈴鹿山脈や大台ヶ原山に比較すればまだ被害が少なく、早く手をうてばうつつほど労力の割に効果的な対策が可能である。本種の場合生育地が沢沿いなので、防護柵はやや設置しにくい。

【関連文献】

保草本 I p.144、平草本 III p.112、SOS 旧版 p.81。

ハマウツボ *Orobanche coerulescens* Steph. ex Willd.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。海浜性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、また減少傾向も著しい。

【形態】

海浜性の 1 年生草本。地上茎は塊状に肥大した根茎から直立し、黄褐色で太く、高さ 10~25cm、白色の軟毛がある。葉は鱗片状で、互生する。花期は 5~7 月、茎の先端に穂状の花序をつくり、淡紫色の花を密につける。がくは長さ約 1cm、膜質で左右 2 片に深裂し、各片の先は 2 裂し、先がとがる。花冠は長さ約 2cm、太い筒部のある唇形で、毛が多く、上唇は幅広く凹頭、下唇は 3 裂する。果実は蒴果で狭楕円形、長さ約 1cm である。内陸部に生育し、全体に毛が少ないものをオカウツボ form. *nipponica* (Makino) Kitam. とする。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美 (永田芳男 s.n.)。限られた範囲に残存しているだけである。オカウツボは、安城 (矢作川堤防、稲垣英夫 s.n., 1967-6-6) で採集された標本があるだけで現存は確認できず、狭義のハマウツボから区別すれば県内で絶滅と判断される。

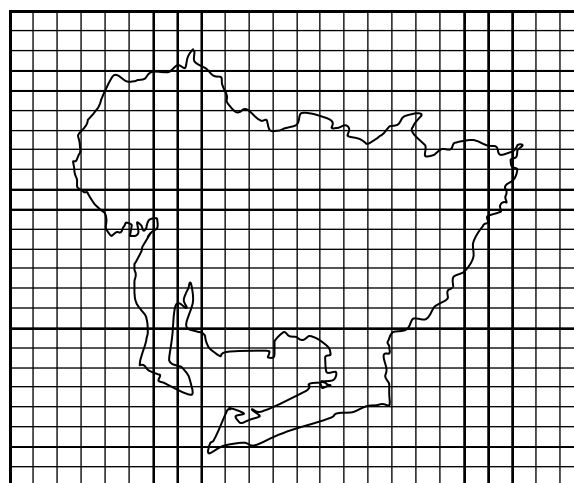
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア、ヨーロッパ東部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

狭義のハマウツボは海岸の草地に生育し、カワラヨモギなどに寄生する。オカウツボは丘陵地の日当たりのよい草地に生育し、オトコヨモギなどに寄生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

渥美では、以前は時折見かけたが、現在ではほとんど見られなくなってしまった。観光開発による生育地の砂浜の改変が、減少の主要因である。現存する 2 カ所のうち 1 カ所は舗装道路のわきで、僅かな個体が残存しているが、いつ消滅してもおかしくない。

【保全上の留意点】

砂浜や砂丘を、本来の自然状態のまま保全することが必要である。生育地周辺は観光地であり、今後も各種開発が想定される。しかし長い目で見れば、人工物のない自然状態の砂浜こそ最大の観光資源である。

【関連文献】

保草本 I p.126、平草本 III p.135、SOS 旧版 p.82。

ミカワタヌキモ *Utricularia exoleta* R.Br.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 3。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

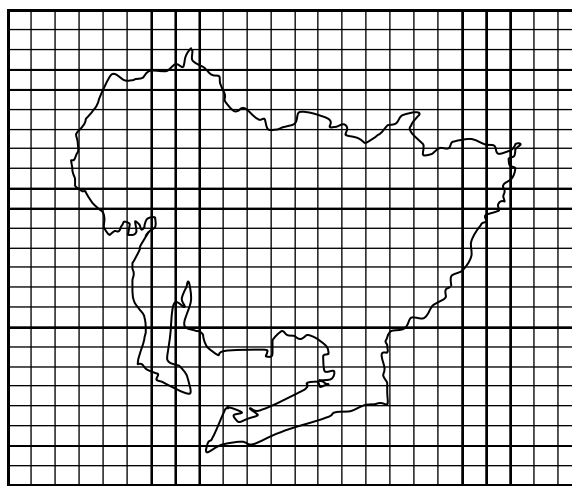
多年生の食虫性水草。茎は糸状で泥上をはい、捕虫囊をつけた地中葉で固着するが、水中を浮遊することもある。水中葉はまばらに互生し、長さ 1cm 程度、1~5 個の裂片に分裂し、まばらに捕虫囊をつける。裂片は幅 0.1~0.2mm である。花期は 8~9 月、高さ 5~8cm の花茎を水上に伸ばし、1~3 花をつける。花冠は黄色で直径 5~6mm、距は前向きで下唇と同長かやや長く、がくは長さ約 2mm である。殖芽は形成しない。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田北西部（芹沢 53893）、瀬戸尾張旭（塚本威彦 1795）、日進長久手（芹沢 74371）、半田武豊（中井三従美 20）の 4 区画で確認されている。ただし瀬戸尾張旭では見られなくなり、半田武豊ではごく最近の状況が確認されていない。以前はあちこちに生育していたらしく、豊橋北部（二川，稲垣貫一 s.n., 1925, CBM98768）、岡崎南部（戸崎町七ツ池，大原準之助 s.n., 1952-11-3）、刈谷知立（刈谷市小堤西池，浜島繁隆 1082, 1974-8-9）、豊明東郷（豊明村，井波一雄 s.n., 1940-9-30, CBM 135455）、知多南部（野間青山池，井波一雄 s.n., 1956-11-14, CBM192283）、小牧（池田~小木，稲垣貫一 s.n., 1949-11-13, CBM 116157）、名古屋北部（田代，井波一雄 s.n., 1937-3-18, CBM195716）、名古屋南西部（滝の水，浜島繁隆 1075, 1968-11-2）で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州（関東地方以西）、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾からインド、オーストラリア、アフリカにかけて分布する。

【生育地の環境 / 生態的特性】

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも人里に近い丘陵地のため池である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊田北西部と日進長久手では、現在の所はよく生育している。しかし、日進長久手では生育地が道路計画にかかるなど、開発圧力は極めて高い。瀬戸尾張旭では、1カ所は生育地のため池が埋立てられて絶滅し、他の 1カ所でも最近見られなくなった。ため池自体が保全されることになっている場所でも、将来周辺部の開発が進んだときの対策は検討されていない。

【保全上の留意点】

ため池自体を現状のまま保全し、水質を悪化させないことが必要である。外来のタヌキモ類を移入しないことも重要である。本種の場合は特に、オオバナイトタヌキモ *U.gibba* L. に対して注意が必要である。

【特記事項】

植物体が糸状で繊細なため、イトタヌキモとも呼ばれる。オオバナイトタヌキモは花が大きく、直径約 1cm あるもので、愛知県では半田武豊、常滑、名古屋南東部などに帰化している。本種を、オオバナイトタヌキモの亜種とする見解もある。

【関連文献】

保草本 I p.122、平草本 III p.139、SOS 旧版 p.82、環境庁 p.346、SOS 新版 p.127,129。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.153. 文一総合出版, 東京。

ヒメミミカキグサ *Utricularia minutissima* Vahl

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 4。国内では本地域だけに分布する小型の食虫植物で、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生の食虫性草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫囊をつける。地上葉は線形、長さ 1~3mm である。花期は 8~10 月、花茎は直立し、高さ 1~3cm、1~3 花をつける。がくは長さ約 1mm、裂片は円形で花後も大きくならない。花冠は淡紅色で直径 2~2.5mm、距は前向きで下唇より長い。蒴果は長さ約 1mm、がくとほぼ同長である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部 (小林 19888)、豊田北西部 (芹沢 77970)、瀬戸尾張旭 (村松正雄 11993, 1992-9-15)、日進長久手 (芹沢 57236)、豊明東郷 (芹沢 59857)、半田武豊 (芹沢 80853)。ただし瀬戸尾張旭では、最近では確認できない。名古屋南東部 (芹沢 30792, 1979-11-11) にも生育していたが、宅地造成により生育地が破壊され、絶滅した。

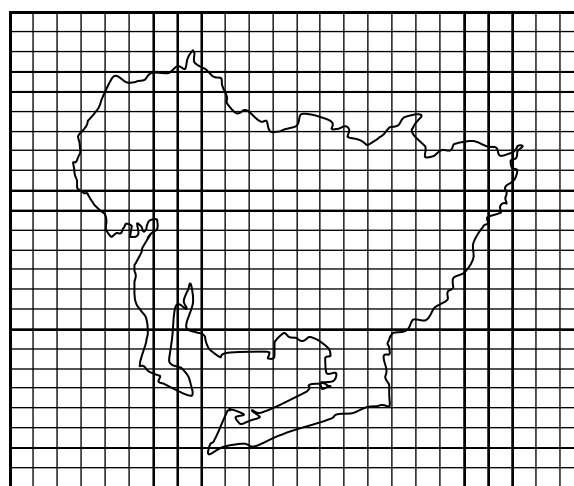
【国内の分布】

本州中部 (愛知県、三重県)。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湧水湿地の、裸地状の場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

半田武豊の自生地 (武豊町壱町田湿地) は、町指定の天然記念物および県の自然環境保全地域として保護されている。この場所では比較的個体数が多いが、他の場所では極めて少ない。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地には、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。保全上の優先順位も高い。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。また、水源部に森林が発達すると富栄養化が進むので、適宜伐採・搬出を行い、貧栄養状態を維持する必要がある。

【特記事項】

とにかく小さい植物で、地面をほうようにして探さないとなかなか発見できない。通り一遍の調査ではまず見落としてしまうので、調査時には特に注意が必要である。

【関連文献】

保草本 I p.121、平草本 III p.138、SOS 旧版 p.83+図版 19、環境庁 p.346、SOS 新版 p.106,108。

トウオオバコ *Plantago major* L. var. *japonica* (Franch. Et Sav.)Miyabe

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。海浜性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、減少傾向も著しい。

【形態】

多年生草本。葉は束生し、長さ 7~20cm の柄があり、葉身は卵形で長さ 8~25cm、幅 5~18cm、先は鈍頭、基部は次第に狭まり、やや厚い革質、辺縁には不規則な波状の歯牙がある。花期は 7~8 月、長さ 40~80cm の花茎を 1~5 個のぼし、多数の白色の花を穂状につける。果実は蒴果で、上部は半円形、中に 8~12 個の種子があり、成熟した種子は長さ約 1mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

田原赤羽根 (小林 40460)、渥美 (小林 46444)、東海知多 (清水政美 s.n.)。知多南部 (篠島, 沢井輝男 s.n., 1934-7-18) の標本は貧弱だが、これもトウオオバコでよいと思われる。

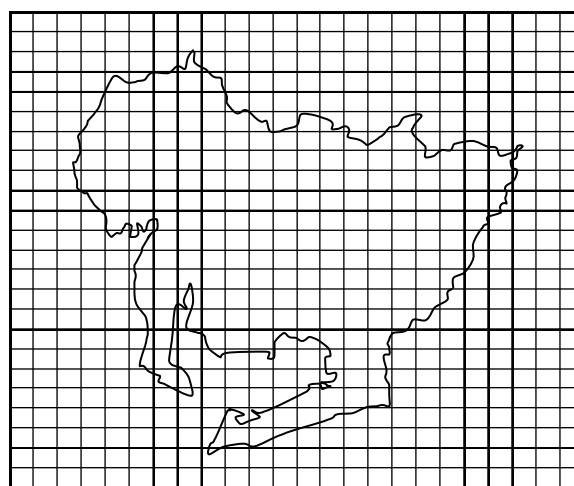
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの草地や、やや塩湿地状の場所に生育する。東海知多では、旧海岸線の水たまりに生育していたという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				○
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ、安定した生育地は渥美半島の三河湾側だけである。しかし、ここでも埋立てやゴミの投棄により生育地が破壊され、危機的な状況である。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。本種の場合はハマツナやフクドが生育するいかにも塩湿地という場所ではなく、どちらかと言えば単なる荒れ地にしか見えないような場所に生育していることが多いので、とりわけ注意が必要である。

【特記事項】

オオバコに似ているが、大型で全体無毛である。海岸以外の場所にも似たものがあるが、これらは基準変種に当たる帰化植物のセイヨウオオバコである。海岸部にもセイヨウオオバコらしい植物が生育していることがあり、その場合は識別がかなり難しくなる。

【関連文献】

保草本 I p.116、平草本 III p.141、SOS 旧版 p.83。

コウグイスカグラ *Lonicera ramosissima* Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 2。愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は 13 であるが、草食獣による食害が著しいので絶滅危惧 I B類と評価する。

【形態】

落葉性の低木。密に分枝し、高さ 2m くらいになる。葉は対生し、長さ 2~5mm の柄があり、葉身は楕円形、卵形または長楕円形、長さ 2~5cm、幅 1~2.5cm、先端は鋭頭、基部は広くさび形~円形、全縁で、両面に軟毛が多い。花期は 4~5 月、葉腋から細い柄をだし、その先に 2 個の花を下向きにつける。花冠は長い漏斗状で長さ 15~20mm、淡黄緑色、先端は 5 裂し、裂片は卵形で長さ 3~5mm である。果実は液果で、2 個ついてほとんど離生し、6~7 月に赤く熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 36369)、鳳来北東部 (小林 64480)。

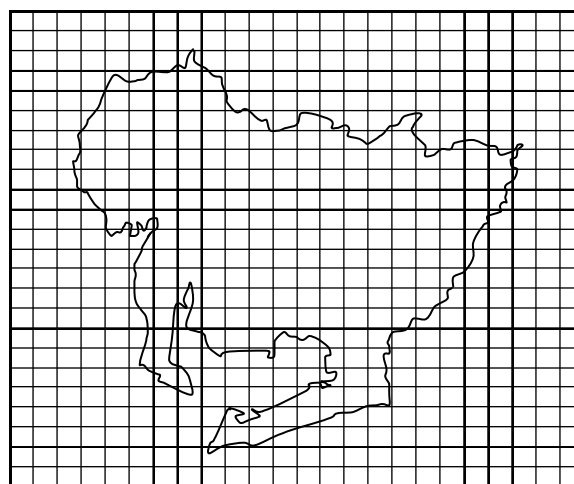
【国内の分布】

本州 (新潟県、宮城県以南)、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩場やガレ場に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

造林地の中の岩場やガレ場に小群落がある。近年の夏の高温乾燥により衰退傾向にあったが、それに加えて、「最近ニホンカモシカによる食害がひどく、盆栽状になった株も多くほとんど開花・結実は見られなくなってしまい、近い将来の絶滅が危惧される」と報告されている (小林, 2006)。

【保全上の留意点】

最近の夏期の高温乾燥傾向は、岩場に生育する植物に多大な影響を与えている。自然現象には違いないが、追い打ちをかけないような配慮が必要である。また、草食獣の増加に対しては個体数調整などの対策が必要である。愛知県の場合は、鈴鹿山脈や大台ヶ原山に比較すればまだ被害が少なく、早く手をうてばうつつほど労力の割に効果的な対策が可能である。防護策の設置も検討されるべきだが、本種の場合は生育地が林道から離れているので、資材の運搬が大変である。

【特記事項】

愛知県のもは葉がやや細く、キンキヒョウタンボク var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi に近づいた型である。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.69. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保木本 I p.13、平木本 II p.244、SOS 旧版 p.84.

ミヤマシグレ *Viburnum urceolatum* Sieb. et Zucc. form. *procumbens* (Nakai) H. Hara

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の低木で、県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の低木。茎は下部が這って根を出し、高さ 50cm 以下である。葉は対生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は卵形、長楕円形または卵状披針形、長さ 5~12cm、幅 3~6cm、先端は鋭頭、基部は円形または広くさび形、草質で、辺縁には低い鋸歯がある。花期は 6~7 月、当年枝の先端に直径 2.5~6cm の平らな散房花序をつくり、花冠はつぼ形または筒形、長さ 3~3.5mm、白色で上部は紅色である。核果はほぼ球形、長さ 6~8mm、赤く、のちに黒く熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 74845）。設楽西部（段戸山，岡田善敏 s.n., 1946-8-21）で採集された標本もある。

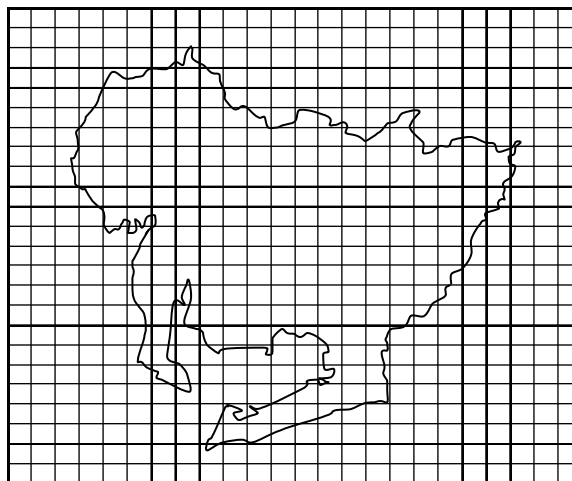
【国内の分布】

本州（東北地方南部以西）、四国、九州の山地に生育する。西日本の山地の落葉広葉樹林内には、比較的多い植物である。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内や崖状地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では、ごく狭い範囲に少数の貧弱な個体が生育しているにすぎない。当面開発が想定される場所ではなく、採取圧もなさそうであるが、とにかく個体数が少なく、周辺ではシカ（またはニホンカモシカ）による食害も顕在化しており、存続が危惧される。

【保全上の留意点】

個体数調整など草食獣の増加への対策が必要である。愛知県の場合は、鈴鹿山脈や大台ヶ原山に比較すればまだ被害が少なく、早く手をうてばうつつほど労力の割に効果的な対策が可能である。防護策の設置も検討されるべきだが、本種の場合は生育地が林道から離れているので、資材の運搬が大変である。

【特記事項】

基準品種のヤマシグレは、茎が匍匐せず、高さ 2m 位になるもので、愛知県では確認されていない。

【関連文献】

保木本 I p.35、平木本 II p.230。

イワツクバネウツギ *Zabelia integrifolia* (Koidz.) Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。やや隔離的に分布する植物で、県内では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は13であるが、近年衰退傾向が著しいことを考慮し、ENと評価する。

【形態】

落葉性の低木。密に分枝し、高さ1~2m、枝には6条の縦溝がある。葉は対生し、長さ4~7mmの柄があり、葉身は倒卵形、卵形または披針状長楕円形、長さ2.5~7cm、幅1~3.2cm、先端は鋭頭または鋭尖頭、基部は次第に細まり、辺縁は全縁またはあらい鋸歯があり、両面に毛がある。花期は5~6月、若枝の先端に2花をつけ、花柄は長さ3~6mmで、多くは合着する。がく片は倒披針形で4個、花冠は僅かに紅色を帯びた白色、筒部は長さ8~15mm、先端は4裂し、裂片は半円形で長さ2~3mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 34187）、設楽東部（小林 59968）、鳳来北東部（小林 57740）、豊橋北部（小林 51553）。

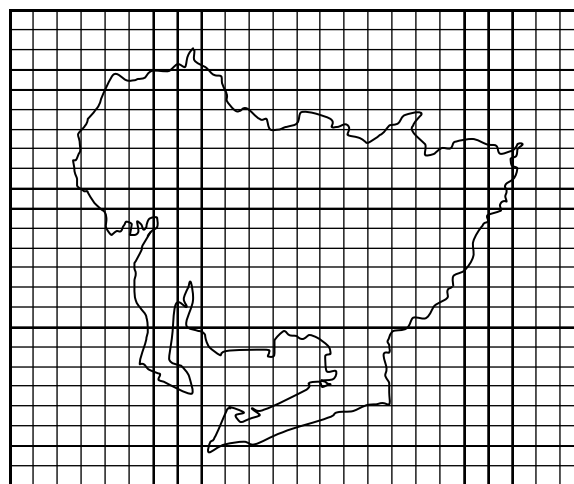
【国内の分布】

本州（中西部）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩崖地に生育する。しばしば石灰岩地に見られる。愛知県では、流紋岩地か石灰岩地に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するだけで、どの場所でも個体数は少ない。近年の夏の高温と乾燥により、相当衰退している。豊橋北部（石巻山）では、岩登りなどの登山者によって枝が折られ、衰退に追い打ちをかけている。

【保全上の留意点】

最近の夏期の高温乾燥傾向は、岩場に生育する植物に多大な影響を与えている。自然現象には違いないが、追い打ちをかけないような配慮が必要である。また、希少な植物が生育する場所でのロックライミングには、細心の注意が必要である。

【特記事項】

ツクバネウツギ属に比べ、花冠筒部は途中でふくらまず、先は4裂し、ほぼ放射相称である。石巻山で撮影された写真が、「日本の野生植物」木本編Ⅱ254図版に掲載されている。

【関連文献】

保木本Ⅰp.24、平木本Ⅱp.234、SOS旧版p.84、環境庁p.535。

フクド *Artemisia fukudo* Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 3。西日本系の塩湿地性植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

1 回開花性の草本。強いメロンの香りがある。根出葉は短い主軸の先に束生し、ロゼット状で長い柄があり、葉身は扇形で 2~3 回掌状に深裂し、裂片は線形で円頭、幅約 2mm である。茎葉は側枝に互生する。花期は 9~10 月、主軸には花をつけず、側枝が高さ 30~50cm に伸び、上部の大きい円錐花序に多数の頭花をつける。総苞は長さ 3~5mm、幅 5~7mm、総苞片は 3~4 列に並ぶ。そう果は長さ 1.2~2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部（小林 70557）、渥美（芹沢 81142）。各 1 カ所に生育しているだけである。

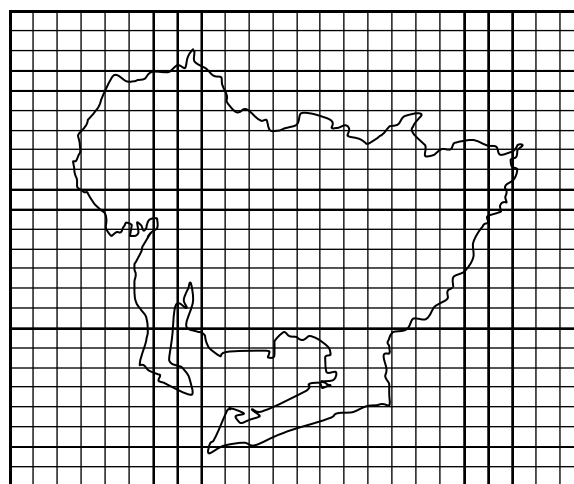
【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海浜の塩湿地に群生し、満潮時には海水中につかることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				○
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在確認できた生育地は 2 カ所だけであるが、そこでは個体数は多い。現在のところ減少してはいないが、生育範囲は限られており、開発等があれば容易に絶滅するものと思われる。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。生育地の直接的な改変を避けることはもちろんであるが、通常は河口にあるので、流入する河川の水質維持にも注意を払う必要がある。

【特記事項】

和名の語源は不明。ハマヨモギとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本 I p.53、平草本 III p.170、SOS 旧版 p.85+図版 32、SOS 新版 p.158,160。

オクヤマコウモリ *Cacalia hastata* L. subsp. *farfaraefolia* (Maxim.) Kitam. var. *alata* Kitam.

【選定理由】

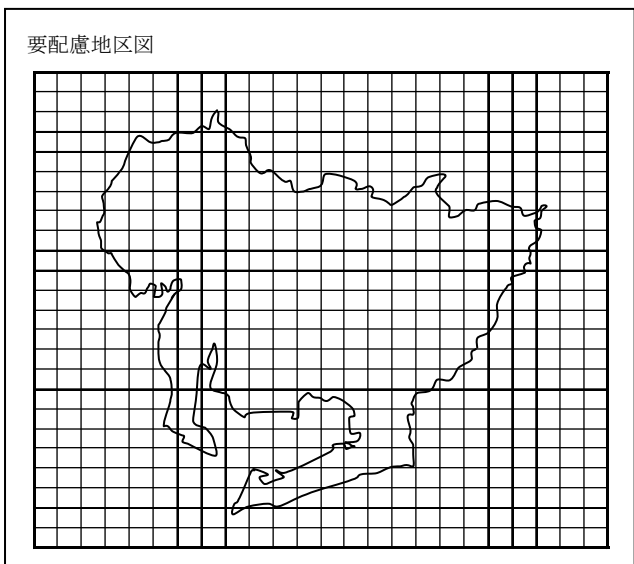
個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、分布域は狭く、愛知県はその南西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、また衰退傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。地下茎は横に短くはう。茎は細く高さ 30~70cm になる。葉は互生し、翼のついた柄があり、その基部は茎を抱く。葉身は 3 角状ほこ形で 5 浅裂し、長さ 8~10cm、幅 13~15cm、頂裂片は最も大きくて鋭尖頭である。花期は 8~10 月、頭花は茎の先端のまばらな円錐花序につき、総苞は長さ 7.5~10mm、小花は 6~10 個あり、すべて筒状花、花冠は白色である。そう果は長さ約 4mm で、白色の冠毛がある。

【分布の概要】

- 【県内の分布】
設楽西部（芹沢 79320）。点在しているが、個体数は少ない。
- 【国内の分布】
本州（中部地方の太平洋側）。
- 【世界の分布】
日本固有。亜種としても日本固有である。



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

本来は落葉広葉樹の自然林内に生育していたものと思われるが、現在では造林地内の沢沿いに辛うじて残存している。造林地の手入れ不足により林内が暗くなり、林道沿いなどの他はほとんど開花できない状態に追い込まれている。

【保全上の留意点】

造林地は、木材価格の低迷によって間伐や枝打ちなどの手入れが行われなくなり、荒廃が進んでいる。もとはといえば無理な拡大造林が原因であるが、適切な管理を行い、林床の植生を維持する必要がある。

【特記事項】

基準変種のコウモリソウは葉柄の翼があまり発達せず、基部が茎を抱かないもので、本州（関東地方~近畿地方）に分布しているが、愛知県からは知られていない。

【関連文献】

保草本 I p.48、平草本Ⅲp.196、SOS 旧版 p.85。

オオガンクビソウ *Carpesium macrocephalum* Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 3。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎はよく分枝し、高さ 1m 内外になる。根出葉は開花時には枯れる。茎葉は互生し、下部のものは大きく、葉柄を含め長さ 30~40cm、葉身は卵形で幅 10~13cm、先端は鋭頭、基部はくさび形で葉柄に流れ、辺縁にはふぞろいな重鋸歯がある。上部の葉は次第に小さくなる。花期は 8~10 月、頭花は枝の先端に下向きにつき、基部に多数の葉状苞がある。総苞は楕形、長さ 8~10mm、直径 25~30mm、総苞外片は葉状苞に移行する。小花はすべて筒状花で、花冠は汚れた黄色である。そう果は長さ 5.5~6mm で、冠毛はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武 (村松正雄 18067)。1 カ所に少数個体が生育している。

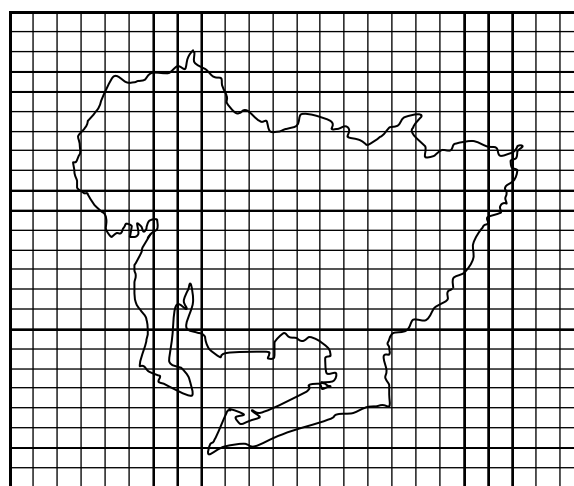
【国内の分布】

北海道、本州 (中部地方以北)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの、湿った林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

造林地内の沢沿いの草地に少数株が生育している。周辺ではシカによる食害が顕在化しており、近いうちに本種にも被害が及ぶ可能性が高い。森林化の進行により、被陰されて消滅する可能性がある。

【保全上の留意点】

個体数調整など草食獣の増加への対策が必要である。防護策の設置も検討されるべきである。その一方で、間伐など造林地の適切な手入れも必要である。

【特記事項】

日本産の他のヤブタバコ属植物に比べ、頭花が著しく大きい。

【関連文献】

保草本 I p.72、平草本 III p.202、SOS 新版 p.19,21。

シロバナタカアザミ *Cirsium pendulum* Fisch. var. *albiflorum* Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。分布域の狭い低湿地性植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

大型の越年生草本。高さ 2～3m、時には 4m に達し、上部で多くの枝を分ける。根出葉は長い柄があるが、花時には枯れる。茎葉は互生し、葉身は長さ 40cm、幅 20cm に達し、羽状に深裂し、基部は茎を抱き、羽片は 4～6 対、線形で鋭頭、通常前側に 1～2 個の裂片を出し、辺縁には針状のとげがある。花期は 5 月末～6 月、頭花は枝の先端に點頭して咲き、淡紅紫色、直径 3～3.5cm、総苞片は針形で多数つき、先端は短く反曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸尾張旭 (村松正雄 19571)、一宮木曾川 (遠藤浩三 736)、尾西 (渡辺幸子 1685)。ただし瀬戸尾張旭は貧弱な個体が 1 回採集されただけで、おそらく偶産であり、集団数には含めていない。

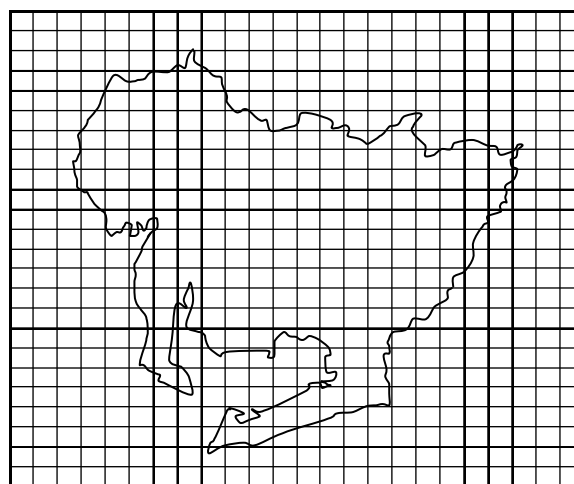
【国内の分布】

本州 (関東地方～滋賀県) に分布する。関東地方のものは花がほとんど白色であるが、愛知県や岐阜県のものはうすい紅紫色である。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷の湿った草地に生育する。どちらかと言えばやや攪乱された場所に多いが、ヤナギ林の林縁などにも見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

木曾三川の岐阜県側には比較的多いが、愛知県側では少ない。尾西にはややまとまった集団があったが、河川敷の開発により土地が乾燥化し、減少している。一宮木曾川では、狭い範囲に数株が生育しているという。

【保全上の留意点】

河川敷は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所であり、絶滅危惧植物も多く生育していて、保全の重要性が高い。ただし河川敷の植物は、もともと洪水などの攪乱に耐えてきたものであり、本種の場合も個体群の存続には適度の攪乱が必要と思われる。

【特記事項】

基準変種のタカアザミ var. *pendulum* は、秋に開花し、花が紅紫色のもので、北海道、本州 (中部地方以北)、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリー、ダフリアに分布する。愛知県では岩倉西春 (新川町五条川, 芹沢 77153, 2000-11-5)、名古屋南東部 (緑区鳴海町, 渡辺幸子 3253, 1997-10-19)、名古屋南西部 (中村区城屋敷町, 芹沢 68945, 1993-11-1) で採集されているが、いずれも土木工事跡地に 1 株だけ生育していたもので、県内に定着しているとは言い難い。

【関連文献】

SOS 旧版 p.85 (タカアザミとして)。

サワアザミ *Cirsium yezoense* (Maxim.) Makino

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。日本海系の植物で、愛知県は分布域の太平洋側の限界にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

大型の多年生草本。茎は高さ 1~2m、時には 3m に達する。根出葉は花時にも残存する。葉は楕円形、羽状に中~深裂し、長さ 50~60cm、幅 30cm に達するが、質はやわらかく、刺針はごく小さい。花期は 9~10 月、頭花は枝の先端に 1 個ずつついて點頭し、基部に頭花と同長またはそれより長い 4~6 枚の苞葉がある。総苞は直径 2~3.5cm、総苞片は披針形で開出する。小花はすべて筒状花、花冠は紅紫色で長さ約 20mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武(芹沢 83541)。1カ所に小群落がある。

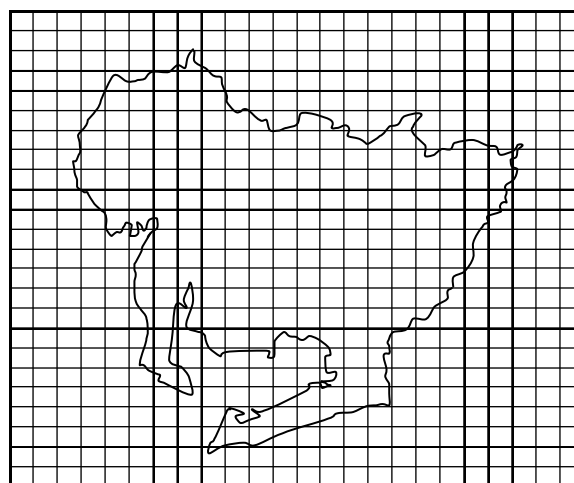
【国内の分布】

北海道南部、本州（滋賀県北部以東の主として日本海側）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いに生育する。愛知県の生育地は林道に沿った小さな沢の、やや攪乱された場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところよく開花するが、林道の拡幅や改修により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

林道の拡幅の際には、特に注意が必要である。

【特記事項】

キセルアザミ *C. sieboldii* Miq. も「サワアザミ」と呼ばれることがあるので、注意が必要である。

【関連文献】

保草本 I p.37、平草本 III p.215、SOS 旧版 p.86。

フジバカマ *Eupatorium fortunei* Turcz.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい低湿地性の植物で、絶滅危惧植物の象徴的な存在である。愛知県においても、生育地、個体数共に少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は横にはう。茎は多く集まって直立し、高さ 1~1.5m になる。葉は対生し、短い柄があり、葉身はふつう 3 深裂し、裂片は長楕円形または長楕円状披針形、長さ 8~13cm、幅 3~4.5cm、鋭尖頭、質はやや硬く、表面は多少光沢があり、裏面は腺点がない。花期は 8~9 月、頭花は枝の先端に散房状に集まってつき、ほとんど白色、総苞は長さ 7~8mm、小花は 5 個で、すべて筒状花である。そう果は長さ 3mm で、冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

知多南部（芹沢 60650）、岩倉西春（芹沢 76429）、海部西部（芹沢 76389）。ただし知多南部は路傍の攪乱地に生育していたもので、本来の自生でない可能性が高い。作手（赤羽根、鳥居喜一 5557, 1973-9-9, HNSM）、新城（新城町、鳥居喜一 22680, 1932-8-24, HNSM）、豊橋北部（今橋町豊城、恒川敏雄 2009, 1951-10-10, TMNH）で採集された標本もある。

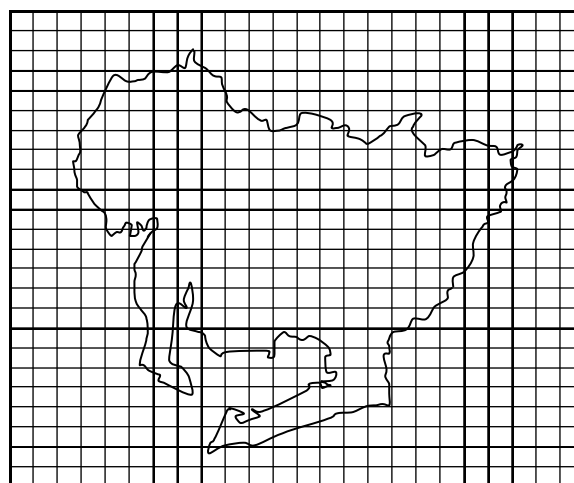
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。帰化説もあるが、実際には在来のものである。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷の低湿地の、ヤナギ林の林縁などに生育する。堤防の湿った草地に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

海部西部では木曾川の河川敷に点在していたが、河川敷の開発により生育地が破壊されて減少し、現在ではわずかに残存するだけである。岩倉西春には比較的大きな群落があったが、この場所も堤防の改修により激減し、改修されていない部分に残存しているにすぎない。

【保全上の留意点】

河川敷は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所であり、絶滅危惧植物も多く生育していて、保全上の重要性が高い。本種の場合は特に減少傾向が著しく、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

秋の七草の一つとして、有名な植物である。ただし、他の 6 種が乾いた草地に生育する植物なので、万葉のフジバカマが本種だけを指すのか、ヒヨドリバナ類の総称であるのかについては検討の余地がある。中国大陸原産の栽培品が時に逸出しているが、自生品からは葉が小さく花が紫色を帯びることで容易に区別できる。

【関連文献】

保草本 I p.88、平草本 III p.211、SOS 旧版 p.86+図版 27、環境庁 p.551、SOS 新版 p.135,137。

ハマコウゾリナ

Picris hieracioides L. subsp. *japonica* (Thunb.) Krylov var. *littoralis* Kitam.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。分布域の狭い海浜性の植物で、愛知県はその西限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

1年生草本。茎は下部からよく分枝し、高さ10～25cm、全体に剛毛がある。葉は互生し、下部のものは倒披針形で長さ12～20cm、幅2～4cm、基部はしだいに狭まり、翼のある柄となる。茎の中部の葉は披針形で、基部は茎を抱く。葉の辺縁には、浅い歯状の鋸歯がある。花期は10～11月、頭花はまばらな散房花序につき、黄色、直径約2cmである。そう果は赤褐色、紡錘形で長さ3.5～4.5mm、冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美（芹沢 73274）。

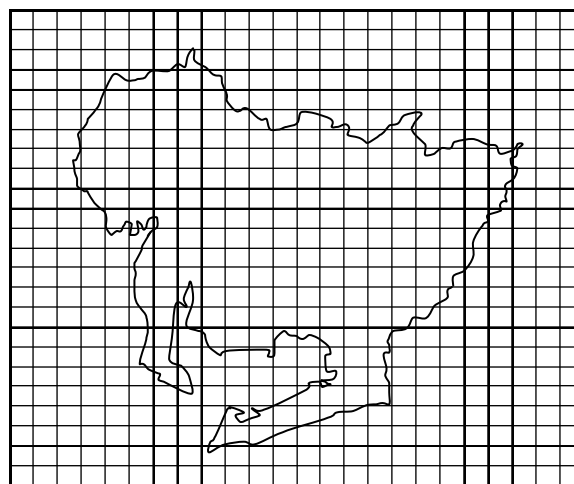
【国内の分布】

本州（関東地方南部～愛知県）の海岸に分布する。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の草地や林縁に生育する。砂浜の後背地に見られることが多い。多少攪乱された場所にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は局限されており、個体数も少ない。本種の場合、地形の改変を伴わない軽度の攪乱は個体群の維持にとってかえって好都合と思われるが、大規模な開発行為があれば消滅は避けられない。

【保全上の留意点】

生育地周辺は観光地であり、今後も各種開発が想定される。個別的な配慮が必要である。

【特記事項】

コウゾリナ var. *japonica* に似ているが、秋に開花する。

【関連文献】

平草本Ⅲp.226、SOS 旧版 p.88。

ミカワトウヒレン *Saussurea* sp.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。おそらく本地域に固有の、オオダイトウヒレン群の一型である。個体数が少なく、しかも被陰や食害により衰退している。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 35~110cm、翼はない。根出葉は通常花時に枯れずに残り、長さ 8~17cm の柄があり、葉身は卵形、長さ 9~15cm、幅 7.5~11cm、先端は短く鋭尖頭、基部は心形、辺縁には粗い鋸歯があり、中央部は通常大きく湾入するが、時にほとんど湾入しないこともある。花期は 9~10 月、頭花は 2~10 個が茎の先端に散房状につき、紅紫色、総苞は長さ 12~15mm、総苞片は 5~6 列に並び、先端は細く尖って開出または反曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (小林 39926)、東栄 (小林 39924)、設楽東部 (小林 53406)、稲武 (芹沢 83533)、旭 (小林 48288)。

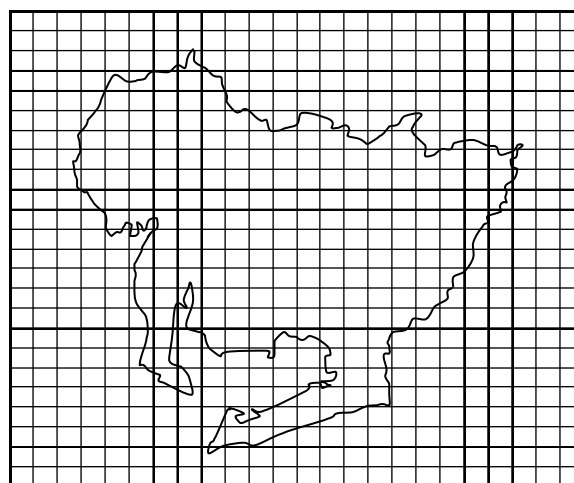
【国内の分布】

おそらく本地域に固有である。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。小林 (2006) は「尾根筋などやや乾燥した林内」と述べているが、確認できた 4 カ所はいずれも沢沿いのやや湿潤な場所であった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どこでも個体数は少ない。上層木に被陰されて衰退しているだけでなく、シカによる食害が著しく、完全な状態の株はほとんど見られなくなっている。すでに絶滅した場所もあると思われる。集団数は推定値である。

【保全上の留意点】

個体数調整など草食獣の増加への対策が必要である。防護策の設置も検討されるべきである。

【特記事項】

従来オオダイトウヒレン (大原, 1971) とされたり、タカオヒゴタイ (小林, 2006) とされたりしてきた植物である。形態的には両者の中間型で、葉にバイオリン状の湾入がある点はタカオヒゴタイに合致し、花序群の形態は散房状でオオダイトウヒレンに似る。詳細な検討が必要だが、現状では良好な資料を採取することも困難である。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.73, 210. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.
大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.125. 名古屋営林局, 名古屋.

オオオナモミ *Xanthium strumarium* L. (図版 4)

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 1、人為圧階級 2、固有度階級 2。愛知県では極めて希少で、全国的にも減少傾向の著しい人里植物。総点は 13 であるが、帰化植物であるオオオナモミ *X. occidentale* Bertol. との競合が著しいので絶滅危惧 I B 類と評価する。

【形態】

大型の 1 年生草本。茎は高さ 1m 以上になるが、愛知県に現存するものは 30cm 程度である。葉は互生し、長さ 4~10cm の柄があり、葉身は卵状三角形~卵状五角形、長さ 6~15cm、浅く 3~5 裂し、基部は心形、辺縁には不揃いな欠刻状の鋸歯がある。花期は 8~9 月、頭花は単性で、雄頭花は葉腋から出る短い円錐花序につき、雌頭花はその基部につく。果期の雌頭花は楕円形のいが状になり、先端に 2 個の嘴があり、嘴を含めて長さ 10~15mm、表面は毛が多く光沢がない。いがの周囲の刺はオオオナモミに比べてまばらで短く、長さ 1.5~2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

知多南部(芹沢 83436)。1 カ所に小群落がある。新城(新城町, 鳥居喜一 22629, 1940-8-11, HNSM)、豊橋南部(福岡, 鳥居喜一 22631, 1942-9-6, HNSM)、渥美(泉福寺~石神, 井波一雄 s.n., 1963-10-31, CBM71366)、名古屋南東部(南区富部, 井波一雄 s.n., 1979-11, CBM204341) で採集された標本もある。これらのうち新城の標本等はいがが大きく、オオオナモミとの雑種の可能性がある。

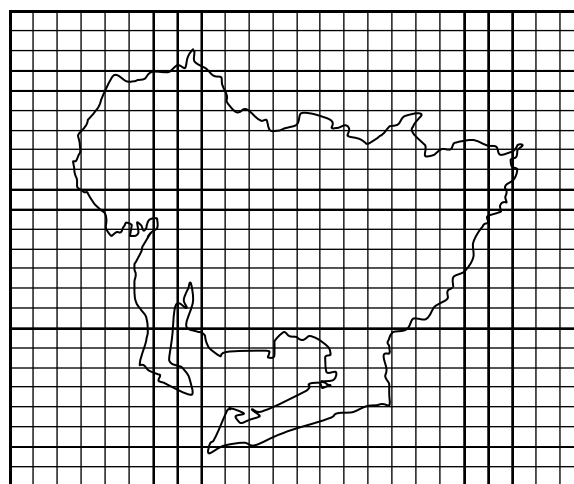
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。かつては全国各地の路傍等に普通に見られたというが、現在では容易に見ることができない植物である。古い時代にアジア大陸から帰化したものという説もある。

【世界の分布】

ユーラシア大陸に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

路傍、空き地などの攪乱地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2008 年に確認できた範囲では、小公園状の空き地の半日陰の場所に、高さ 30cm 程度の小型の個体が 10 数株 (1 年生草本なので個体数階級は 4) 生育していただけである。隣接した日当たりのよい場所にはオオオナモミの 100 株を超す群落があり、それとの競合によっていつ消滅してもおかしくない状況である。オオオナモミとの雑種と推定される個体もあり、遺伝的汚染も懸念される。

【保全上の留意点】

競合種であるオオオナモミの除去が望ましいが、現実問題としては難しい。本種のような植物については、人為的な系統保存を考慮する必要がある。

【特記事項】

愛知県では、小林元男氏によって 2006 年に生育が再確認された植物である(小林・深谷, 2008)。「海岸沿いの道端で十数株が群生し、隣接してオオオナモミも数株見られた」と記述されており、少なくとも 50cm 以上はありそうな個体の写真が掲載されているが、別の群落なのか、2 年間で状況が変化したのかははっきりしない。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.209, 266. 佐久島会, 刈谷。

【関連文献】

保草本 I p89、平草本 III p.160。
長田武正, 1976. 原色日本帰化植物図鑑 p.84, 85. 保育社, 大阪。

マルバオモダカ *Caldesia parnassifolia* (Bassi ex L.)Parlat.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地が極めて少ない。

【形態】

浮葉性または挺水性の多年生草本。茎は短く、葉は束生し、長い葉柄がある。葉身は卵円形または腎形、直径 5～10cm で、先はとがらず、基部は心形、辺縁は全縁である。花期は 8～9 月、花茎は水の深さによって異なるが長さ 30～100cm になり、その上部に枝を 3 個ずつ輪生する大きな円錐花序をつくる。花はそれぞれの枝に 3～5 個ずつ輪生し、両性、がく片は 3 個、花弁は 3 個で白色、卵円形で長さ約 4mm、上部の辺縁には小さい歯牙状の欠刻がある。水中にある花序にはむかごができ、これが脱落して栄養繁殖と越冬のための器官となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸尾張旭（塚本威彦 2905）。藤岡（深見、日比野修 802, 1992-9-9）にもあったが絶滅した。新城（八名村庭野、鳥居喜一 9232, 1952-9-1, HNSM）と刈谷知立（刈谷市牛池、加藤潤子 129, 1978-8-11）で採集された標本もある。

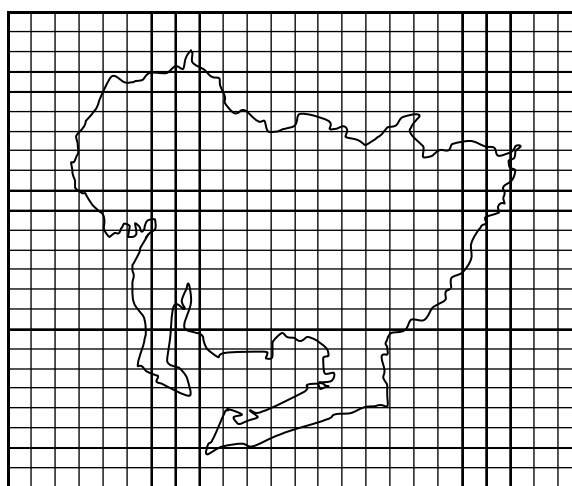
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸、インド、オーストラリア、マダガスカルなど。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水のきれいなため池や湖沼に生育する。水田に生育することもあるという。愛知県の生育地は、いずれも丘陵地のため池である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

瀬戸尾張旭では 2 地点で生育が確認されている。そのうち 1 カ所ではよく生育しており、個体数も数十株あるが、他の 1 カ所ではもともとの生育地が埋め立てられ、下流の水路沿いに僅かに残存しているだけである。藤岡では、生育地が干上がり絶滅した。刈谷知立（刈谷市牛池）では、大学統合移転のためにその用地にあった畜舎が移転し、その排水が洲原池に流入して過栄養化を引き起こし、更にその水が下流の牛池に流入して、絶滅した。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生活場所になっている。しかし、本種が生育できるような生活排水の流入しない位置にあるため池は、一方で管理放棄により水がなくなっているものも多い。現在本種が生育しているため池を現状のまま維持するだけでなく、潜在的な生育地である良好な状態のため池をできるだけ多く保全することが必要である。また、大学統合移転の事例でもわかるように、一つの開発事業は、玉突き的に他の環境破壊を招くことがある。事業者の直接責任が及ばない間接的な環境影響についても、「未必の故意」が予測されるものについては、しっかりした評価が必要である。

【特記事項】

「日本の野生植物」Ⅰの 2 図版には、刈谷市で 1974 年に撮影された写真が掲載されている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.399、平草本Ⅰp.2、SOS 旧版 p.89、環境庁 p.560、SOS 新版 p.123,125。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.17. 文一総合出版, 東京。

セトヤナギスブタ *Blyxa alternifolia* (Miq.)Den Hartog

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 3。おそらく減少傾向の著しい水草で、愛知県は分布域の東限にあたる。

【形態】

沈水生の 1 年生草本。茎は長さ 2~5cm になり、多数の葉を密につける。葉は線形、長さ 6~10cm、幅 3~5mm、先はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 7~10 月、花は葉の間から出て、両性、円筒形で長さ 3~5cm の苞鞘があり、花弁は 3 個で白色、狭線形、長さ約 13mm である。種子は紡錘形、長さ約 2mm、尾状突起はなく、表面に 2~10 個の低い隆起がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

旭(小林 57997)、瀬戸尾張旭(芹沢 81107)、日進長久手(半田多美子 2649)、知多南部(芹沢 64390) の 4 区画で確認されている。半田武豊(武豊町東大高, 相羽福松 724, 1980-8-1) で採集された標本もある。

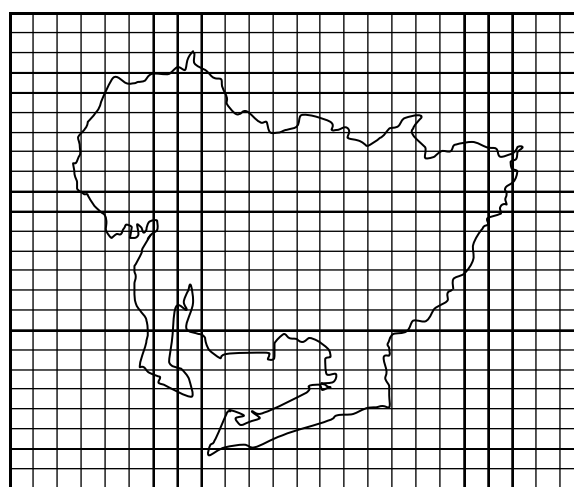
【国内の分布】

本州(中部地方以西)。

【世界の分布】

東南アジアに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水田やその周辺の小水路に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。ほとんど谷戸田だけに生育しているため、耕作放棄により消滅する可能性も高い。瀬戸市山ノ田町では老夫婦の耕作する谷戸田に多数の個体が生育していたが、耕作が行われなくなった途端雑草が繁茂して消滅した。

【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう、あるいはそれが不可能なら、代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態を維持する努力が必要である。

【特記事項】

日本では、愛知県瀬戸市で初めて確認された植物である(浜島, 1982)。スブタとヤナギスブタの中間のような形態をしており、ヤナギスブタからは茎が短く、葉が長いことで区別できる。「植物からの SOS」(SOS 旧版)に、両者が比較できる写真が掲載されている。小型の個体は茎がほとんど伸長せず、むしろスブタと紛らわしい。

【引用文献】

浜島繁隆, 1982. 日本新産セトヤナギスブタ(新称). 植物研究雑誌 57: 223-224.

【関連文献】

SOS 旧版 p.89+図版 24、SOS 新版 p.126,128.
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.

マルミスブタ *Blyxa aubertii* L.C.Rich.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地が極めて少ない。

【形態】

沈水性の 1 年生草本。茎は短く、多数の葉を束生する。葉は線形、長さ 8~20cm、幅 4~6mm、先端はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 8~10 月、花は葉の間に束生し、両性、苞鞘は円筒形で長さ 3~5cm である。種子は楕円形で尾状突起がなく、長さ約 1.5mm、表面には縦方向に稜があり、細かい突起が散在する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田東部（芹沢 60063）、春日井（芹沢 78020）。各 1 カ所に生育している。犬山（城東村、井波一雄 s.n., 1955-10-2, CBM72480）と名古屋南東部（天白区平針、井波一雄 s.n., 1967-9-16, CBM130670）で採集された標本もある。

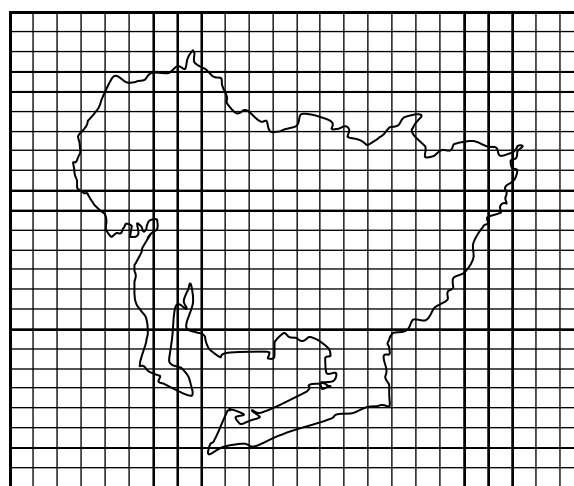
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インド、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

ため池や水田に生育する。愛知県の生育地はどちらも丘陵地のため池である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ、2 カ所で生育が確認されているだけである。個体数は年による変動が著しい。県内での増減については過去の情報がなく、よくわからないが、おそらく減少傾向にあるものと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生活場所になっている。しかし、本種が生育できるような生活排水の流入しない位置にあるため池は、一方で管理放棄により水がなくなっているものも多い。現在本種が生育しているため池を現状のまま維持するだけでなく、潜在的な生育地である良好な状態のため池をできるだけ多く保全することが必要である。

【特記事項】

スブタに比べ全体的に小型であるが、種子を見なければ明確な区別は困難である。スブタの種子の尾状突起の長さにはかなり変異があり、中にはごく短い個体もある。本種がどの程度明確に区別できるものか、詳細な検討が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.396、平草本Ⅰp.5、環境庁 p.560。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京。

トチカガミ *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。低地性の水草で、愛知県では減少傾向が著しい。

【形態】

水面に浮遊する多年生草本。茎は長く、水中を横にはい、節から根と数枚の葉を出す。葉は長さ 4~20cm の柄があり、柄の基部に 2 個の托葉がある。葉身は円心形、直径 4~7cm、全縁で、裏面の中央に気胞があり、水面に浮かぶ。花期は 8~10 月、花は柄が伸びて水面で開花し、雌雄異花、雄性の苞鞘内には約 5 個のつぼみができ、雌性の苞鞘内には雌花が 1 個だけ発達する。雄花、雌花ともに花弁は 3 個で白色、長さ 10~13mm である。冬には水中茎の先端が長さ 2~4cm の殖芽となり、水中に沈んで越冬する。

【分布の概要】

【県内の分布】

比較的最近では豊橋南部(小林 53162)、幡豆(中根幸司 1729)、日進長久手(半田多美子 3387)、東海知多(岡島錦也 612)、名古屋南西部(高木順夫 446)、尾西(渡辺幸子 4970)、祖父江(渡辺幸子 3212)、稲沢平和(水野峰子 266)、海部西部(山田茂貴 1156)、海部南部(芹沢 70843)で確認されているが、減少傾向が著しく、かなりの区画ではすでに絶滅したと思われる。集団数は推定値である。海部東部(甚目寺町坂牧)にもあったが、標本を採取しないで行ったうちに絶滅してしまった。豊橋北部(下地町、鳥居喜一 9278, 1942-9-6, HNSM)と名古屋北部(名城公園、井波一雄 s.n., 1967-9-14, CBM198532)で採集された標本もある。

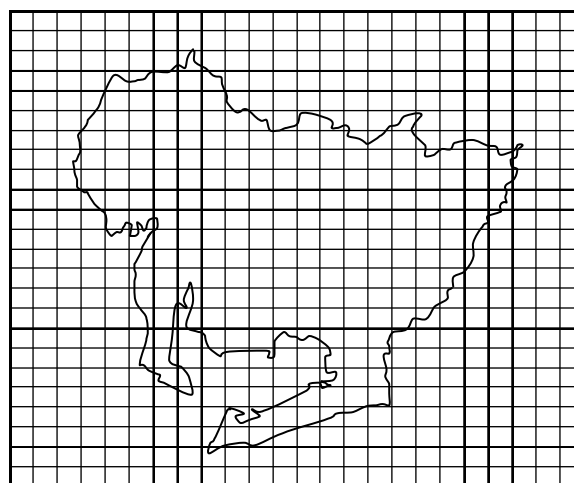
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から南アジア、オーストラリアにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

平野部の湖沼、ため池、水路などに生育する。一般に富栄養の、しかし過栄養でない水域に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

以前はあちこちにあった水草らしい。平野部の開発や湿田の減少により、生育可能地そのものが減少していることに加えて、除草剤の使用や生活排水の流入による水の汚染が減少要因である。

【保全上の留意点】

愛知県の水草は全般的に危急状態であるが、本種のような平野部に生育する水草は、特に危機的である。平野部に「めだかの学校」が見られるような澄んだ水辺を取り戻すことは、絶滅危惧種があるなしにかかわらず、重要な課題である。

【特記事項】

「トチ」は、スッポンのことである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.396、平草本Ⅰp.4、SOS旧版p.90+図版22。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.28. 文一総合出版, 東京.

ムサシモ *Najas ancistocarpa* A.Br.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 3。全国的に減少傾向の著しい低地性の水草で、愛知県でも生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

沈水性の 1 年生草本。茎は細く、よく分枝し、折れやすい。葉は多少なりとも反り返り、細く線形、長さ 1~2cm、辺縁には細かい鋸歯がある。葉の基部は長さ約 1.5mm の葉鞘となり、葉鞘の先端は円くて小刺がある。花期は 7~9 月、雌雄同株で、花は葉腋につく。果実は 1 個の種子があり、種子は長さ約 2.5mm、三日月形に湾曲し、表面にはやや縦に長い不明瞭な網目がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（浜島繁隆 1093）、渥美（芹沢 78185）、大府東浦（村松正雄 19816）、常滑（中井三従美 18）。各 1 カ所で確認されている。

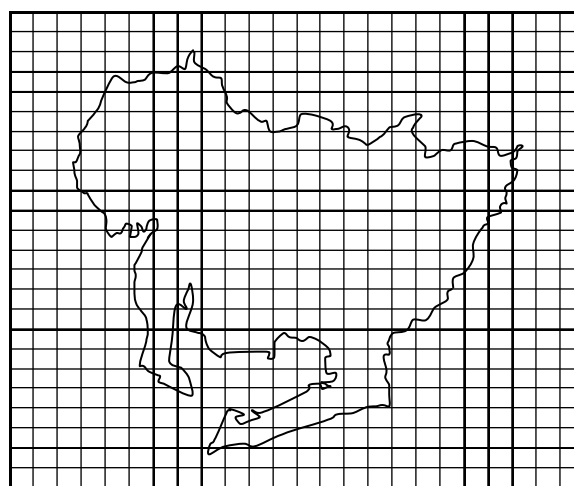
【国内の分布】

本州（関東地方以西）および四国。

【世界の分布】

日本および台湾。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

平野部や浅い丘陵地のため池に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋北部と常滑は水が濁っていて、量や生育状況はよくわからないが、水の汚染により危篤的狀況であることは明らかである。渥美は放棄された養魚場跡地、大府東浦は人工的な池で、どちらも本種の永続的な生育地ではない。渥美では 2008 年にはハスが植栽されており、本種は確認できなかった。

【保全上の留意点】

愛知県の水草はほとんど全てが危機的であるが、その中でも本種のような平地性の種は、まさに風前の灯火である。本種に関しては、生育地のため池の水質を現在以上に悪化させないよう細心の注意をはらうと共に、保険的措置として、人為的な系統保存を図る必要がある。

【特記事項】

茎葉はイトトリゲモに似ているが、やや小型である。種子があれば著しく湾曲しているため、識別は容易である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.409、平草本 I p.18、環境庁 p.190。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京。

ヒロハノアマナ *Amana latifolia* (Makino) Honda

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい早春植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。地下深くに、卵形で長さ 3~4cm の鱗茎がある。鱗茎の外皮は暗褐色である。葉は花茎の下部に 2 個つき、根出葉のように見え、線形で長さ 15~20cm、幅 7~15mm、全縁、中央に明瞭な白線がある。花期は 4~5 月、花茎は直立し、地上部の高さ 15~20cm で、通常 3 個の苞があり、先端に 1 個の花をつける。花被片は 6 個、白色で暗紫色の脈があり、披針形、18~24mm、先端は鈍頭である。蒴果は円形で 3 稜があり、長さ約 1.2cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（芹沢 68994）、豊川宝飯（加藤等次 4357）、豊橋北部（芳山朋子 311）。

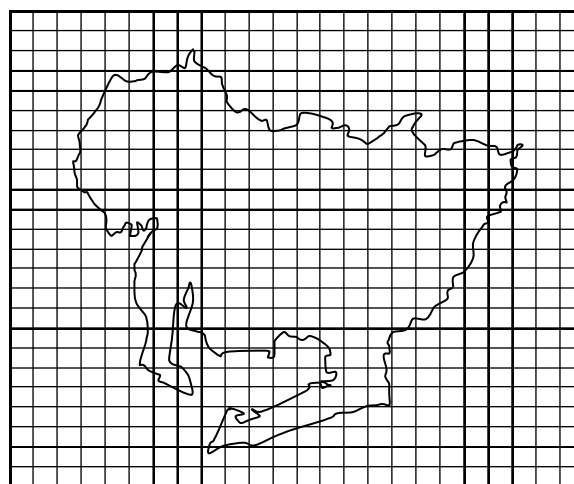
【国内の分布】

本州（関東地方~近畿地方）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地や丘陵地の草地、疎林内などに生育する。春早く、上層の樹木や他の草本が葉を展開させる前に葉を伸ばして光合成を行い、初夏には地上部が枯れてしまう年生活環を持つため、常緑性の植物が茂ると生育できなくなる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少なく、またどの場所でも個体数が少ない。里山が利用されなくなりどの場所も遷移が進行したため、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

生育地のネザサや常緑低木を除去し、早春期の光条件を確保する必要がある。園芸目的の採取やカメラマン・観察者による踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

チューリップ属 *Tulipa* とされることもある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.119、平草本Ⅰp.38、SOS 旧版 p.92、環境庁 p.571。

キジカクシ *Asparagus schoberioides* Kunth

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の草党性植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下に根茎がある。地上茎は高さ 50~100cm、上方でよく分枝する。葉は鱗片状に退化し、その腋から出る茎（葉状枝）が葉のように見える。葉状枝は葉腋に 3~7 個束生し、線形、長さ 10~20mm、扁平でゆるく湾曲する。花期は 5~6 月、花は葉腋に総状につき、雌雄異株、花被は 6 個、淡緑黄色、長さ 2~3mm、花柄は長さ 1~2mm で、頂端部に関節がある。果実は液果で、球形、直径 6~8mm、赤く熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 68613）。新城（中宇利，小林 20926, 1979-6-17）で採集された標本もある。

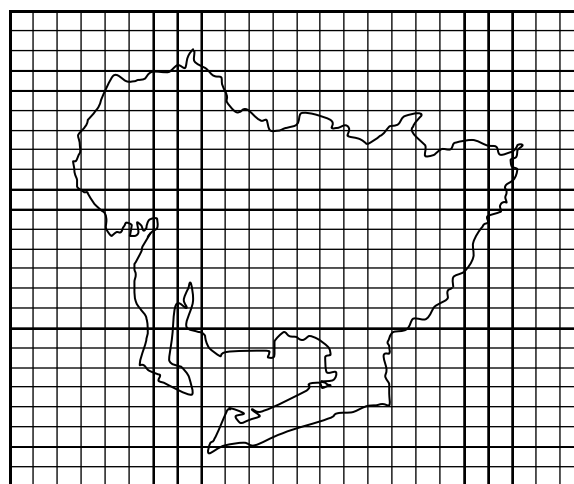
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、ウズベキスタン、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の草地や明るい林内に生育する。愛知県でも本来はそのような場所に生育していたと思われるが、現在では造林地内などに細々と残存しているだけである。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2カ所で確認されているが、どちらの場所でも被陰により衰退しており、ほとんど開花しない状態である。ごく最近の状態は確認されていないが、すでに絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

もとはと言えば、やせ山を無理に造林地化したことが問題である。しかし当時は、「ブナ林撲滅」などという現在では考えられないようなスローガンが真面目に掲げられていた時代であり、どんな場所にもすべて植林という発想はやむを得なかった面もあると思われる。今となっては、間伐など、造林地の適切な手入れを継続することが必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.114、平草本Ⅰp.42、SOS旧版p.92。

ステゴビル *Caloscordum inutile* (Makino) Okuyama et Kitagawa

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。全国的に希少な植物で、愛知県でも生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下に球形で直径 1~1.5cm の鱗茎がある。鱗茎の外皮は膜質で淡褐色である。根出葉は束生し、扁平な線形で長さ約 30cm、晩秋に出て冬を越し、夏に枯れ、その後に花茎が出る。花期は 9~10 月、花茎は高さ 15~30cm で、先端に数個の花を散形状につけ、花被片は 6 個で白色、線状披針形、長さ 7~8mm、下部は合着し、上部は開出する。雄ずいは 6 個、花被片より短く、基部が花被に付着する。果実は蒴果で扁円形、長さ約 4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 83354）、渥美（芹沢 73285）。各 1 カ所で確認されている。

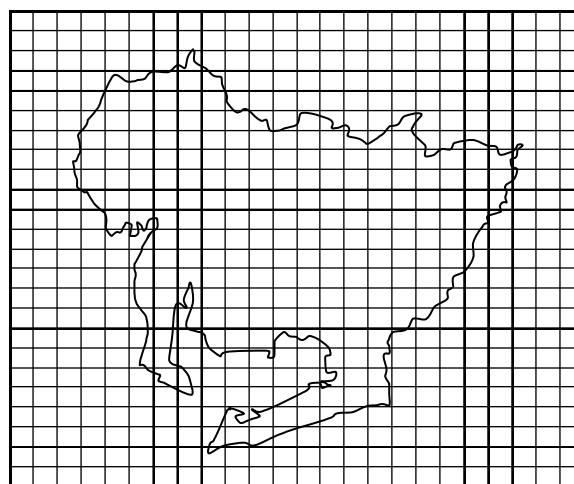
【国内の分布】

本州（茨城県、埼玉県、愛知県、岐阜県、京都府など）に稀に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋北部（石巻山）は昔からよく知られた自生地であるが、現在ではごく少数の個体が残存しているにすぎない。渥美は比較的大きい群落である。マニアによる採取や観察者・カメラマンによる踏み荒らしが最も危惧される。

【保全上の留意点】

どちらの自生地も当面開発が想定される場所ではなく、なるべく人に知られないことが最善の保全策である。

【特記事項】

「日本の野生植物」Ⅰ 28 図版には、石巻山で撮影された写真が掲載されている。ネギ属に似ているが、臭気がなく、花被片は中部以下で合着する。中国大陸と日本に各 1 種があるだけの小属である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.125、平草本Ⅰ p.37、SOS 旧版 p.92+図版 11、環境庁 p.566。

チャボシライトソウ *Chionographis koidzumiana* Ohwi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 3。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は短い。葉は束生し、長さ2~8cm、葉身は卵形~狭卵形、先端は鈍頭、辺縁の下部は細波状となり、基部は細まって柄状になる。花茎は高さ12~30cmで、分枝せず、線状披針形の茎葉がある。花期は5月、花茎先端の穂状花序にややまばらに花をつけ、花被片は4個、白色または淡緑色、糸状で長さ9~15mm、先は幅広くならない。下方2個の花被片は退化する。果実は蒴果で長楕円形、長さ3~4mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 43450)、豊根 (小林 43414)。

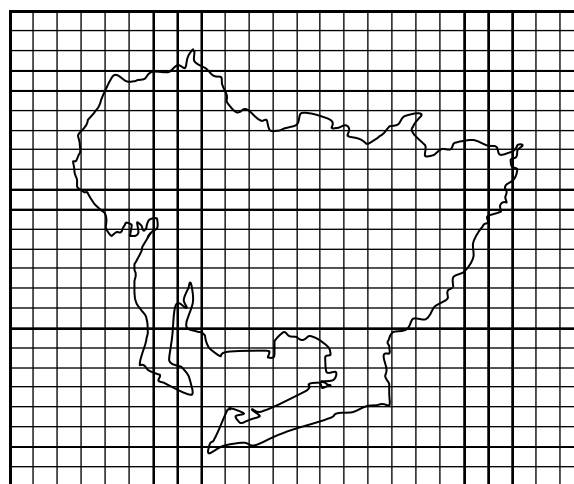
【国内の分布】

本州 (愛知県、紀伊半島)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内や沢沿いの岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小群落があるだけで、しかも一昔前に比べ、個体数の減少が著しい。園芸目的の採取が、減少の最大の要因と思われる。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取やカメラマン・観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

愛知県のは本種としては大型で、ミカワシライトソウ var. *mikawana* Ohwi et Okuyama として区別されたこともある (大井・奥山, 1953) が、現在では特に区別されないことが多い (村田, 1954)。なお、日本の野生植物Ⅰ18 図版にはチャボシライトソウとして愛知県産の写真が掲載されているが、この写真はシライトソウである。

【引用文献】

村田 源, 1954. チャボシライトソウとミカワシライトソウ. 植物分類地理 15: 157-158.
大井次三郎・奥山春季, 1953. 新変種ミカハシライトソウ. 植物研究雑誌 28: 304.

【関連文献】

保草本Ⅲp.153、平草本Ⅰp.27 (写真を除く)、SOS 旧版 p.92、環境庁 p.368。

ミノコバイモ *Fritillaria japonica* Miq.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 3。分布域の狭い早春植物で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。鱗茎は球形で直径 7~12mm、半球形の 2 個の鱗片葉からなる。茎は 1 本だけ出て高さ 7~20cm、無毛である。葉は 5 枚つき、下方で対生、上方で 3 輪生、無柄、葉身は披針形~広線形で長さ 3.5~9cm、先端は鋭~鈍頭である。花期は 3~4 月、花は茎の先端に 1 個つき、下向きに開き、鐘形、花被片は 6 個、長楕円形、長さ 15~22mm、淡黄色で暗紫色の網目模様があり、辺縁は全縁である。葯は白色、染色体は $2n=22$ と報告されている。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（石川静雄 286）、豊橋北部（加藤等次 5544）。

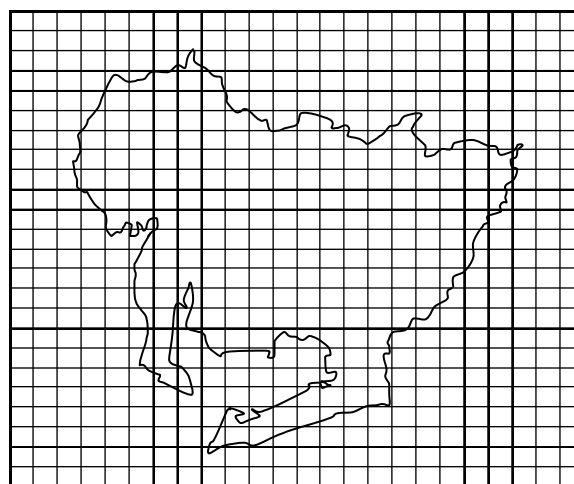
【国内の分布】

本州中部（岐阜県、愛知県、三重県）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地（愛知県の場合は山すそ）の落葉広葉樹林内に生育する。春早く、上層の樹木や他の草本が葉を展開させる前に葉を伸ばして光合成を行い、初夏には地上部が枯れてしまう年生活環を持つため、常緑性の植物が茂ると生育できなくなる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 区画の 3 カ所で生育が確認されている。そのうち 1 カ所では道路の拡幅工事のため絶滅と思われていたが、最近になって僅かに残存しているのが確認された。管理活動によって個体数は増加しているが、本来の自生状況は失われつつある。他の 2 カ所も開発の可能性があるが、その一方で場所を公表すれば園芸目的の採取にあう可能性が高く、板挟み状態である。

【保全上の留意点】

生育地のネザサや常緑低木を除去し、早春期の明るさを確保する必要がある。園芸目的の採取や物見高い自称自然愛好家の踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

四国東部に分布するアワコバイモ *F. muraiana* Ohwi は、葯が紫色、染色体数が $2n=24$ と報告されている。

【関連文献】

SOS 旧版 p.93+図版 11、環境庁 p.567。

コシノコバイモ *Fritillaria japonica* Miq. var. *koidzumiana* (Ohwi)H.Hara et Kanai

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。日本海側に分布の中心を持つ早春植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。鱗茎は球形で直径約 10mm、半球形の 2 個の鱗片からなる。茎は 1 本だけ出て高さ 10~20cm、無毛である。葉は 5 枚つき、下方で対生、上方で 3 輪生、無柄、葉身は披針形~広線形、長さ 4~8cm、先端は鈍頭である。花期は 4~5 月、花は茎の先端に 1 個つき、下向きに開き、鐘形、花被片は 6 個、長楕円形、長さ 15~20mm、淡黄色で暗紫色の網目模様があり、辺縁に歯牙状の突起がある。葯は白色、染色体は $2n=24$ と報告されている。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 41124)。

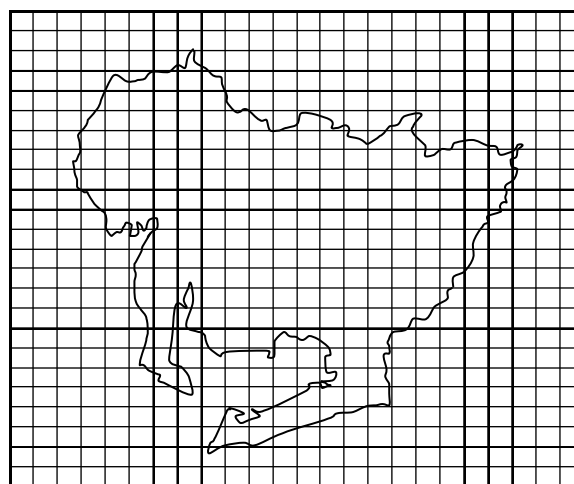
【国内の分布】

本州中部 (北陸地方、愛知県、静岡県)。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は山地の落葉広葉樹林内に生育する。春早く、上層の樹木や他の草本が葉を展開させる前に葉を伸ばして光合成を行い、初夏には地上部が枯れてしまう年生活環を持つため、常緑性の植物が茂ると生育できなくなる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

3カ所で確認されているが、どの場所も個体数は少ない。愛知県の生育地はいずれもスギ・ヒノキの造林地で、被陰により衰退傾向が著しく、花をつける個体はほとんどない。

【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な手入れが必要である。本種の生育地も開発があり得ないわけではないが、ミノコバイモに比べればその可能性は低い。園芸目的の採取を防止することも重要で、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

最近では独立種 *F. koidzumiana* Ohwi として扱われることが多い。

【関連文献】

保草本Ⅲp.117、平草本 I p.39、SOS 旧版 p.93、SOS 新版 p.31,33。

キバナノアマナ *Gagea lutea* (L.)Ker-Gawl.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の早春植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下に卵形で直径 1cm ほどの鱗茎がある。根出葉は 1 個、線形でやや厚く、長さ 15~30cm、幅 5~10mm、はじめ軟毛が少しあるが、後に無毛となる。花期は 4~5 月、花茎は高さ 15~25cm で、その先端に 4~10 個の花が散形状につく。花柄は長さ 1~5cm、花被片は 6 個で黄色、線状長楕円形で長さ 12~15mm、先端は鈍頭、雄ずいは花被片より短い。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (村松正雄 15045)、鳳来北東部 (加藤等次 4393)。東栄 (本郷高校裏, 鳥居喜一 11840, 1956-4-8, HNSM) で採集された標本もある。

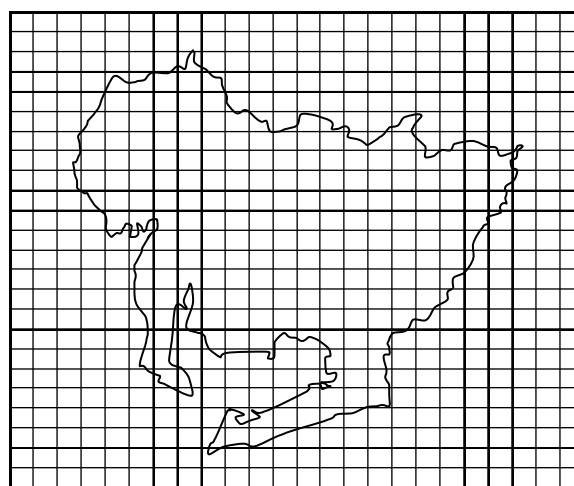
【国内の分布】

北海道、本州、四国。ただし本州西部と四国では少ない。

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の草地や林縁、明るい林内などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 区画の各 1 カ所で確認されているが、どちらも個体数が少なく、また減少傾向も著しい。草地の利用停止に伴う被陰と園芸目的の採取が、減少の主要な要因である。

【保全上の留意点】

生育地の草刈りを継続し、草地状態を維持することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.118、平草本 I p.35、SOS 旧版 p.93。

ゼンテイカ *Hemerocallis dumortierii* Morr. var. *esculenta* (Koidz.) Kitam.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。山地性の植物で、愛知県は分布域の南西限に近い。県内では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は短く、太く、通常ふくらみのない根を出す。葉は束生し、2列に重なり合い、長さ 60~70cm、幅 16~20mm、無毛である。花期は亜高山帯では 7~8 月だが低地ではより早く、花茎は高さ 60~80cm、先端部の花序は短く、長さ 1.5~6cm、2 分枝し、3~10 個の花を総状につける。花柄は長さ 0.5~3cm、花筒は長さ 15~20mm、花被片は 6 個で橙黄色、長さ 6.5~8cm である。果実は蒴果で広楕円形、長さ 20~25mm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄(小林 44298)、設楽西部(小林 44089)、鳳来北西部(小林 51994)。豊根(萩太郎山の野草園)にもあるが、これは植栽されたものである。

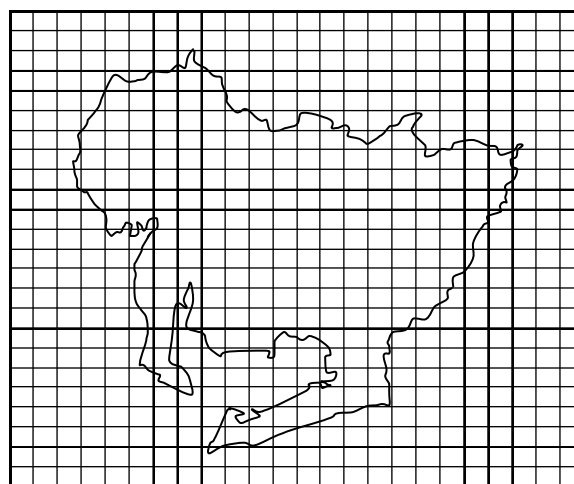
【国内の分布】

北海道、本州(中部以北)。

【世界の分布】

サハリン、千島列島南部、日本。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の草地に群生するが、標高の低い場所では川岸や岩場、明るい林内などに生育する。愛知県の生育地もそのような場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

3カ所とも小群落で、そのうち1カ所はすぐ近くまで採石が行われている。別の1カ所は道路沿いで、園芸目的の採取により減少している。

【保全上の留意点】

採石場の拡大や道路の改修の際には、注意が必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。萩太郎山のものは生物多様性の観点からは保全の対象にならず、むしろ除去が望ましい。

【特記事項】

ニッコウキスゲとも呼ばれ、初夏の高原を飾る花として有名である。変種小名は「食べられる」という意味で、若葉、つぼみ、花は食用になる。基準変種のヒメカンゾウは、原産地不明の栽培品である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.142、平草本Ⅰp.30、SOS旧版p.94+図版9(ニッコウキスゲとして)。

ウラジロギボウシ *Hosta hypoleuca* Murata

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 4。愛知県東三河地方の固有種で、園芸目的の採取のために減少している。

【形態】

多年生草本。茎は短い。葉は大きいものが 1~2 枚束生し、長さ 15~35cm の柄があり、葉身は卵形、長さ 20~35cm、幅 13~25cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、質は厚く、表面は浅緑色、裏面は著しく粉白となる。側脈は片側に 10~13 あるが、脈はあまり隆起しない。花期は 7~8 月、花茎は分枝せず、長さ 30~40cm、基部で少し曲がり、葉より高くなりならず、先端部の短い総状花序に多数の花をつける。苞は開花時に開出せず、しおれない。花冠は長さ 3.5~4.5cm、狭筒部と広筒部は同長、先端は 6 裂し、白色であるが、内側の中央部は紫色をおびる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 38786)、鳳来北東部 (加藤等次 1687)。

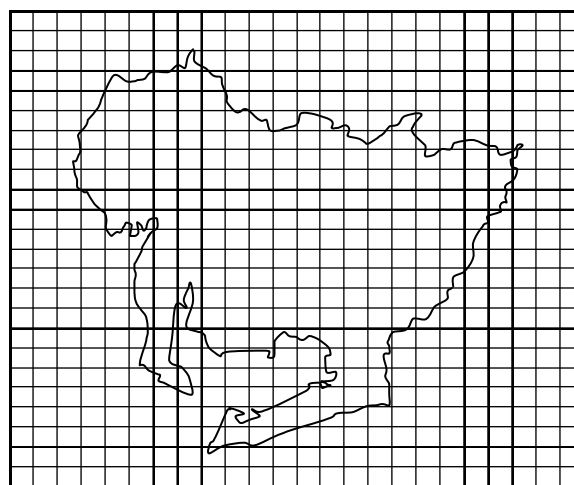
【国内の分布】

本州 (愛知県) だけに分布している。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

岩壁の湿った部分に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、実際にある場所も限られている。園芸目的の採取のため、手の届く範囲はほとんどなくなっている。地形が急峻なので全滅するおそれは少ないが、そのうちに事実上観察できない植物になってしまう可能性は高い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

村田 (1962) によって記載された植物である。基準標本は同氏が旧三輪村で 1953 年 9 月に採集されたもので、京都大学総合博物館 (KYO) に保管されている。

【引用文献】

村田 源, 1962. 植物分類雑記 7, (25)ウラジロギボウシ. 植物分類地理 19: 67-68.

【関連文献】

保草本Ⅲp.137、平草本 I p.32、SOS 旧版 p.94+図版 6、環境庁 p.369、SOS 新版 p.47,49.

ホソバナアマナ *Lloydia triflora* (Ledeb.) Baker

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。温帯性の早春植物で、愛知県では生育地、個体数共に極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下に広卵形で長さ 6~10mm の鱗茎がある。根出葉はふつう 1 個、線形で長さ 10~20cm、幅 1.5~3mm、平滑で 3 稜がある。花茎は高さ 10~25cm、中部以上に 5~8 個の葉をつけ、大きいものは披針形、長さ 2~7cm、上部のものほど小さく、線形になる。花期は 5~6 月、花茎の先端に 1~5 個の花つけ、花被片は 6 個、白色で線状長楕円形、長さ 11~15mm、先端は鈍頭、雄ずいは 6 本で、花被片の 1/2~3/5 の長さである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 34149)。

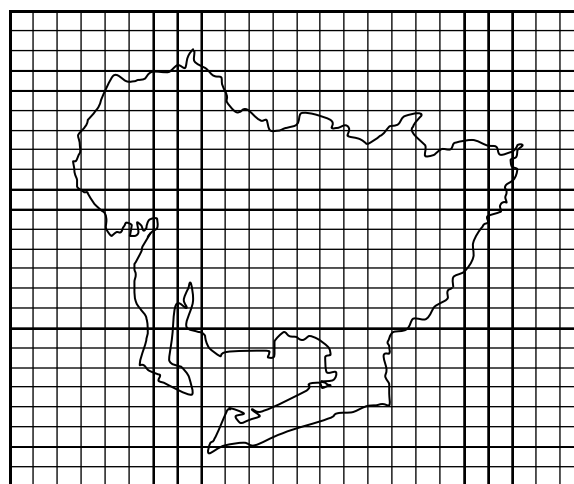
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア、サハリン、千島列島、カムチャッカ、北アメリカ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の草原や林縁、時に明るい林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

確認されている生育地は 1 カ所だけで、個体数も少ない。道路沿いのため、改修工事等で失われる可能性がある。園芸目的の採取も危惧される。

【保全上の留意点】

道路の拡幅に際しては、注意が必要である。園芸目的の採取やカメラマン・観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.120、平草本 I p.38、SOS 旧版 p.94。

ヒメマイヅルソウ *Maianthemum bifolium* (L.) F.W.Schm.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。寒冷地系の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。細く長い根茎がある。地上茎は高さ 8~15cm になる。茎葉は 2 個あって互生し、葉身は卵形、長さ 3~5.5cm、幅 2~3.5cm、先端は鋭頭、基部は心形、葉縁には微小な毛状で半透明の鋸歯があり、葉の裏面や茎の上部に毛が多い。花期は 5~7 月、茎の先端に 1 個の総状花序をつけ、花被片は 4 個、白色、楕円形で長さ約 2mm、平開して先は反り返り、雄ずいも 4 個である。果実は液果で球形、赤色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽東部（小林 51701）。1 カ所で確認されているだけである。

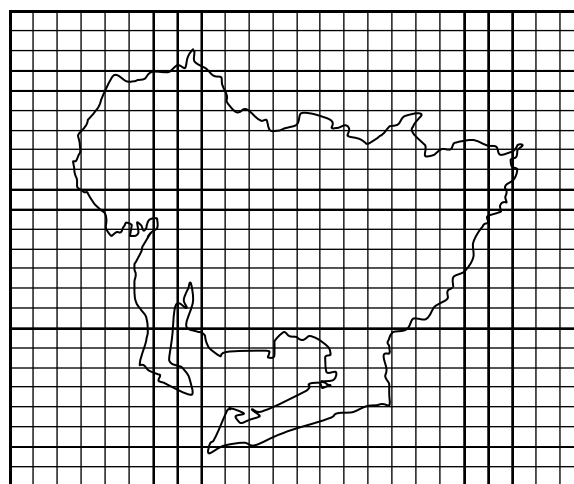
【国内の分布】

北海道、本州（中部地方以北）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア、サハリン、カムチャッカ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常亜高山帯の針葉樹林内に生育する。愛知県の生育地は、落葉広葉樹の二次林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小群落があるだけで、生育状態もあまりよくなく、開花する個体はごく僅かである。当面開発が想定される場所ではないが、伐採や、希少性につられての園芸目的の採取が懸念される。

【保全上の留意点】

生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

マイヅルソウに似ているが、葉がやや細長く、葉縁に微小な鋸歯があり、葉裏や茎の上部に毛がある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.107、平草本Ⅰp.48、SOS 旧版 p.95。

エンレイソウ *Trillium smallii* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。地下茎は太く短く、丈夫な根を出す。地上茎は高さ 20~40cm で、先端に 3 枚の葉を輪生する。葉は無柄、葉身は卵状菱形、長さ幅ともに 6~17cm、先は急に短くとがり、基部は広いくさび形で、網状脈がある。花期は 4~5 月、花は 3 枚の葉の中央に 1 個、やや横向きにつき、長さ 2~4cm の柄があり、外花被片は 3 個、緑色または紫褐色、卵状長楕円形で長さ 12~20mm、宿存性、内花被片は通常ない。果実は液果で、3 稜のある球形、直径 1~2cm、黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 36382)。豊根 (塩瀬, 加藤等次 2084, 1968-4-14) で採集された標本もある。

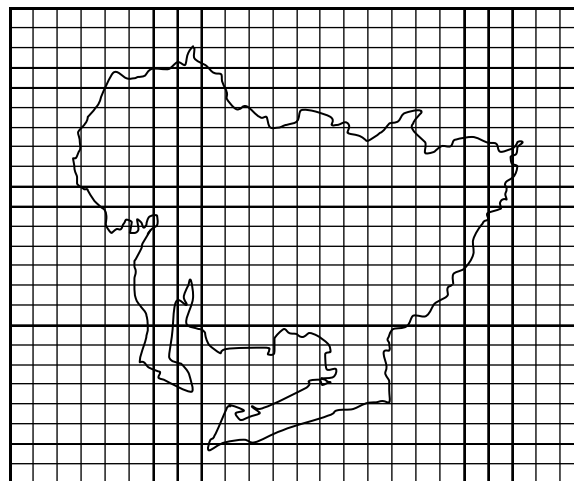
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、千島列島南部、日本。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

全国的には比較的多い植物であるが、どういいうわけか愛知県では極めて少なく、1カ所に小群落があるだけである。「スギ林の手入れ不足とニホンカモシカなど大形獣類の食害のため(?)、…衰退が著しく絶滅のおそれが高い」と報告されている (小林, 2006)。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

「延齡草」という優雅な名がつけられているが、語源はよくわからない。北海道のオオバナエンレイソウなどと異なり、それほど花が美しいわけではない。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.78. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.102、平草本 I p.44、SOS 旧版 p.96.

ミカワバイケイソウ *Veratrum stamineum* Maxim. var. *micranthum* Satake（図版 5）

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。本地域の湧水湿地を特徴づける寒冷地性植物の一つで、本地域の固有分類群とされている。

【形態】

大型の多年生草本。太く短い地下茎がある。地上茎は高さ 90~150cm、茎葉は互生し、基部につくものは鱗片状、中部以上につくものは 10~14 枚あって長楕円形~楕円形、長さ 20~35cm、幅 8~15cm、先端は鋭頭、基部は鞘になって茎をつつみ、裏面に短毛がある。花期は 5 月、茎の先端に長さ 20~40cm で 2~9 本の枝がある大きい円錐花序をつけ、多数の花をつける。花は両性花と雄花があり、主軸上のは両性花、他は雄花のことが多いが、ほとんど全部が両性花のこともある。花被片は 6 個、白色、長楕円形で長さ 5~8mm、通常辺縁に著しい歯牙状の欠刻があるが、ほとんど全縁のものもある。雄ずいは 6 本、花被片よりやや長い。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（芹沢 55563）、作手（芹沢 55065）、新城（芹沢 65010）、豊橋北部（芹沢 58545）、藤岡（芹沢 58580）、豊田東部（山田 弘 3）、瀬戸尾張旭（芹沢 54779）、犬山（山田果与乃 673）。小原（北永太郎，井波一雄 s.n., 1961-64, CBM70861）で採集された標本もある。

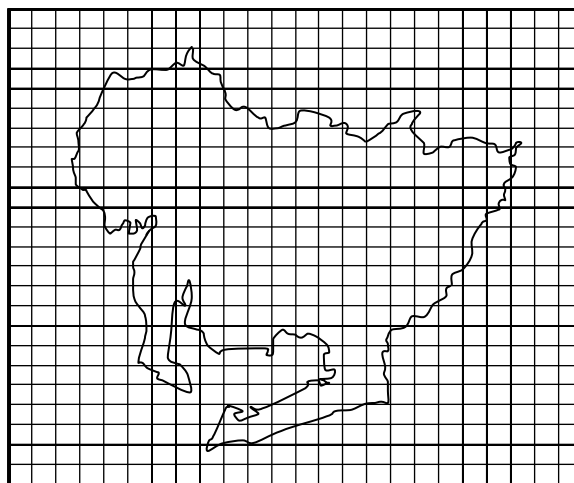
【国内の分布】

本州（長野県南部、静岡県西部、岐阜県、愛知県）。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地や低山地の湧水湿地や、その下流部の林内に生育する。時には谷戸田のあぜに生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

設楽西部、藤岡、瀬戸尾張旭には比較的多い場所があるが、他は小群落が点在しているにすぎない。本来は陽地性の植物と思われるが、現在ではまわりの樹木が生長し、生育地が林内になってしまっていることが多い。林内に生育しているものはしばしば花付きが悪く、中にはほとんど開花しない群落もある。作手では、かつては湿原に多く生育していたと言うが、開拓により激減し、現在では僅かに残存しているにすぎない。犬山では明治村の建設に伴い絶滅したと思われていたが、他の場所で生育が確認された。明治村敷地内にも僅かに残存している。

【保全上の留意点】

湧水湿地とその周辺の地形を保全すると共に、場所によっては上層の樹木を伐採し、群落の光条件を回復させることが必要である。物見高い自称自然愛好家の殺到を避けるため、分布情報を公表する際には注意を要する。

【特記事項】

基準変種のコバイケイは亜高山の湿原に生育し、丈が低く、葉が密につく。花の大きさや雄ずいと花被片の長さの比は変異が大きく、はっきりした区別点にはならない。変種とされているが、分化の程度は小さい。ヤチヤナギと共に愛知県に産する寒冷期の遺存植物の代表的なもので、新城市で鳥居喜一氏が発見した当初は、「そんなものがあるはずがない。何を寝ぼけたことを言っているか」と笑われたそうである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.149、平草本Ⅰp.28、SOS 旧版 p.95、環境庁 p.571、SOS 新版 p.98,100。

コキンバイザサ *Hypoxis aurea* Lour.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。小型の草性植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、また減少傾向も著しい。

【形態】

多年生草本。地下茎は塊状で、直径 6～10mm である。葉は束生し、線形、長さ 10～25cm、幅 2～4mm、先端は鋭頭、辺縁は全縁、平行脈があり、全体に長い毛が多い。花期は 4～6 月、葉の間から長さ 5～10cm の細い花茎が出て、その先に 1～2 個の花をつける。花被片は 6 個で黄色、披針状長楕円形、長さ 4～6mm、平開する。外花被片の先端背面には、長い毛が多い。果実は蒴果で長楕円形、長さ 8～10mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（小林 69426）、豊川宝飯（小林 38530）、藤岡（日比野修 598）、額田（福岡義洋 924）。ただしどの場所もごく最近の状況は確認されておらず、一部ではすでに消失した可能性がある。

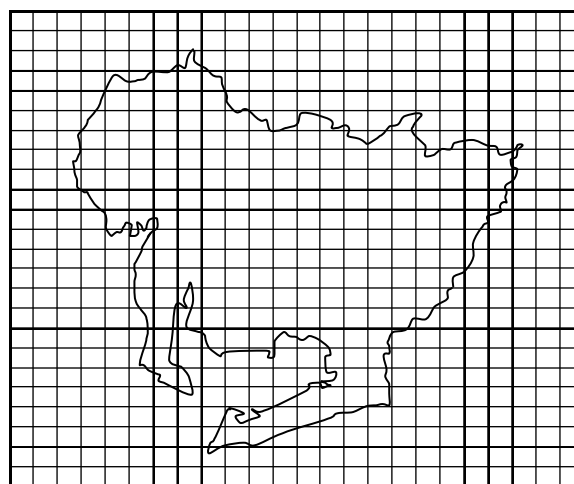
【国内の分布】

本州（宮城県以南）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、マレーシア、インド。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の山すその草地に生育する。愛知県では、谷戸田周辺の、頻りに草刈りが行われる場所に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所でも個体数は少ない。小型の植物なので、草刈りの頻度が低くなると、他の植物におおわれ消滅してしまう。過度の草刈りにより絶えてしまったと思われる例も皆無ではないが、それよりも谷戸田の放棄による草地の消失が、減少の最大の要因である。

【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう、あるいはそれが不可能なら代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態を維持する努力が必要である。

【特記事項】

目立たない植物なので、ていねいに調査すれば新産地が追加される可能性もある。調査の際には特に注意が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.86、平草本 I p.55、SOS 旧版 p.96。

アヤメ *Iris sanguinea* Hornem.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。山地の草地に生育する植物で、愛知県では本来の自生と思われるものは生育地、個体数ともに極めて少ない。栽培起源の逸出品は平野部のところどころで見られるが、これらは評価の対象外である。

【形態】

多年生草本。地下茎は分枝して褐色の繊維に被われる。葉は根生して互生し、2列に重なり合い、中脈に沿って表面を内にして折れて剣状になり、線形、長さ 30～50cm、幅 5～10mm、中脈はあるが目立たない。花期は 5～7 月、花茎は高さ 30～60cm で、先端に鞘状の苞をつけ、その中に 2～3 個の花がつく。花は紫色で直径 8cm 程度、外花被片は 3 枚、拡大部は広倒卵形で、斜めに垂れ、中央部は黄色、そのまわりは白色で、紫色の細脈がある。内花被片は楕円状倒披針形、長さ約 4cm で直立する。蒴果は長楕円形で長さ約 4cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 43235)、渥美 (小林 44488)。豊根側にもあるという (小林, 2006)。これ以外のものは、栽培品の逸出と思われる。

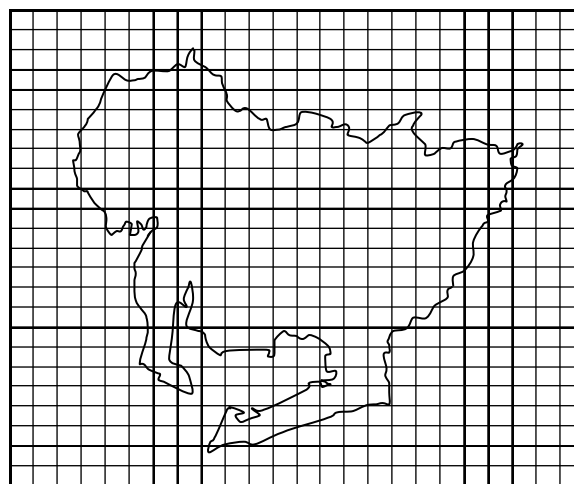
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の草原に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東栄は「10 株単位で生育していたが、2004 年に訪れたところ豊根側でわずかに余命を保っているだけで、東栄側では林内が暗く消滅したよう」と報告されている (小林, 2006)。渥美は小群落で、現在は植栽状だが、昔からあったものらしい。

【保全上の留意点】

生育地の草刈りを継続し、草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

同属の他種と異なり、湿地には生育しない。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.79, 218. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.79、平草本 I p.61、SOS 旧版 p.97.

イヌイ *Juncus yokoscensis* (Franch. et Sav.) Satake

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。北日本の海岸部に多い植物で、愛知県は分布域の南限と思われる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。根茎は太く直径 3~4mm、地中を横にはう。地上茎はところどころから接近して出て、高さ 30~50cm、扁平で数回ねじれ、下部に鱗片状の葉をつける。茎の基部の葉は赤褐色~黄褐色になる。花期は 5~6 月、花序は茎の先端につき、1~2 回散形状にわかれて長さ 2~4cm になり、10~20 個の花をつける。苞は長さ 5~18cm、茎状で、そのため花序は茎の上部に側生するように見える。花被片は 6 個、披針形で長さ 4~5mm、先端は鋭く尖り、中央部は緑褐色、辺縁部は黒褐色、内花被片ではその外側が白色半透明になり、雄ずいは 6 個、花被片のほぼ半分の長さである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東海知多（芹沢 77374）。1 カ所だけで確認されている。

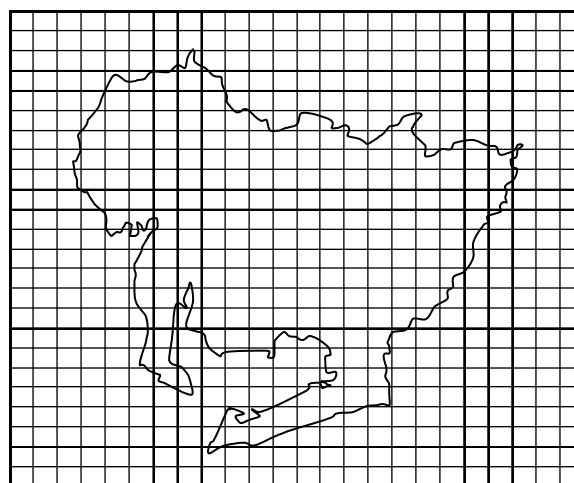
【国内の分布】

北海道、本州（北部）。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの砂地などに生育することが多い。愛知県の生育地は、愛知用水わきの草地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭いが、個体数は比較的多かった。ごく最近の状況は確認されていないが、この場所まで改修の手が及んでいけばすでに絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

現地は漏水等の心配がない場所であり、生育地を現状のまま保全することが必要である。

【特記事項】

茎が扁平なのでヒライ、ねじれるのでネジイとも呼ばれる。これらの特徴で、同属の他種から容易に区別できる。

【関連文献】

保草本Ⅲp.161、平草本Ⅰp.68、SOS 新版 p.199,206。

オオホシクサ *Eriocaulon buergerianum* Koernicke

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

1 年生草本。茎はごく短い。葉は束生して斜上し、披針状線形、長さ 8~20cm、基部で幅 5~8mm、全縁、先端は次第に細くなり、やや鈍端となる。花期は 8~10 月、花茎は多数つき、高さ 15~30cm、5~6 本の肋があって少しねじれ、先端に半球形の頭花をつける。頭花は直径約 6mm、多数の花からなり、総苞片は頭花より短く、広倒卵形、鈍頭、小花にははじめ白色の短毛があるが、後に少なくなる。子房と蒴果は 3 室である。

【分布の概要】

【県内の分布】

春日井 (芹沢 73395)。井波 (1988) によれば名古屋北部 (千種区池下) にもあったというが、標本は未確認である。

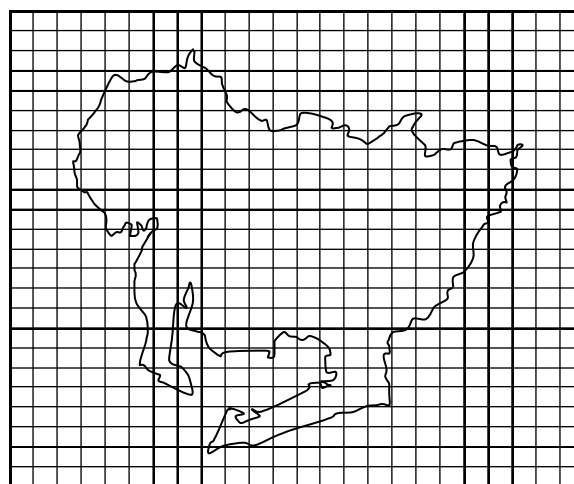
【国内の分布】

本州 (愛知県以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

干上がったため池の岸などの湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県内ではただ 1 カ所、春日井市の築水池で生育が確認されている。個体数は年による変動が大きく、水位が著しく低下した年にはかなりの群落になるが、水が引かなかった年には全く出現しないこともある。名古屋北部では、開発により絶滅したという。

【保全上の留意点】

上流に人家等のないため池であるため、当面は現状のまま生育できると思われる。ただし公園化によって訪れる人が増加しているため、何らかの状況の変化が起きる可能性もあり、継続的な注意が必要である。釣人が現在以上に増加すれば、踏み荒らしによる影響も懸念される。

【特記事項】

シラタマホシクサに比べ、丈が低く、葉が幅広く、頭花は白色の短毛が少なく淡黄褐色に見える。

【引用文献】

井波一雄, 1988. 三河や知多 (ともに愛知県) にはヌマカゼクサは生育分布しない. 植物研究集録 (24): 7-13.

【関連文献】

保草本Ⅲp.183、平草本 I p.81、SOS 旧版 p.98、SOS 新版 p.119,121。

ミカワイヌノヒゲ *Eriocaulon mikawanum* Satake et T.Koyama

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 4。本地域の固有種とされる植物で、生育地が狭い範囲に限られている。

【形態】

1 年生草本。茎はごく短い。葉は束生して斜上し、線形、長さ 2~9cm、幅 1~2mm、全縁、先端は細くとがる。花期は 8~9 月、花茎は多数つき、長くても 15cm 程度、基部に 1~5cm の鞘があり、密に生育している個体でなければ中央の 1 本だけが直立し、他は外側に開曲し、先端に 1 個の頭花をつける。頭花は小さく、直径 1~3mm、総苞片は披針形で、頭花の 1.3~2 倍である。小花には多少なりとも白色の短毛がある。子房と蒴果は通常 2 室が退化し 1 室となるが、稀に 2 室が発達する。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手 (芹沢 57426)、額田 (小林 53452)。
作手では村内の 3 カ所の湿地で確認されている。

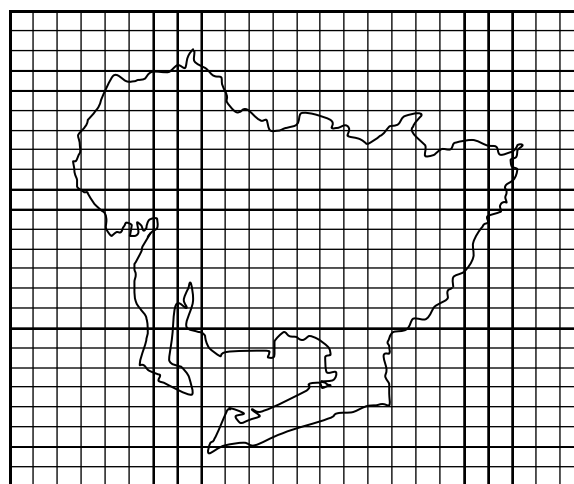
【国内の分布】

本州 (愛知県)。

【世界の分布】

日本固有種とされている。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山間部の湧水のある湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は良好な自然湿地に限られているが、そこでは個体数は多い。過去の湿原開拓の際には大きな影響を受けたと思われるが、近年に限れば小康状態である。

【保全上の留意点】

作手村には多数の湿地があったが、その多くは開拓等により埋め立てられ、良好な自然状態のまま残存しているものは僅かである。現在残存している湿地は、大小を問わず、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

愛知県の固有種とされているが、イヌノヒゲ *E. miquelianum* Koernicke は形態の変異が著しく、本種の特徴とされる形質は全てその変異内に収まってしまう (芹沢, 1992)。おそらくは、イヌノヒゲの極端型にすぎない。ただし、全形質の組み合わせがミカワイヌノヒゲと同じものは、作手村とその周辺以外では発見されていない。

【引用文献】

芹沢俊介, 1992. 愛知県および岐阜県東濃地方の丘陵・低山地における湿地性植物の現状 p.110-114. 愛知教育大学生物学教室, 刈谷.

【関連文献】

保草本Ⅲp.181、平草本 I p.79、SOS 旧版 p.98、環境庁 p.203、SOS 新版 p.63.65。

ミズタカモジ *Agropyron humidum* Ohwi et Sakamoto

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水田雑草で、愛知県でも生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。稈は束生し、高さ 40~70cm になるが、のちに倒れ、各節から新苗が出て、翌年の株となる。葉は互生し、葉身は線形、長さ 7~15cm、幅 3~7mm、葉鞘の外側は無毛、葉舌は長さ 0.7mm 程度である。花期は 5 月、花序は穂状で直立し、長さ 10~20cm、小穂は無柄、中軸に圧着し、長さ 17~22mm、はじめ淡緑色でのちに紫褐色を帯び、小花は数個で、護穎は長さ 9~12mm、無毛、先端に長さ 2~3cm の芒があり、内穎は護穎と同長である。

【分布の概要】

【県内の分布】

岩倉西春（芹沢 77360）、尾西（渡辺幸子 4231）、稲沢平和（水野峰子 291）。3 区画の 4 カ所で採集されており、海部東部（甚目寺町方領、吉田國二 920554, 1992-5-23, TNS）で採集された標本もあるが、いずれもごく最近の状況は確認されていない。上記の個体数・集団数階級は見込み値である。

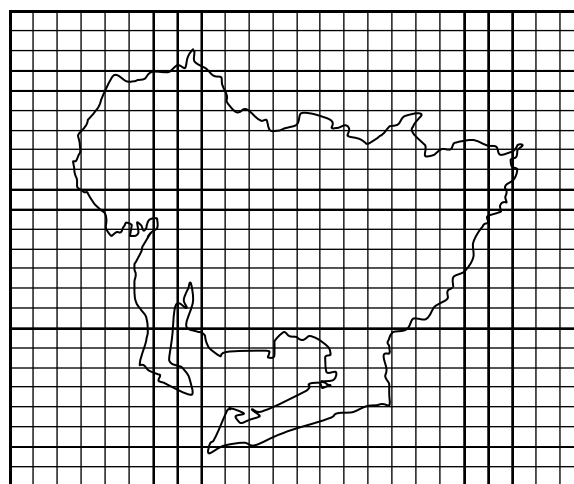
【国内の分布】

本州および九州に生育する。

【世界の分布】

日本および中国大陸に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

平野部の、耕起前の水田や休耕地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

尾西市の一部には比較的多く生育していた。他の 3 カ所は小群落であった。過去からの増減は情報が少なくよくわからないが、おそらくは農地改良によって湿地が減少すると共に、田植え機の普及によって水田の耕起時期が早くなり本種の開花・結実期と重なるようになったため、急激に減少したのではないと思われる。平野部に生育するため開発の影響も大きく、水田の宅地化によりすでに絶滅した場所もあると思われる。

【保全上の留意点】

現実に生産活動が行われている場所に生育しているだけに、保全はなかなか困難である。現在生育している場所でも、いつまで現状のままの水田耕作が続くか、わからない。市街地化の進行に伴う農地の減少や水の汚染、帰化植物の増加による圧迫など、懸念材料も多い。保険的措置として、公的機関の手による人為的な系統保存も考慮する必要がある。

【特記事項】

直立する太い花序が特徴である。学名の種小名はしばしば *humidorum* と綴られるが、これは不適切である。

【関連文献】

平草本 I p.117、SOS 旧版 p.98+図版 25、環境庁 p.577。
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.426-427. 平凡社, 東京。

ウキガヤ *Glyceria depauperata* Ohwi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。水生のイネ科植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、開発等により消滅するおそれ大きい。

【形態】

多年生の水草。稈の基部は長く水底をはい、節から根を出し、上部は水面に浮くか水面から立つ。葉は互生し、葉身は狭線形、長さ 5~10cm、幅 2~4mm、葉鞘はほとんど平滑で、葉舌は長さ 2~5mm ある。花期は 5~7 月、円錐花序は細く、長さ 10~25cm、枝は直立し、そのためほとんど穂状に見える。小穂は円柱状、長さ 10~25mm、淡緑色、7~15 個の小花からなり、苞穎は膜質で小さい。小花の護穎は長さ 3~5mm、7 脈があり、芒はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手 (小林 52749)。2 カ所に生育しているだけである。

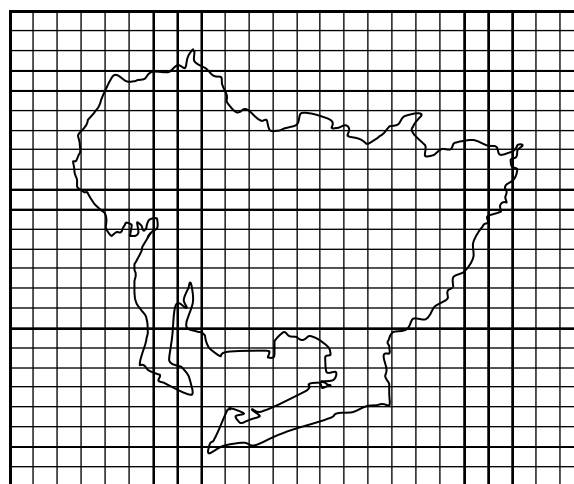
【国内の分布】

北海道、本州。

【世界の分布】

日本および中国大陸北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

池沼や水路などの水辺に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○			

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 カ所のうち 1 カ所は水田の畔のわき、他の 1 カ所は小水路の縁である。以前には相当数が生育していたが、農地整備や河川改修により激減し、現在では僅かに残存しているにすぎないという。

【保全上の留意点】

イネ科植物は目立たないため、希少性に気づかぬまま工事等が行われてしまう可能性が高い。河川改修などの際には、特に注意が必要である。

【特記事項】

小花の護穎が長さ 3mm 程度のものをヒメウキガヤ、長さ 5mm 程度のものをウキガヤ var. *infirm* (Ohwi) Ohwi として区別することがある。区別した場合、愛知県のはウキガヤである。幡豆 (幡豆町) には、よく似た帰化植物のセイヨウウキガヤが生育している。イネ科には湿地性のものは多いが、水草になるものは少ない。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.327、平草本 I p.110、SOS 旧版 p.100。
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.210-211. 平凡社, 東京。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.64. 文一総合出版, 東京。

ムカゴツヅリ *Poa tuberifera* Faurie ex Hack.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。深山性の植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。稈は少数が束生し、高さ 20～40cm、基部の 2～3 節間は数珠状に肥厚し、暗紫褐色になる。葉は互生し、葉身は細い線形、長さ 5～15cm、幅 2～4mm、両面平滑で柔らかく、葉鞘は背に稜があり、葉舌は長さ 1～2mm である。花期は 5～6 月、円錐花序は長さ 8～15cm、枝はまばらに出て糸状、先はまたまばらに分枝して、1～3 個の小穂をつける。小穂は楕円形、長さ 5～6mm、2～4 個の小花からなり、第 1 苞穎は長さ 2.5～3mm、第 2 苞穎は長さ 3～4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（小林 37067）、鳳来北東部（小林 50696）。

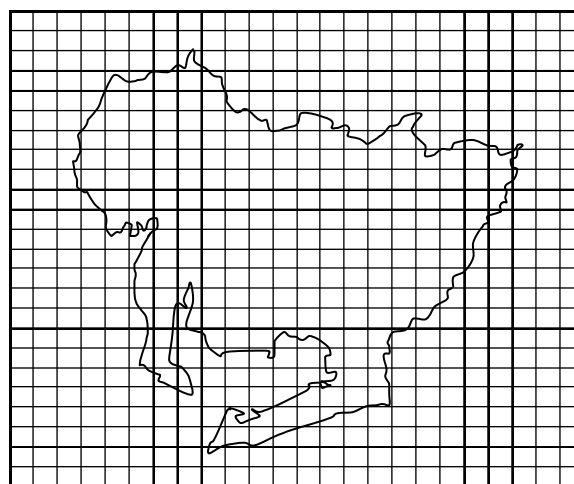
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。しばしば岩上に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に生育しており、設楽西部は個体数が比較的多いが、鳳来北東部はごく少量らしい。伐採や林道工事により林地が荒れ、減少している。三重県藤原岳には比較的多かったがシカの食害により激減しており、愛知県のものもそのうちに同様の状態になるおそれがある。

【保全上の留意点】

イネ科植物は目立たないものが多く、希少性に気づかないまま工事等が行われる可能性が高い。本種の場合も、希少性を認識することが先決である。

【特記事項】

和名は、稈の基部が数珠状にふくらむからである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.324、平草本Ⅰp.111、SOS 旧版 p.100。
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.170-171. 平凡社, 東京.

ハネガヤ *Stipa pekinensis* Hance

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。稈は束生し、高さ 80~150cm になる。葉は叢生し、葉身は線形、長さ 30~60cm、幅 7~15mm、葉鞘は上端部だけに毛があり、葉舌は小さい。花期は 8~9 月、円錐花序は大きく、全体として卵形、長さ 20~40cm、枝は半輪生状、斜めに開出して長く、まばらに枝を分けて 10 個内外の小穂をつける。小穂は長さ 8~12mm、白緑色、1 小花からなり、苞穎は膜質、3 脈があり、2 個はほぼ同長である。小花の護穎は苞穎より短く、長さ約 8mm で短毛があり、長さ 2~2.5cm の芒がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部(小林 62565)、瀬戸尾張旭(日比野修 5312)の 2 区画で確認されている。鳳来北東部で 1978 年に採集された標本もあるという(小林, 2000)。

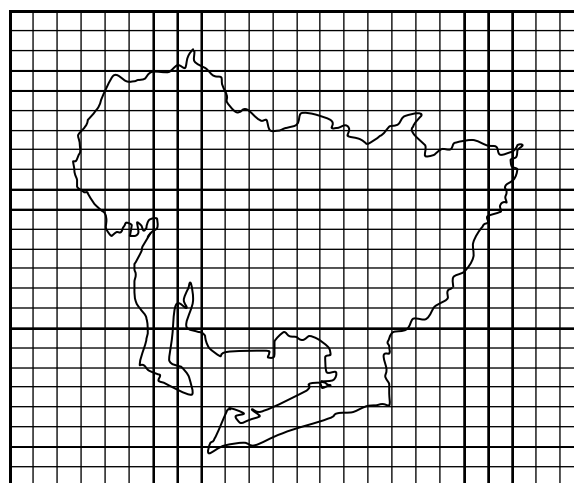
【国内の分布】

北海道、本州。長野県まで行けば、比較的多い植物である。

【世界の分布】

千島列島南部、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸北部、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の明るい林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 区画に各 1 カ所小群落があるだけで、個体数も少ない。瀬戸尾張旭では、周囲の樹木の生長により被陰されて消滅したと思われていたが、他の場所で再発見された。

【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な手入れが必要である。

【特記事項】

和名は属の基準種である *S. pennata* L. の形態に由来するものであり、本種の特徴とは無関係である。

【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.17. 愛知県, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲ p.360、平草本 I p.119、SOS 旧版 p.101.

長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.94-95. 平凡社, 東京.

ヤマトテンナンショウ *Arisaema longilaminum* Nakai

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。分布域の狭い植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 30~100cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 7~17、葉軸はよく発達し、小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁のことが多い。花期は 6 月、仏炎苞は葉より著しく遅れて展開し、葉より高い位置につき、筒部は緑紫色を帯びた白色、長さ 4~6.5cm、口辺は狭く開出し、舷部は濃紫色、長三角形、長さ 6~15cm、やや下向きにまっすぐ伸び、内面の脈が著しく隆起する。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は細い円柱状で上部は前に曲がり、先端は直径 2~5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武 (芹沢 80603)。町内の 2 カ所に生育している。

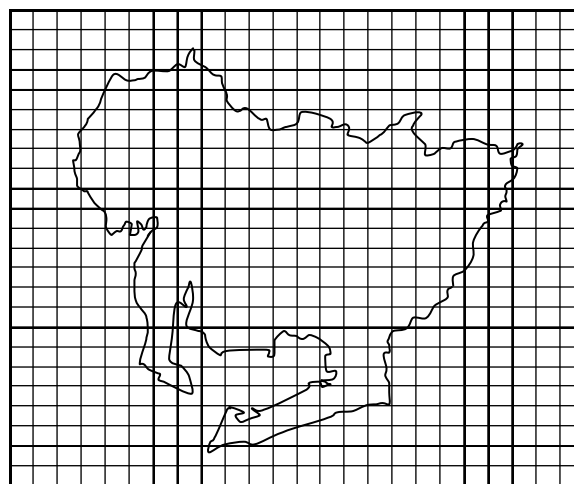
【国内の分布】

本州 (長野県、岐阜県、愛知県、三重県、奈良県) に分布するが、生育地はとびとびで、不連続的である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。散在して生育しているので 1 回の工事等により壊滅的な打撃を受けることはないが、全体的な自然環境の劣化によりいつの間にか消滅してしまうおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の自然環境を全体として保全することが必要である。

【特記事項】

日本産の本属の中では、開花期が最も遅い。

【関連文献】

保草本Ⅲp.207、SOS 旧版 p.102。

ユモトマムシグサ *Arisaema nikoense* Nakai

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯～亜高山性の植物で、愛知県は分布域の南西限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、まわりにいくつかの子球をつけ、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 8～30cm、緑色または紫色で雲状紋はなく、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は通常 5 枚、葉軸が短いので互いに接近してつき、小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯状の鋸歯がある。花期は 5～6 月、仏炎苞は緑色で、葉よりやや早く開き、葉より高い位置につき、筒部は長さ 3.5～8cm、口辺はあまり開出せず、舷部は卵形、長さ 4.5～13cm、先端は鋭頭で、白糸は目立たない。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は棍棒状、先端は直径 4～12mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（芹沢 28092）。茶臼山周辺に生育するだけである。

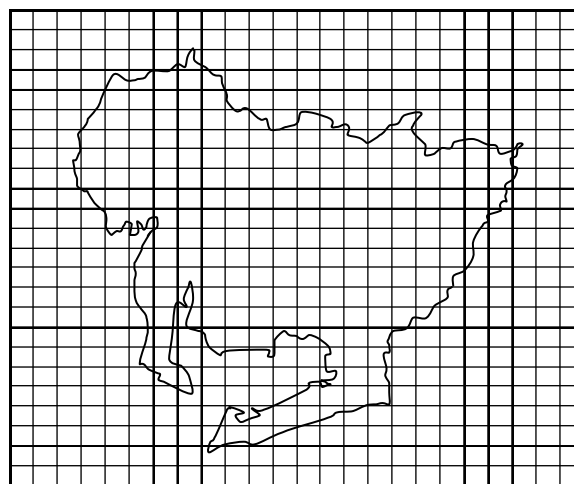
【国内の分布】

本州中北部に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。特定の場所に小群落があるだけという生え方ではないため、1 回の工事等により壊滅的な打撃を受けることはないが、全体的な自然環境の劣化によりいつの間にか消滅してしまうおそれがある。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県では温帯性植物が集中して生育しており、生物多様性を保全する上で極めて重要な場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発は避けるべきである。

【特記事項】

仏炎苞が紫色系の亜・変種は、愛知県には分布していない。

【関連文献】

保草本Ⅲp.208、平草本Ⅰp.133、SOS 旧版 p.102。

ヒロハテンナンショウ *Arisaema ovale* Nakai var.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。温帯性で日本海側に多い植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、まわりに多数の子球をつけ、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 1 個、葉鞘は長さ 20~40cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は通常 5 枚、稀に 7 枚、葉軸が短いため互いに接近してつき、小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁である。花期は 5~6 月、仏炎苞は緑色、葉と同時に開き、葉より低い位置につき、筒部は長さ 3.5~6cm で縦の隆起条が目立ち、口辺は狭く開出し、舷部は卵形、長さ 4~9cm、中央部はあまりふくらまない。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は円柱形、先端は直径 2~7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根(芹沢 51690)。茶臼山周辺に生育するだけである。

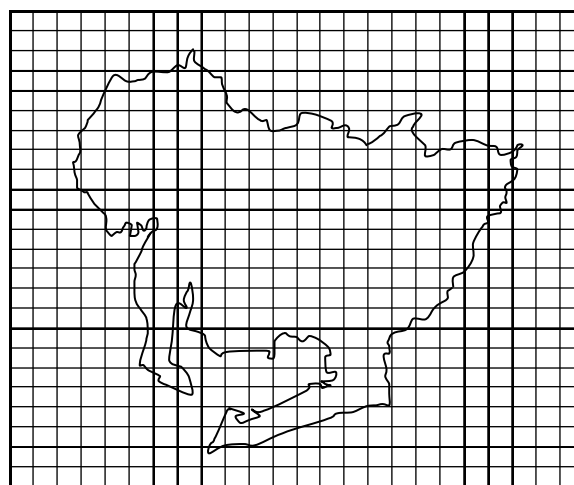
【国内の分布】

北海道、本州(日本海側に多い)、九州北部。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。特定の場所に小群落があるだけという生え方ではないため、1 回の工事等により壊滅的な打撃を受けることはないが、全体的な自然環境の劣化によりいつの間にか消滅してしまうおそれがある。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県では温帯性植物が集中して生育しており、生物多様性を保全する上で極めて重要な場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発は避けるべきである。

【特記事項】

本種は一般に $n=52$ の 4 倍体植物であるが、愛知県産の本種は 3 倍体である(芹沢, 1981)。そのため、固有度階級が 3 と評価されている。ヒロハテンナンショウと名づけられているが、他種に比べ小葉が特に広いことはない。アシウテンナンショウ var. *ovale* から変種の階級で区別した場合、学名は未考証である。

【引用文献】

芹沢俊介, 1981. 日本産テンナンショウ属の再検討(4) ヒロハテンナンショウ群とシコクヒロハテンナンショウ群. 植物分類地理 32: 22-30.

【関連文献】

保草本Ⅲp.201、平草本 I p.132、SOS 旧版 p.102。

ミクニテンナンショウ *Arisaema planilaminum* J.Murata

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。分布域の狭い植物で、愛知県はその南西限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 25~40cm、葉身は鳥足状に分かれ、葉軸は発達し、小葉は 7~13、小葉は狭長楕円形から披針形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯牙状の細鋸歯がある。花期は 5~6 月、仏炎苞は緑色で、葉よりやや遅れて開き、葉とほぼ同じ高さにつき、筒部は長さ 5~7cm、口辺はやや広く開出し、舷部は卵形、長さ 6~9cm、平面的でほとんどふくらまず、白糸も目立たない。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は円柱状、先端は直径 3~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

足助 (芹沢 29311)。県内では足助町中心部周辺の狭い範囲だけに生育している。

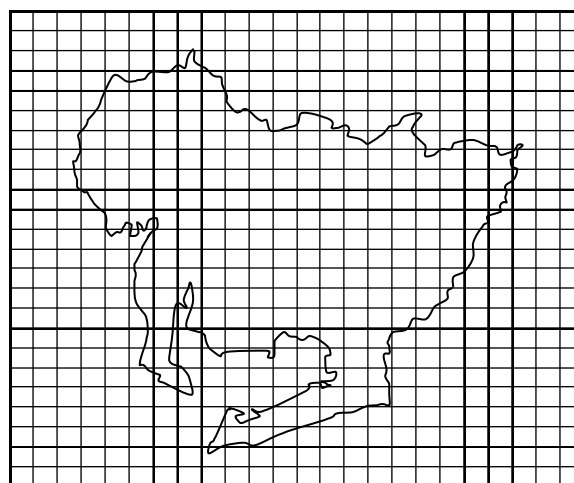
【国内の分布】

本州 (関東地方~愛知県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数もそれほど多いものではない。特定の場所に小群落があるだけという生え方ではないため、1 回の工事等により壊滅的な打撃を受けることはないが、全体的な自然環境の劣化によりいつの間にか消滅してしまうおそれがある。

【保全上の留意点】

地域の自然環境を、全体として保全することが必要である。

【特記事項】

愛知県のものは、仏炎苞舷部がやや長い個体が多い。

【関連文献】

SOS 旧版 p.102。

ミヤママムシグサ *Arisaema* sp.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。山地性の植物で、愛知県は分布域の南西限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 35~80cm、葉身は鳥足状に分かれ、葉軸は発達するがマムシグサ群としては比較的短く、小葉は 9~15、狭長楕円形から披針形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯状の細鋸歯がある。花期は 5~6 月、仏炎苞は緑色で、葉より遅れて開き、葉よりやや高い位置につき、筒部は長さ 5.5~7.5cm、口辺はやや広く開出し、舷部は卵形、長さ 7~10cm、先端は鋭尖頭となる。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は細い棒状、先端は直径 1.5~5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (村松正雄 15276)。豊田北西部 (猿投山, 芹沢 36656, 1983-5-5) でも 1 回採集されたことがあるが、ここではその後確認できない。

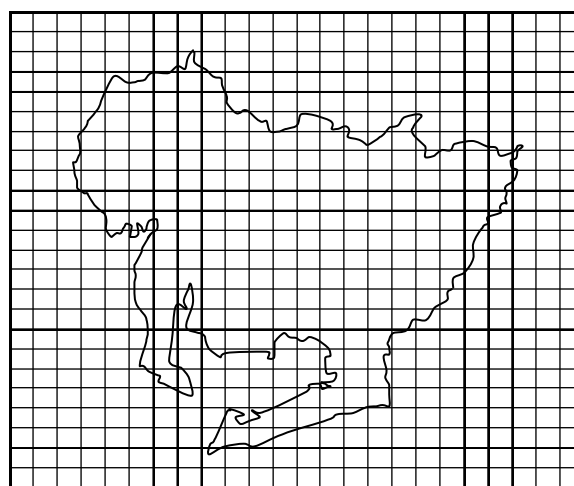
【国内の分布】

本州 (中部地方太平洋側の深山) に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊根でも個体数は極めて少なく、偶然行き当たるとい程度の頻度にすぎない。牧場等として開発される前は、もう少し多かったのではないと思われる。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県では温帯性植物が集中して生育しており、生物多様性を保全する上で極めて重要な場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発は避けるべきである。

【特記事項】

未記載のマムシグサ群の 1 種で、この群の中では最も深山性の植物である (芹沢, 1988, 1997)。

【引用文献】

- 芹沢俊介, 1988. 岐阜県のテンナンショウ属. 岐阜県植物研究会誌 5: 1-14.
芹沢俊介, 1997. 長野県のテンナンショウ属. 長野県植物研究会誌 30: 1-15.

ヒメザゼンソウ *Symplocarpus nipponicus* Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。短い根茎がある。葉は早春に出て束生し、外部のものは膜質で葉身が退化し、内部のものは長さ 7~30cm の柄と葉身がある。葉身は長卵状心形または卵状長楕円形、長さ 10~20cm、幅 7~12cm、先端は鈍頭、基部は心形または切形、辺縁は全縁、両面無毛である。花期は 6 月、花序は肉穂状で短い柄があり、葉よりも後に出て地表近くにつき、広楕円形、長さ約 1cm、付属体はない。花は両性で、4 個の花被片、4 個の雄ずい、1 個の雌ずいがある。仏炎苞はボート状で質が厚く、長さ 3~5cm で、暗紫褐色をおびる。果実は夏冬を越して、翌春熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（芹沢 54674）。1 カ所の 2 地点で確認されている。

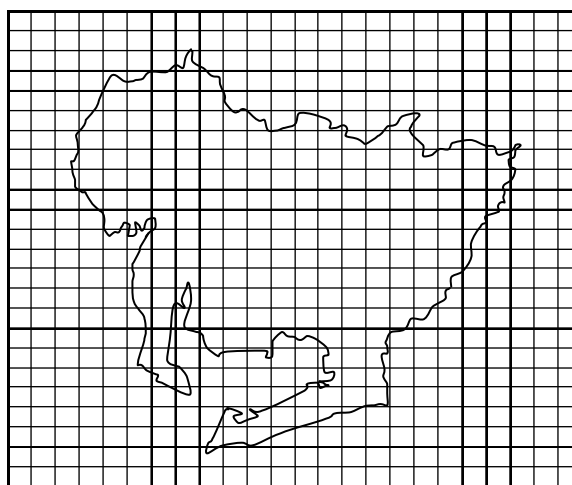
【国内の分布】

北海道、本州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の、湧水のある湿地の周辺部の、林縁や林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

辛うじて農地化を免れた山すその湿地に、僅かに残存している。開発前には、あちこちに生育していたのではないと思われる。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全するとともに、林を皆伐しないことが必要である。

【特記事項】

葉は一見したところウバユリに似ているので、調査の際には注意を要する。ザゼンソウ *S. foetidus* Nutt. var. *latissimus* (Makino) H.Hara は隣接する長野県側にはあるが、愛知県ではまだ確認されていない。県境を越えて愛知県側で発見される可能性も皆無ではなく、更に探索を要する。

【関連文献】

保草本Ⅲp.191、平草本 I p.138、SOS 旧版 p.103。

オオタマツリスゲ *Carex filipes* Franch. et Sav. var. *rouyana* (Franch.)Kükenth.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。県内では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、株をつくる。茎は高さ 30~50cm、3 稜があり、基部の葉鞘は淡褐色で、時に一部のみ赤紫色、後に繊維状になる。葉は細い線形、幅 3~6mm である。果期は 4~6 月、小穂は 3~4 個、互いに離れてつき、頂小穂は雄性、披針形~線形で長さ 1~2cm、側小穂は雌性でまばらに 3~5 個の果胞をつけ、長さ 1.5~2.5cm、下部のものは長い柄があって下垂する。苞は葉状で、最下のものの基部は長い鞘となる。果胞は紡錘状卵形、長さ 6~7mm、無毛、長い嘴がある。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

藤岡（芹沢 81440）、犬山（芹沢 51246）。

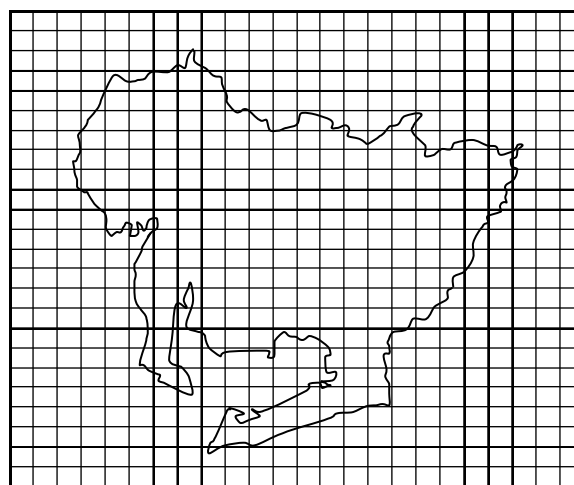
【国内の分布】

本州中部に生育する。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地や低山地の、林内の明るくやや湿った場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に小群落がある。踏みつけや道路の拡幅により消失する可能性がある。

【保全上の留意点】

目立たない植物なので、遊歩道の整備などに際しては注意が必要である。

【特記事項】

タマツリスゲ var. *filipes* に似ているが、全体にやや大きく、茎の基部の葉鞘は淡色、頂小穂に長い柄があり、小穂につく果胞は多く、またやや大型である。なお、ヒロハノコジュズスゲ *C. jackiana* Boott subsp. *tsukudensis* T.Koyama は愛知県作手村産の標本をもとに記載された植物で、コジュズスゲに比べ全体に大型で葉の幅が広く、果胞の嘴が短いと言う。しかし、コジュズスゲとの差違は明確でなく、分類群としての独立性について更に検討が必要である。レッドデータブックあいち 2001 植物編では絶滅危惧 I B 類と評価したが、今回は評価を保留しておく。

【関連文献】

保草本Ⅲp.293、平草本 I p.154、SOS 旧版 p.106。
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.310. 文一総合出版, 東京..

サツマスゲ *Carex ligulata* Nees

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。暖地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。木質の短い地下茎があり、匍匐枝はなく、株を作る。茎は高さ 40~70cm、3稜があり、基部の葉鞘は赤紫褐色で、繊維に分解しない。葉は茎上に互生し、線形、幅 4~8mm、白緑色である。果期は 6~7 月、小穂は 5~7 個が茎の上部に総状にやや離れてつき、頂小穂は雄性、線形で長さ 1~3cm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 1.5~4cm、直径約 4.5mm、柄はほとんど苞鞘の中にある、ほぼ直立する。苞は葉状で、長い鞘がある。果胞は紡錘状楕円形、長さ 4~5mm、密に灰白色の短毛があり、やや長い嘴がある。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部 (小林 52136)。

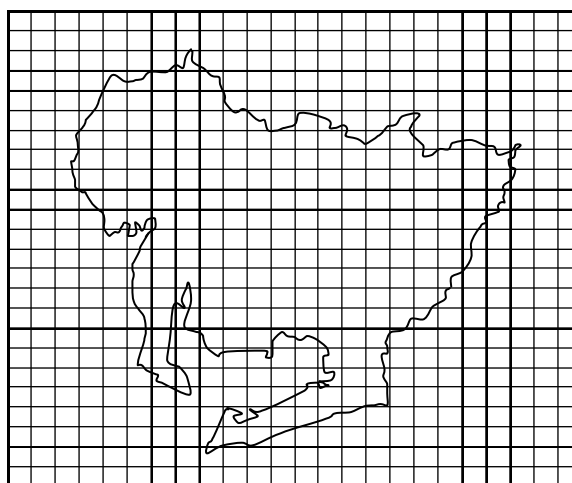
【国内の分布】

本州 (関東地方南部以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、インド。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地の林内や林縁に稀に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

スギ造林地の林縁に、少数株が生育しているという。現在は土地管理者の理解により維持されているらしい。

【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な管理が必要である。また、造林地はいつか伐採されるはずで、その時の林地の攪乱には注意が必要である。

【特記事項】

スゲ属としては珍しく茎が高くなり、多数の葉をつける。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.284、平草本Ⅰ p.150、SOS 旧版 p.104。
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.284. 文一総合出版, 東京..

ヤブスゲ *Carex rochebrunii* Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。やや低湿地性の植物で、県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は短く、株をつくる。茎は束生し、高さ 40～60cm、3稜があり、基部の葉鞘は黒褐色である。葉は細い線形、幅 2～4mm である。果期は 5 月、小穂は 8～10 個、無柄、長楕円形、長さ 8～15mm、いずれも雌雄性で、基部に少数の雄花、その上にやや多数の雌花をつける。苞は葉状で長く、鞘はない。果胞は扁平で長卵形、長さ 4～4.5mm、無毛、先端は次第に細まり、やや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 52059)。

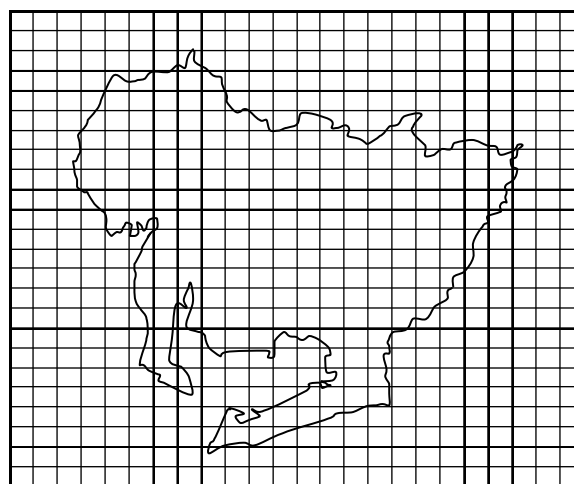
【国内の分布】

本州および四国。

【世界の分布】

日本、中国大陸中南部、ヒマラヤ、マレーシア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

低湿地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

佐久間湖に堆積した土砂でできた低湿地状の場所に、小群落がある。このような環境はダムができる前、あるいはできた直後にはなかったものであり、本種は同所に生育するタコノアシ、ヌマガヤツリなどと共に、比較的近年になって侵入・定着したものと思われる。ただし、現地は近年シカの食害が著しく、不嗜好植物であるナガバヤブマオの群落と化しつつある。

【保全上の留意点】

ニホンジカの食害は、近年生物多様性に対する最大の脅威の一つになっている。個体数調整を急ぐ必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.260、平草本 I p.166、SOS 旧版 p.106。
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.64. 文一総合出版, 東京..

ツルカミカワスゲ *Carex sabynensis* Less. var. *rostrata* (Maxim.) Ohwi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯域の湿地性植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。長い匍匐枝があり、株を作る。茎は高さ 20~50cm、3稜があり、基部の葉鞘は茶褐色~暗褐色で、著しく繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2~3mm である。果期は 5~7 月、小穂は 2~3 個、茎の上部に互いに接近してつき、頂小穂は雄性、線状楕円形で長さ 1~1.5cm、側小穂は雌性で卵形~長楕円形、長さ 0.5~1.5cm、ほとんど無柄である。苞は刺状で、長さ 3~10mm の鞘がある。果胞は紡錘状楕円形、長さ約 3mm、まばらに短毛があり、先端の嘴はやや短い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

額田 (小林 56737)。作手 (鴨ヶ谷, 鳥居喜一 s.n., 1955-5-29, TNS) で採集された標本もある。

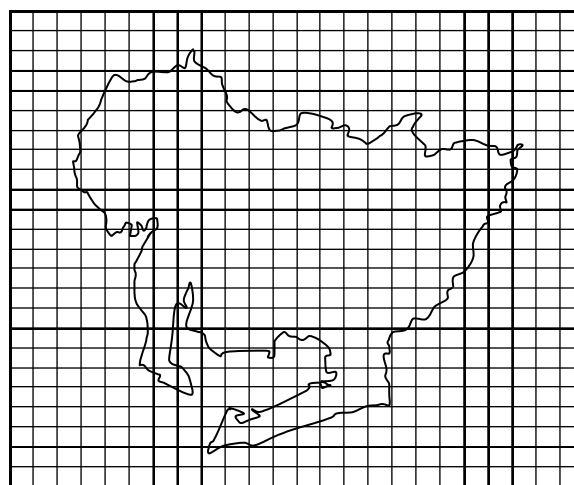
【国内の分布】

本州 (関東地方、中部地方)、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の草原や湿原に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は少ない。現在のところ減少傾向は認められないが、湿地にイヌツゲ等の低木が侵入しており、将来的には被陰により衰退するおそれがある。また近くまで林道が伸びており、土砂の流入によって湿地が埋没するおそれもある。

【保全上の留意点】

低木を除去し、湿草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

目立たない植物なので、他に自生地がないか、更に探索する必要がある。基準変種のカミカワスゲ var. *sabynensis* は匍匐枝の出ない型で、愛知県では確認されていない。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.276、平草本 I p.160、SOS 旧版 p.106。
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.251. 文一総合出版, 東京..

ヒメアオガヤツリ *Cyperus extremeorientalis* Ohwi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。低湿地性の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

1 年生草本。茎は束生し、高さ 3~5cm、基部は赤紫色を帯びる。葉は茎の下部につき、線形、幅 1mm 程度である。花期は 9~10 月、花序は茎の先端につき、頭状で球形~広卵形、長さ、幅共に 7~10mm、苞は数個あって葉状、長さ 3~6cm である。小穂は淡緑色、披針形~広披針形、長さ 3~5mm、やや扁平で、鱗片は 2 列につく。果実は長楕円形、縁は鋭形であるが翼はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋北部（芹沢 78213）。

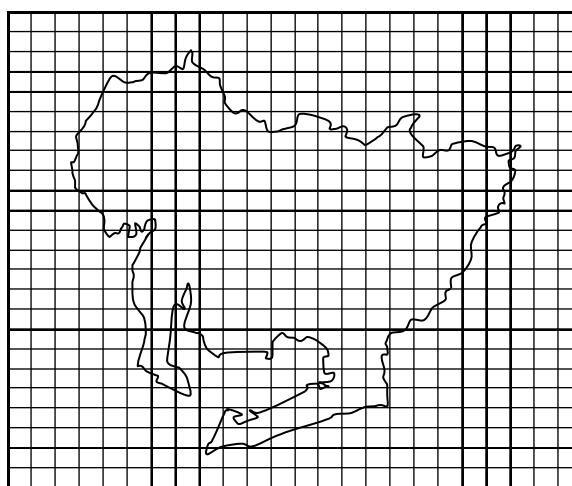
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

干上がったため池の岸に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は年による変動が大きいと思われるが、2002 年は干上がった底土上に散在していた。その後の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

生育地は緑地公園内のため池なので、池自体は当面は現状どおり残されると思われる。時折水を落とすなど、ため池の適切な管理を継続することが必要である。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県に生育することが確認された種類で、シロガヤツリ *C. pacificus* (Ohwi) Ohwi に似るが、小穂の鱗片は基部まで 2 列につく。

【関連文献】

保草本Ⅲp.245、平草本Ⅰp.184。

オオシロガヤツリ *Cyperus nipponicus* Franch. et Sav. var. *spiralis* Ohwi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。低湿地性の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

1 年生草本。茎は束生して株になり、高さ 10～25cm になる。葉は線形、幅 1～2.5mm、下部は葉鞘となる。花期は 8～10 月、花序は頭状で多数の小穂を密生し、しばしば 1～5 個の枝を出し、苞は 2～3 個で葉状、花序よりはるかに長い。小穂は披針形、長さ 3～7mm、幅 1.5～2mm、淡緑色、鱗片はらせん状につき、卵形、長さ 1.7～2mm、そのため小穂は扁平にならない。果実は楕円形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山 (芹沢 70938)。

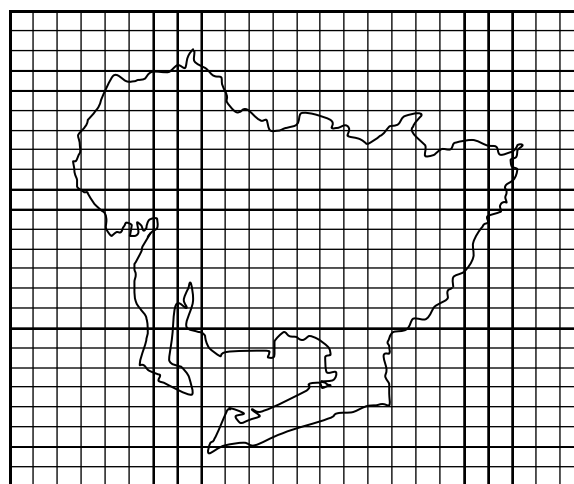
【国内の分布】

本州 (東海地方以西)、四国。

【世界の分布】

日本および中国大陸中部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

干上がったため池の岸などの、湿った半裸地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内では、入鹿池の岸で確認されているだけである。個体数は年による変動が大きく、水位が大幅に低下した年にはある程度の個体が見られるが、水が引かない年には出現しないこともある。水質が大きく変わらなければ、現状のまま存続するものと思われる。

【保全上の留意点】

入鹿池は愛知県内で最大のため池で、水が引くと底土が広く干出し、本種以外にもコゴメカゼクサ、トネテンツキなどいろいろな植物が出現する。水質や水辺地形を注意して保全すると共に、現在の水管理を今後とも継続する必要がある。

【特記事項】

基準変種のアオガヤツリは県内にやや普通に見られる植物で、小穂の鱗片が 2 列につく。

【関連文献】

保草本Ⅲp.245、平草本 I p.184、SOS 旧版 p.106。

ノグサ *Schoenus apogon* Roem. et Schult.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県では湧水湿地の周辺部に生育する。総点は 13 であるが、遷移の進行による生育地の減少傾向が特に著しいので EN と評価する。

【形態】

1 年生草本。根茎はない。茎は束生して直立し、平滑で無毛、高さ 10~25cm になる。葉は根生するほか茎の中部にも 1~2 個つき、細い線形、幅約 0.5mm、葉鞘は長さ 1~2cm で一部赤紫色になる。花期は 6~8 月、花序は 2~3 個に分かれ、散状または頭状で、長さ幅ともに 0.8~1.5cm、数個の小穂をつける。小穂は披針形、長さ 4~6mm、扁平で一部赤褐色をおびる。果実は球形、長さ約 1mm、白色、刺針状花被片は 6 個で、長さ約 2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 63712）、豊橋北部（小林 63697）、豊橋南部（芹沢 58593）、田原赤羽根（芹沢 58604）、渥美（芹沢 58222）、半田武豊（芹沢 55105）。幡豆（佐久島）からも報告されている（小林・深谷, 2008）。以前はあちこちにあった植物らしく、名古屋北部（東山, 井波一雄 s.n., 1940-4-30, CBM70351）、名古屋南東部（鳴海町, 井波一雄 s.n., 1941-5-18, CBM70352）で採集された標本もある。

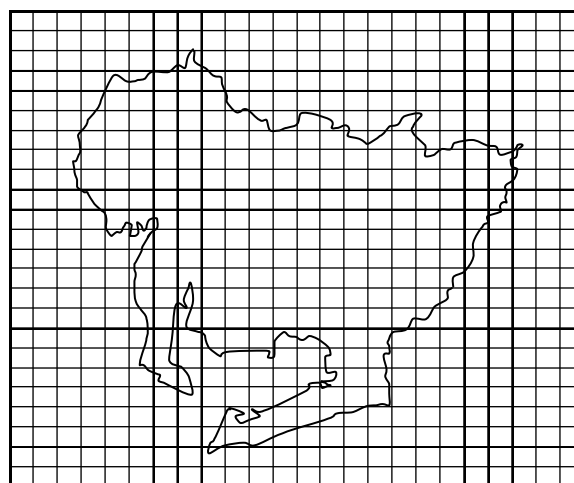
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、マレーシア、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の、日当たりのよい、やや湿った半裸地に生育する。愛知県での生育地は、ほとんどが湧水湿地周辺部である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河南部には点在していたが、本種が生育するような場所は概して遷移が進行し、コシダや低木等が侵入して、存続が困難な状況になりつつある。ほとんどの生育地は最近現地を訪れていないが、おそらく危機的な状況で、一部では既に絶滅した可能性が高い。上記の集団数は推定値である。

【保全上の留意点】

湧水湿地の保全が必要である。湿地周辺の樹木を伐採して持ち出し、やせ山状態を維持することも必要である。半田武豊の生育地は、特に保全上の配慮が望ましい。

【特記事項】

目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.113, 283. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保草本Ⅲp.251、平草本 I p.171、SOS 旧版 p.107、SOS 新版 p.107,109.

イワチドリ *Amitostigma keiskei* (Maxim.)Schltr.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。岩崖地に生育するラン科植物で、全国的にも愛知県でも園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。紡錘状に肥厚した根がある。茎は斜上し、高さ 5~15cm になる。葉は茎の中部に 1 個つき、長楕円形、長さ 3~7cm、幅 6~15mm、先端は鋭頭、辺縁は全縁、基部は茎を抱く。花期は 4~6 月、花は茎の上部に一方に傾いて数個つき、淡紅紫色、苞は披針形、長さ 4~10mm である。背がく片は楕円形、長さ 3.5~4.5mm、側がく片は斜長楕円形でやや短く、側花弁は斜卵形、背がく片とほぼ同長、辺縁に紅紫色の斑点がある。唇弁は長さ 10~12mm、大きく開出し、3 深裂して中央裂片の先端はさらに 2 裂し、各裂片は幅約 2mm、基部に紅紫色の斑点がある。距は白色、長さ 1.5~2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

比較的最近では藤岡（塚本威彦 149, 1992-6-14）と犬山（平嶋 敏 452, 1989-5-9）で生育が確認されている。どちらの場所も最近の調査では現存を確認できないが、十分に探索したわけではないので残存の可能性は残されている。東栄（加藤等次 s.n., 1968-6-2）、鳳来北東部（三輪村川合、鳥居喜一 12260, 1947-6-1, HNSM）、新城（奥井道、鳥居喜一 6139, 1966-5-1, HNSM）、旭（大原準之助 s.n., 1965-7-20）、豊田北西部（岡本英一 281, 1958-5-19）で採集された標本もある。

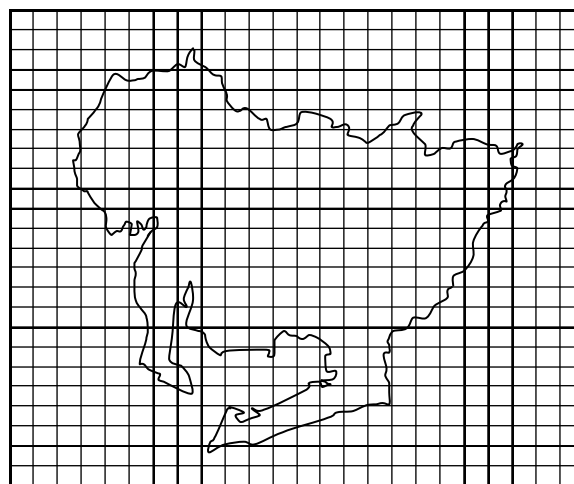
【国内の分布】

本州（中部地方、近畿地方）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

川沿いなどの湿った岩場に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地としてはやや条件の悪い場所に、辛うじて残存しているという状況である。本種の場合、全国的には山草業者による商業的採取が問題とされることが多い。しかし山草業者による採取は、個体数があるレベル以下にまで減少すれば、採算がとれないため停止される。愛知県の状況は、すでにそのレベルを割り込んでいる。ここまで減少させたという点で商業的採取の責任は大きい。現在僅かに残存している集団に対する最大の脅威は、むしろ好事家の手で絶滅するまでくり返される、非商業的採取である。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.13、平草本 I p.200、SOS 旧版 p.109+図版 29、環境庁 p.395、SOS 新版 p.43,45。

オオミヤマウズラ *Goodyera* sp.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。本地域の湧水湿地を中心に分布する未記載のラン科植物。かつては比較的多い場所もあったが、近年激減している。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は横にはい、先端は直立して高さ 25~40cm になる。葉は直立部の基部に数個が互生し、長さ 0.5~1.2cm の柄があり、葉身は長卵形~楕円形、大きいもので長さ 4~6.5cm、幅 2~2.5cm、先端は鋭頭、表面は全体緑色のことが多いが白斑が入ることもある。葉柄の基部は葉鞘となって茎をつつむ。花期は 9 月、花は茎の上部に 0.7~2cm の間隔で 8~14 個つき、白色で平開せず、花被片は長さ 10~13mm、苞は広披針形で長さ 6~17mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美 (小林 73668)、旭 (芹沢 62497)、豊田北西部 (芹沢 82210)、幸田 (金子律子 1275)、幡豆 (岡田 速 28)、瀬戸尾張旭 (塚本威彦 2924)、小牧 (小林 60932)、春日井 (山田果与乃 1256)、名古屋北部 (芹沢 83258)。

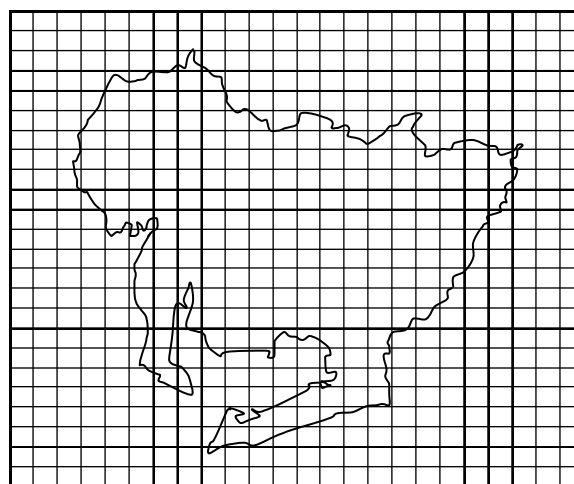
【国内の分布】

本州中部。関東地方南部~三重県に点在しているらしい。宮崎県で採集されたという栽培株を見たこともある。

【世界の分布】

日本固有種

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の湧水湿地周辺に成立する湿地林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

丘陵地に点在しており、以前はかなり個体数の多い場所もあったが、近年激減してどこも僅かに残存しているという状態になってしまった。環境がほとんど変化していない場所でも減少していることから原因としては園芸目的の採取が疑われるが、確証はない。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ミヤマウズラに似ているが、全体に大型、葉は白斑が入らないことが多く、花は大きくて平開せず、互いにやや離れてつき、花期も半月以上遅い。一部の場所ではミヤマウズラと混生しているが、形態的な差は明瞭で中間型は出現しない。

ウスギムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。西日本系の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

腐生の多年生草本。地下茎は長さ 3~5cm、木質で硬く、はじめ下を向き、すぐ反転して地表近くまで伸び、長さ 4~5mm の鱗片葉をつける。根は下向き~反転部から逆向してやや下向きに出る。地上茎は直立し、高さ 13~20cm、黄褐色、3~4 個の鱗片葉を互生する。鱗片葉は長さ 4~6mm、先端は鈍~鋭頭である。花期は 6 月、花は茎の上部部に 2~6 個つき、長さ 1~5cm の総状花序となり、淡黄褐色、筒状で半開し、苞は三角形で長さ 3~4mm である。がく片は倒披針形、長さ 13~15mm、側花弁はやや幅が広い。唇弁は長さ 10~12mm、3 裂するが側裂片は小さく、中裂片は肉質で先が紅色の毛状突起が密生する。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸尾張旭 (芹沢 76784)。豊橋市にもあるという話だが、標本はまだ確認できていない。

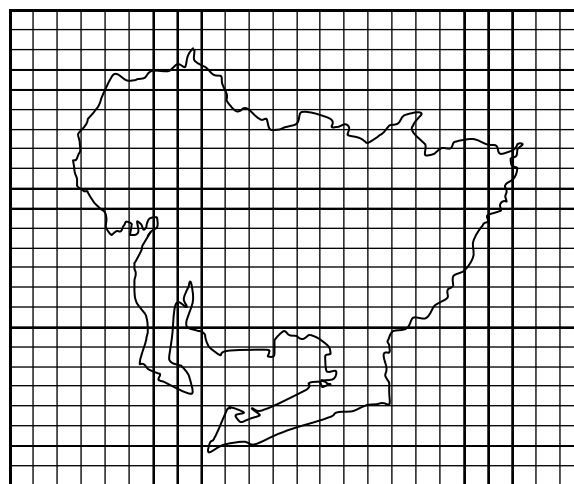
【国内の分布】

本州 (中西部)、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の常緑広葉樹、または落葉広葉樹の二次林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1 カ所に小群落がある。生育状況には年変動があり、2000 年はかなりの個体数が見られたので個体数階級を 3 としたが、その前数年間はほとんど出現せず、2001 年以降も少数である。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

根が浅く、植物体が小さく、花も小さいなどの点でエンシュウムヨウランに似ているが、花期が 10 日ほど遅く、唇弁の毛が紅色を帯びる。

【関連文献】

保草本 III p.28、平草本 I p.206。

ギボウシラン *Liparis auriculata* Blume

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。山地性のラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 15~30cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1~2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の基部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は広卵形、長さ 5~12cm、幅 3~8cm、先端は急鋭頭、基部は円形~浅い心形でやや鞘状に茎を抱き、葉脈はくぼむ。花期は 7~8 月、花は花茎の上部に十数個つき、通常白色、苞は披針状 3 角形、長さ約 2mm である。がく片は線状楕円形、長さ 5~6mm、先端は鋭頭、側花弁は線形で鈍頭、唇弁は倒卵状くさび形、がく片とほぼ同長で円頭、舷部中央に暗紫色の着色部がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 52809)、豊根 (小林 38398)。

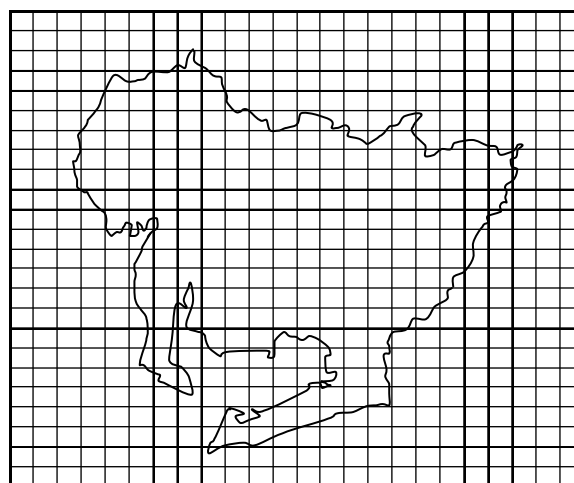
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および済州島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ、2 カ所で少数株が確認されている。他にも 1 カ所あったが、山草愛好家に持ち去られたらしく、消滅した。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、葉の脈がくぼんで、ギボウシの葉に似ているからである。

【関連文献】

保草本 III p.50、平草本 I p.219、SOS 旧版 p.112。

フウラン *Neofinetia falcata* (Thunb.)Hu

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。広く観賞用に栽培される植物で、園芸目的の採取圧が高い。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は短く、古い葉の基部に覆われる。葉は2列に密に互生し、2つに折れて断面がV字形となり、湾曲して開出し、広線形、長さ5~10cm、幅7~8mm、革質で硬い。花期は6~7月、下部の葉腋から3~10cmの花茎を出し、その先端に白色の花を2~5個つける。苞は卵状披針形、長さ4~7mmである。がく片と側花弁は同形、線状披針形、長さ約10mm、先端は鋭頭、唇弁は舌状、長さ7~8mm、中部で3裂し、側裂片は半円形、中裂片は狭卵形である。距は長く、線形で湾曲し、長さ約5cmになる。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（小林 63085）、新城（小林 48912）、豊川宝飯（小林 47292）。岡崎北部でも見ているが、高い位置に着生しているため、裏付け資料を採取できない。

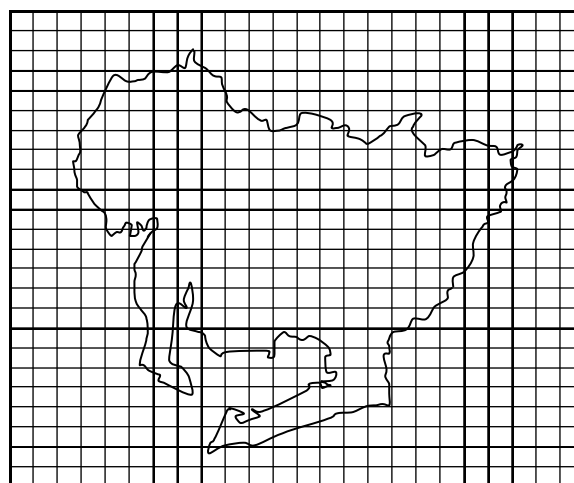
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

常緑広葉樹の樹上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は少なく、しかも手が届く範囲にはほとんどない。昔から観賞用に広く栽培される植物で、よほど高い位置に着生していない限り、すべて持ち去られてしまう。手が届かない位置にあるものも、近年の気候の乾燥化により、衰退傾向にあるのではないかとと思われる。

【保全上の留意点】

本種が着生しているような老樹を保全することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.62、平草本Ⅰp.233、SOS旧版p.113、環境庁p.617。

ウチョウラン *Orchis graminifolia* (Reichb.f.)Tang et Wang

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的にも愛知県でも園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。根は球状に肥厚する。茎は斜上し、高さ7~20cm。葉は2~3個が互生し、線形~広線形、長さ7~12cm、幅3~8mm、上方はやや湾曲し、先端は鋭尖頭、基部はやや茎を抱いて葉鞘となる。花期は6~8月、花は茎の上部に数個が一方に傾いてつき、紅紫色、苞は狭披針形、長さ7~12mmである。背がく片は卵円形、側がく片と側花弁は斜卵形で、長さ5~6mm、唇弁は深く3深裂して開出し、長さ幅ともに約13mm、中裂片の先端は円頭または微凹頭となる。距は長さ10~15mm、先端は湾曲して前方を向く。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(小林 44945)、設楽東部(山崎玲子 1616)、鳳来北東部(加藤等次 1591)。豊根(加藤等次 s.n., 1968-8-2)で採集された標本もある。

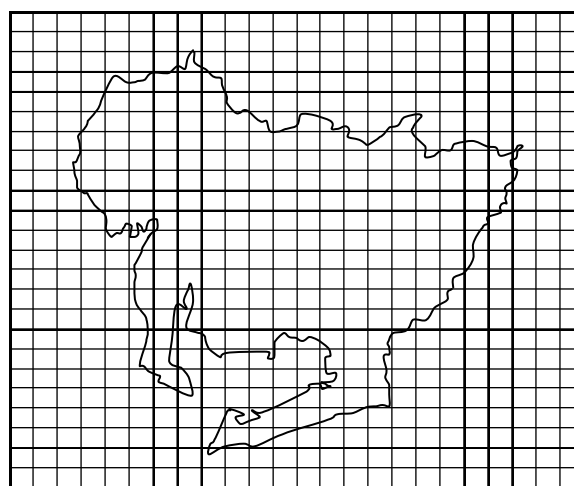
【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の湿った岩壁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

全国的には、山草業者による商業的採取が問題とされることが多い。しかし山草業者による採取は、個体数があるレベル以下にまで減少すれば、採算がとれないため停止される。愛知県の状況は、すでにそのレベルを割り込んでいる。ここまで減少させたという点で商業的採取の責任は大きい。現在僅かに残存している集団に対する最大の脅威は、むしろ好事家の手で絶滅するまで繰り返される、非商業的採取である。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ヒナチドリ *O. chidori* (Makino) Schltr. も愛知県(設楽町段戸山、稲武町舟山)にあると報告されている(大原, 1971)が、確実な標本資料がないため、今回のリストには掲載されていない。

【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.152. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.11、平草本Ⅰp.200、SOS旧版 p.114、環境庁 p.619.

トキソウ *Pogonia japonica* Reichb.f.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有度階級 2。貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。地下茎は細くてやや硬く、長く横にはう。地上茎は直立し、高さ 10~30cm になる。葉は茎の中部に 1 個つき、無柄、葉身は披針形~線状長楕円形で、長さ 4~10cm、幅 7~12mm、先端は通常鋭頭、基部は次第に細まって茎に翼状に流れ、鞘をつくらない。花期は 5~7 月、花は茎の先端に 1 個つき、横向きに開いて淡紅色、苞は葉状で披針形、長さ 2~4cm である。背がく片は長楕円状倒披針形、長さ 1.5~2.5cm、幅 3~5mm、先端は鈍頭、側がく片はやや幅が狭く、側花弁は長楕円形、がく片よりやや短い。唇弁はがく片と同長、3 裂し、側裂片は 3 角形で翼状、中裂片は大きく、内面や辺縁に肉質の毛状突起が密生する。距はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(芹沢 55562)、作手(芹沢 56040)、豊橋北部(瀧崎吉伸 9419)、渥美(芹沢 58623)、稲武(日比野修 4013)、小原(日比野修 3669)、藤岡(日比野修 2900)、豊田東部(芹沢 58678)、豊田北西部(芹沢 54943)、岡崎南部(芹沢 51606)、瀬戸尾張旭(日比野修 429)、日進長久手(渡辺昌代 s.n.)、犬山(芹沢 55634)、春日井(芹沢 55630)。ただし設楽西部は湿地の埋め立て、岡崎南部と犬山は園芸目的の採取により絶滅した。新城(有海原, 鳥居喜一 6465, 1968-6-22, HNSM)、名古屋北部(東山, 井波一雄 s.n., 1967-6-15, CBM222750)、名古屋南東部(天白村, 井波一雄 s.n., 1952-6-25, CBM235976) で採集された標本もある。

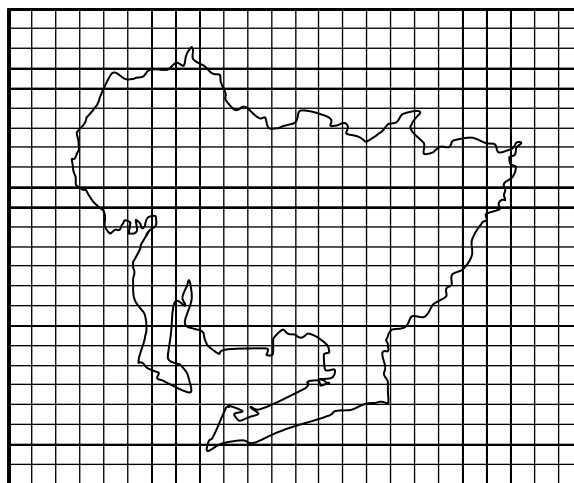
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育するが、北日本に多い。

【世界の分布】

千島列島、日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

【現在の生育状況 / 減少の要因】

かつては本地域の湿地にかなり普通に見られたらしいが、花が美しいため集中的に乱獲され、激減した。どの湿地でも、人が入れば最初に消失するのは本種であると言ってよいほどである。長く横走する根茎の途中から新株を出すため、繁殖力がそれほど弱いとは思えないが、採取圧はそれをはるかに上回っている。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

一方春日井市の築水池北岸は、容易に人が接近できないため本種が安心して生育できる数少ない場所の一つであったが、遊歩道が整備され、誰にもすぐ目につくようになってしまった。一度作ってしまった遊歩道を閉鎖できないとすれば、後は多くの人目で監視していくほかない(山田・芹沢, 2001)。このような場所は、本来は自然の聖域として、遊歩道の設置を避けるべきであった。自然とのふれあいのための施設を整備する際には、十分な事前調査と長期的保全のための配慮が必要である。

【引用文献】

山田果与乃・芹沢俊介, 2001. 野山を歩こう① 築水池・弥勒山の植物. 愛知県植物誌調査会, 刈谷. 32pp.

【関連文献】

保草本Ⅲp.25、平草本 I p.205、SOS 旧版 p.114、環境庁 p.621。

カシノキラン *Saccolabium japonicum* Makino

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する着生植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は短く、先端は斜上し、長さ1~4cmになる。葉は5~15個が互生して2列に並び、倒披針形、長さ3~6cm、幅6~15mm、わずかに湾曲し、革質、先端は鈍~やや鋭頭、基部は短い鞘となって茎をおおう。花期は7~8月、下部の葉腋から花茎を出し、その上部に淡黄色の花を4~10個密につける。苞は3角形、長さ1~2mmである。がく片と側花弁はほぼ同形、長楕円形、長さ約4mm、先端は鈍頭、唇弁は基部が大きくふくらみ、舷部は扇状、大きな黄斑があり、辺縁に不規則な凹凸がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（加藤等次 s.n., 1992-1-13, HNSM）で採集された標本がある。

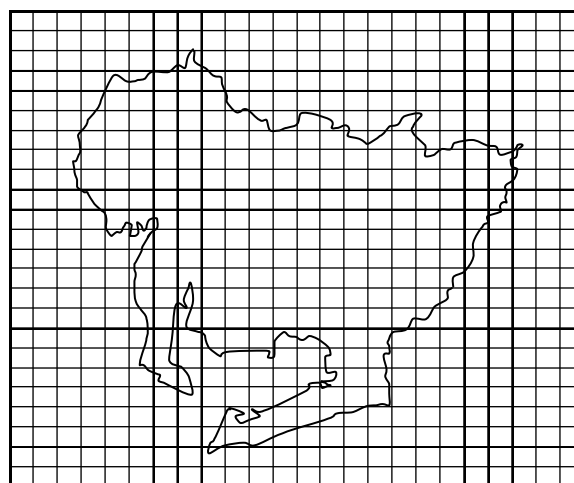
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の常緑広葉樹林の樹上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

木から落ちたものが、偶然採集されただけである。同じ林内の他の木にも着生している可能性が高いが、現存は確認できない。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は嚴重に保全する必要がある。

【特記事項】

ラン科植物の調査は、愛知県では全般的に不十分である。本種に関しても、更に注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.66、平草本Ⅰp.234、環境庁p.621。

マツラン *Saccolabium matsuran* Makino

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する着生植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎ははい、長さ 1~3cm になる。葉は互生して 2 列に並び、長楕円形~線状楕円形、長さ 7~20mm、幅 3~5mm、多少湾曲し、先端は鈍頭、革質で暗紫色の斑紋があり、基部は短い鞘となって茎を被う。花期は 7~8 月、下部の葉腋から長さ 8~10mm の花序を出し、2 個の鱗片葉と 1~4 個の淡緑色で平開する花をつける。苞は 3 角形、長さ 0.5~1mm である。がく片と側花弁はほぼ同形、長楕円形、長さ 3~3.5mm、先端は鈍頭、暗紫色の斑点があり、唇弁は基部が大きくふくらみ、舷部は腎形、先端は鈍頭または切形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部 (山崎玲子 2041)。豊根 (加藤等次 s.n., 1966-6-19)、鳳来北東部 (加藤等次 s.n., 1963-8-3)、旭 (大原準之助 1384, 1951-7-8) で採集された標本もある。

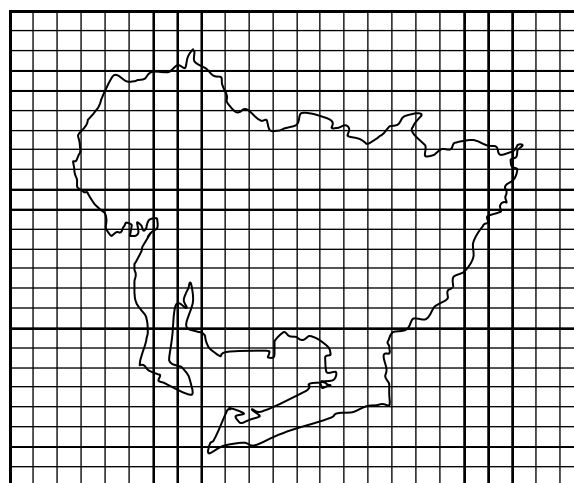
【国内の分布】

本州 (岩手県以南の太平洋側)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の、主としてモミ、ツガなどの樹幹に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

伐採された木についていたものが、偶然採集されただけである。同じ林内の他の木にも着生している可能性が高いが、現存は確認できない。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は嚴重に保全する必要がある。

【特記事項】

ベニカヤランとも呼ばれる。モミラン *S. toramanum* Makino も愛知県 (鳳来町川合) にあると報告されている (大原, 1984) が、写真が不鮮明でよくわからない。確実な標本資料がないため、今回のリストには掲載されていない。

【引用文献】

大原準之助, 1984. 植物新分布報告(13). 植物研究集録, 21: 62-66 + 表紙写真.

【関連文献】

保草本Ⅲp.67、平草本Ⅰp.235、SOS 旧版 p.115.

ムカデラン *Sarcanthus scolopendrifolius* Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。暖地性のラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は硬く、長くはってまばらに分枝する。葉は互生して開出し、左右 2 列に並び、線状楕円形、長さ 7~10mm でやや曲がり、革質で表面に溝があり、先端は鈍頭、基部は鞘となって茎を被う。花期は 6~8 月、葉腋から長さ 2~3mm の花茎を出し、その先端に淡紅色の花を 1 個つける。苞は 3 角形で小さい。がく片と側花弁はほぼ同形、楕円形で長さ約 2mm、先端は鈍頭、唇弁は肉質で、白色、船形、基部はふくらんで短い距となり、先端は 3 裂し、側裂片は耳状、中裂片は 3 角状卵形で鈍頭である。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（小林 63084）、渥美（小林 46015）。

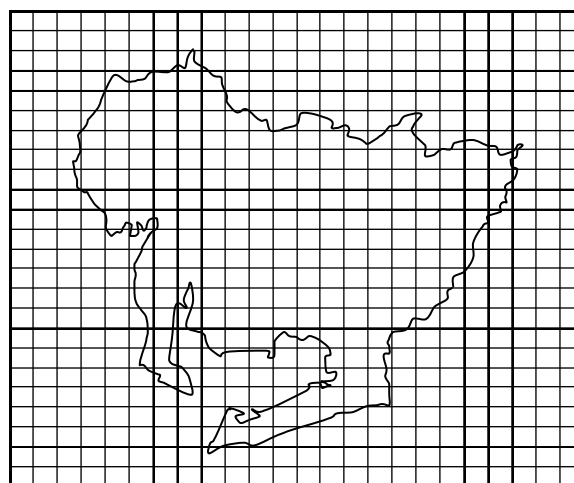
【国内の分布】

本州（関東地方以西の太平洋側）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

岩壁や樹幹上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

数カ所に生育しており、うち鳳来町川合は県の天然記念物に指定されている。変わった形態のランであり、園芸目的の採取が憂慮される。一部の場所では、周囲の樹木が生長して自生地が暗くなり、やや衰退している。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、保護されている場所以外では分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.63、平草本Ⅰp.234、SOS 旧版 p.115、環境庁 p.622。

イヌマムカゴ *Tulotis iinumae* (Makino)H.Hara

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に希少な植物で、県内でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎はやや肥厚し、背側に芽をつける。地上茎は直立し、高さ 25~40cm になる。葉は互生し、中部の 2 枚は大型、葉身は長楕円形、長さ 8~15cm、幅 2~4cm、先端は鈍~円頭、基部は葉鞘となる。上部の葉は小さく、披針形の鱗片状になる。花期は 7~8 月、花は茎の上部に多数穂状につき、黄緑色、苞は線状披針形で長さ 5~7mm である。背がく片は卵形、長さ 1.5~2mm、側がく片は長楕円形、側花弁は狭卵形で、背がく片に接してかぶと状となる。唇弁は卵形、長さ約 3mm、白色、基部の左右に小さい側裂片があり、先端は鋭頭、距は楕円形で、長さ 1~1.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武 (小林 39988)。東栄 (振草村小林、採集者不詳, 1945-8-5, TMNH) で採集された標本もある。

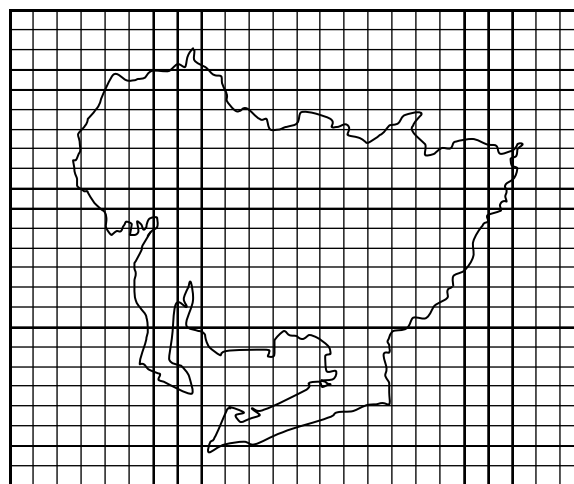
【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸中部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1 カ所に、ごく少数の個体が生育しているだけである。

【保全上の留意点】

全国的に希少な植物であり、生育地の個別的な保全が必要である。花が美しい種類ではないが、希少ということで好事家に採取されるおそれがあり、カメラマンや観察者による攪乱も懸念される。分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、本草書「草木図説」の著者である飯沼欲斎のムカゴソウという意味である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.15、平草本Ⅰp.193、SOS 旧版 p.115、環境庁 p.413。